
三芳町男女共同参画に関する住民意識調査
報告書
【平成 30 年度】

平成 30 年 9 月

三 芳 町

目 次

1. 調査の概要.....	1
2. 調査結果の概要.....	3
3. 調査結果.....	5
I あなた自身について.....	5
II 男女平等意識について.....	11
III 家庭生活（家事・子育て・介護）について	15
IV 就業について.....	28
V 人権の尊重について.....	39
VI 地域での社会参画について.....	53
VII 男女共同参画社会に向けた取組について	62
VIII 自由記述.....	73
4. 調査票.....	821

1.調査の概要

1. 調査の概要

(1) 目的

来年度(31年度)が第3次三芳町男女共同参画基本計画・三芳町DV防止基本計画の中間年度事業評価・見直しの年であり、住民の皆様の男女平等意識や男女共同参画の実態を把握し、基礎資料とするため、「三芳町男女共同参画に関する住民意識調査」を実施しました。

(2) 調査期間

平成30年7月20日(金)～平成30年8月20日(月)

(3) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(4) 調査対象者

三芳町在住の20歳以上の方を対象として、1,000名に無作為調査を実施しました。

(5) 配布数及び回収数

配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
1,000	394	39.4%	394	39.4%

(6) 報告書の見方

- ・本報告書では、回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱います。
- ・本報告書では、回答する必要のない箇所及び回答すべき箇所でないところを回答している場合は「非該当」として扱います。
- ・設問の構成比は、回答者数(該当設問での該当者数)を基数として百分率(%)で示しています。非該当者数は、構成比に含まれません。
- ・比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下第二位を四捨五入し算出しているため合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答については、回答者数を基数として百分率(%)で示しています。合計値は100%にならない場合もあります。
- ・設問項目は「 」で表記し、年代など項目をまとめた場合には、『 』で表記しています。

2.調査結果の概要

2. 調査結果の概要

I あなた自身について

- ◆回答者は、男性が4割、女性が5割強、年代では、20～30歳代は1割程度、40～50歳代は2割弱、60～70歳以上は約2割となっています。
- ◆職業は、常勤勤めが3割弱、パート・アルバイト、家事専業、無職が2割弱、居住年数は30年以上が約4割となっています。
- ◆婚姻については、約7割が結婚しており、家族構成は、夫婦のみ、親と未婚の子どもがそれぞれ約3割となっています。

II 男女平等意識について

- ◆男は仕事、女は家庭という考え方については、全体では否定意見が約6割、やや女性の方が否定的な意識が強く、年代では若い人ほどその傾向があります。
- ◆男は仕事、女は家庭という考え方の肯定的な意見の理由は、性別で仕事や家事・育児に向いているや役割分担がある方が仕事も家庭もうまくいくからとの回答が4割を超えています。
- ◆男は仕事、女は家庭という考え方の否定的な意見の理由は、家事・育児は男女で協力してやるべきとの回答が5割を超えています。

III 家庭生活（家事・子育て・介護）について

- ◆家庭生活については、食事のしたく、買い物、洗濯、掃除などは女性がいつもしているが約7～8割、男性はときどきしているが約3割から約5割となっています。ごみ出しは男性が5割弱、女性が6割強とほかの項目と比べやや男性がいつもしている割合が高くなっています。
- ◆平日の家事・子育て・介護にかかわる時間は、男性は2時間未満が6割を超え、女性は2～4時間が4割程度となっています。
- ◆家庭での子育てについては、性別に関わらず家事を手伝わせるべきとの回答が6割を超えており、学校での教育についても、性別に関わらず技術・家庭科の教育を行い、実際に役立つよう教育するべきとの回答が6割弱を超えています。
- ◆今後、家庭で男女ともに積極的に家事・子育て・介護を行うために必要なことは、働いている企業の仕事と家庭を両立できる職場環境の整備が6割を超え大切と考えています。

IV 就業について

- ◆就労経験について、現在就労しているが約6割、就労していたが4割弱となっており、働いている人の6割が生計維持のために就労しています。
- ◆現在働いている職場の環境は、仕事内容、待遇面で男女差はないと6割を超える方が回答しており、平成27年調査より男女差がなくなっていると回答しています。
- ◆女性の働き方については、結婚や出産に関わらずずっと仕事を続けると子育ての時期だけ仕事を辞め、その後にパートタイムで働くがそれぞれ約3割となっています。
- ◆女性が長く働き続けることを困難にしている理由は、家事育児との両立が8割弱、職場の条件や制度が不十分と約6割の方が回答しています。

V 人権の尊重について

- ◆セクシャル・ハラスメントについては、3割弱が経験や見聞きしており、年代では20歳代と50歳代が4割前後となっています。
- ◆セクシャル・ハラスメントの内容は、男性だから、女性だからと性別で差別的な言い方をされたが5割弱が多く、特に男性では6割を超えています。
- ◆ドメスティック・バイオレンスについては、暴言や大声でどなるなどは何度もあるが1割、2割弱が1・2度あったと回答しています。特に女性では、合わせると3割を超えています。
- ◆ドメスティック・バイオレンスを受けた場合の相談については、2割が相談をしていますが、1割は相談できなかった、6割は相談しようと思わなかったと回答しており、相談しない理由は、相談するほどの事ではないと思ったから約6割、相談しても無駄だと思ったから4割弱となっています。

VI 地域での社会参画について

- ◆地域活動については、何もしていないが5割弱、町会や自治会活動が3割弱となっており、何もしていない理由は、仕事が忙しいや興味がないが3割を超えています。
- ◆地域活動の担い手に女性が多くなっていますが、会長やリーダーに女性が少ない原因として、女性自身がリーダーになりたがらないが5割弱、家事・育児で地域活動に専念できないから約3割となっています。
- ◆国では2020年までに指導的立場に女性が3割を目標としていますが、三芳町では平成29年現在24.5%となっており、女性参画が進み今後の社会に期待することで、男性中心の考え方に変化や男女平等社会への施策の推進、きめ細やかな要望が行政に届きやすくなると期待しています。

VII 男女共同参画社会に向けた取組について

- ◆男女共同参画社会に向けて必要なことは、差別的な社会的しきたり・慣習を改めるが5割を超え、男性の意識改革に努めるが4割弱となっており、男性自身にその意識が強くなっています。
- ◆男女共同参画に関する言葉は、男女雇用機会均等法が内容も知っているのが約5割、育児・休業法、LGBTが約4割の知名度となっていますが、三芳町の計画や情報誌については5%未満となっています。
- ◆三芳町の男女共同参画の施策に必要なことは、高齢者や病人の介護制度や施設の充実、育児や保育など子育て支援の充実がそれぞれに5割を超えています。

3. 調查結果

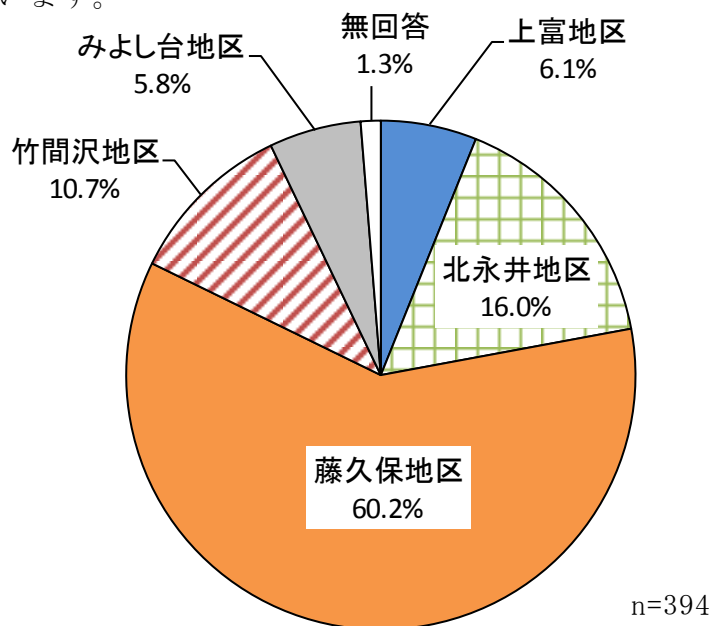
3. 調査結果

I あなた自身について

問1 回答者ご自身のことについてお聞きします。次の(ア)～(キ)の各項目について、お答えください。

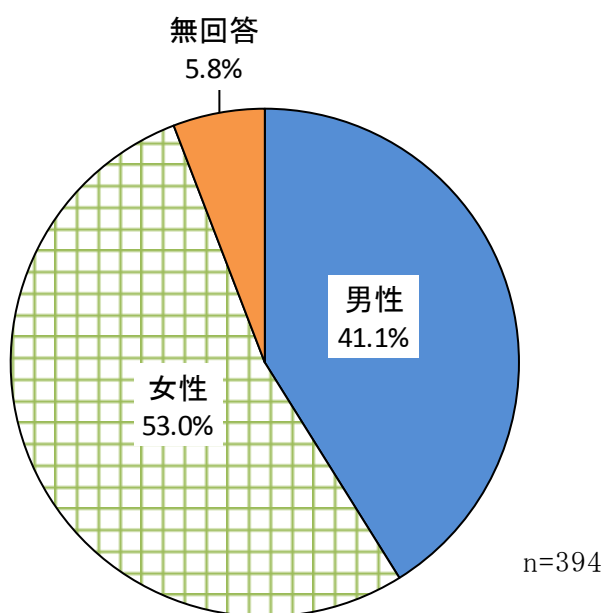
(ア) 居住地区

「藤久保地区」が60.2%と最も多く、次いで「北永井地区」が16.0%、「竹間沢地区」が10.7%となっています。



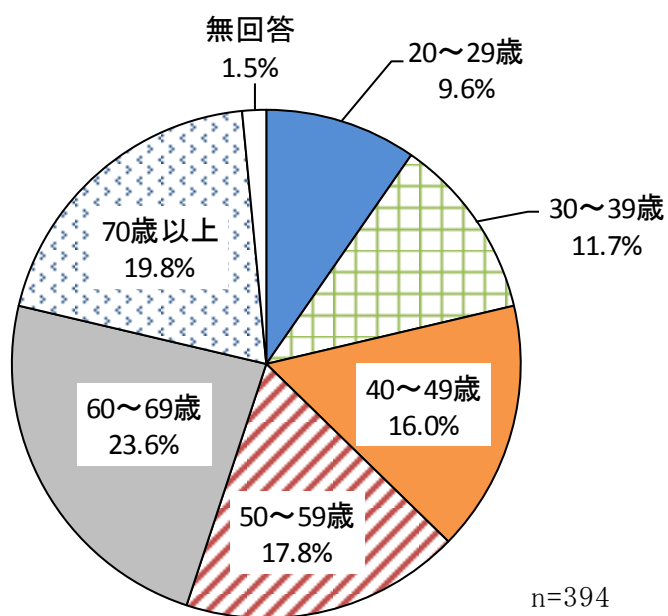
(イ) 性別

「男性」が41.1%、「女性」が53.0%となっています。



(ウ) 年齢

「60～69歳」が23.6%と最も多く、次いで「70歳以上」が19.8%、「50～59歳」が17.8%となっています。



※年代別集計には以下のように表記します。

- 20～29歳・・・20歳代
- 30～39歳・・・30歳代
- 40～49歳・・・40歳代
- 50～59歳・・・50歳代
- 60～69歳・・・60歳代
- 70歳以上・・・70歳以上

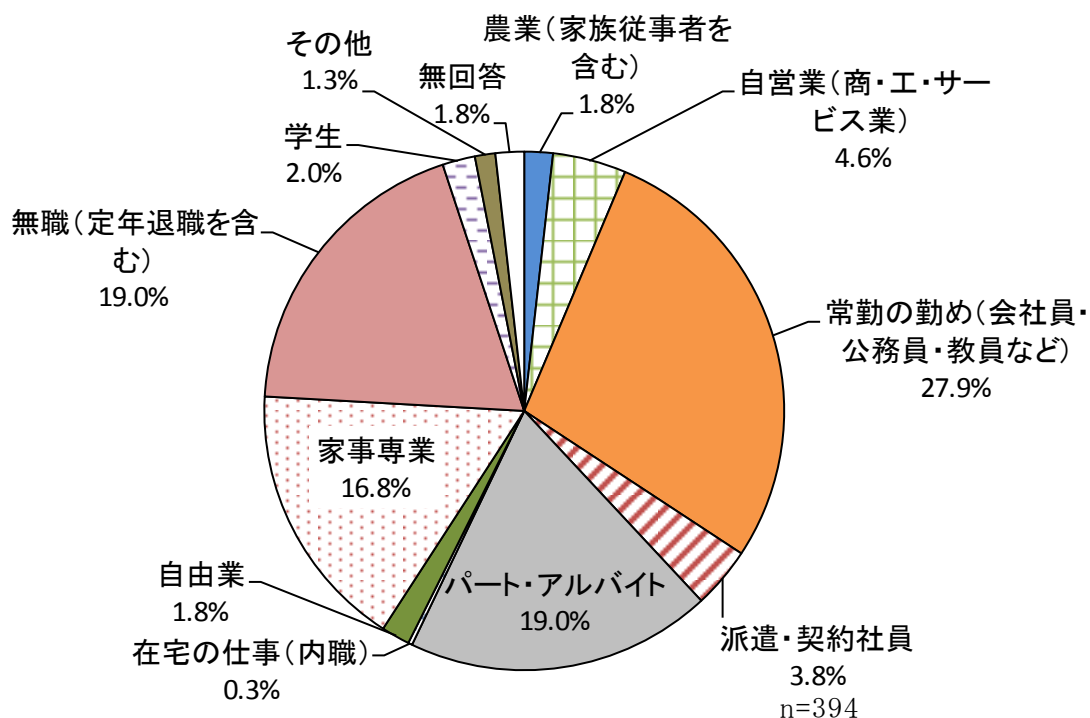
(エ) 就労形態

「常勤の勤め(会社員・公務員・教員など)」が27.9%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が19.0%、「無職(定年退職を含む)」が19.0%となっています。

【年代別クロス】

年代別では、『20～50歳代』で「常勤の勤め(会社員・公務員・教員など)」が最も多くなっています。

また、『30～50歳代』で、「パート・アルバイト」も多くなっています。



	農業(家族従事者を含む)	自営業(商・工・サービス業)	常勤の勤め(会社員・公務員・教員など)	派遣・契約社員	パート・アルバイト	在宅の仕事(内職)	自由業	家事専業	無職(定年退職を含む)	学生	その他	無回答
全体(n=394)	1.8%	4.6%	27.9%	3.8%	19.0%	0.3%	1.8%	16.8%	19.0%	2.0%	1.3%	1.8%
20歳代(n=38)	2.6%	0.0%	36.8%	5.3%	13.2%	0.0%	5.3%	7.9%	0.0%	21.1%	5.3%	2.6%
30歳代(n=46)	0.0%	0.0%	50.0%	2.2%	21.7%	2.2%	0.0%	21.7%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
40歳代(n=63)	1.6%	6.3%	42.9%	4.8%	25.4%	0.0%	4.8%	12.7%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
50歳代(n=70)	0.0%	4.3%	45.7%	2.9%	27.1%	0.0%	1.4%	11.4%	5.7%	0.0%	0.0%	1.4%
60歳代(n=93)	5.4%	4.3%	11.8%	6.5%	19.4%	0.0%	1.1%	20.4%	30.1%	0.0%	0.0%	1.1%
70歳以上(n=78)	0.0%	9.0%	1.3%	1.3%	9.0%	0.0%	0.0%	23.1%	52.6%	0.0%	3.8%	0.0%

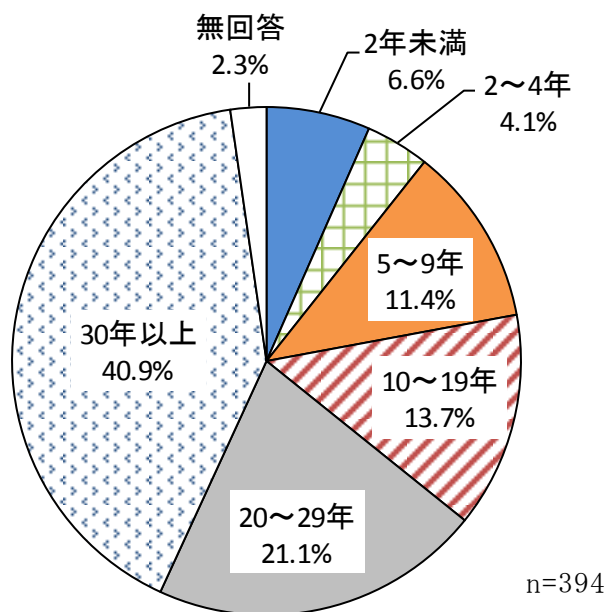
(オ) 三芳町での居住年数

「30年以上」が40.9%と最も多く、次いで「20～29年」が21.1%、「10～19年」が13.7%となっています。

【年代別クロス】

年代別からみると『60歳以上』で、「30年以上」が最も多くなっています。

また、「20歳代」、「50歳代」で、「20～29年」、「30歳代」で、「5～9年」、「40歳代」で、「10年～19年」が多くなっています。



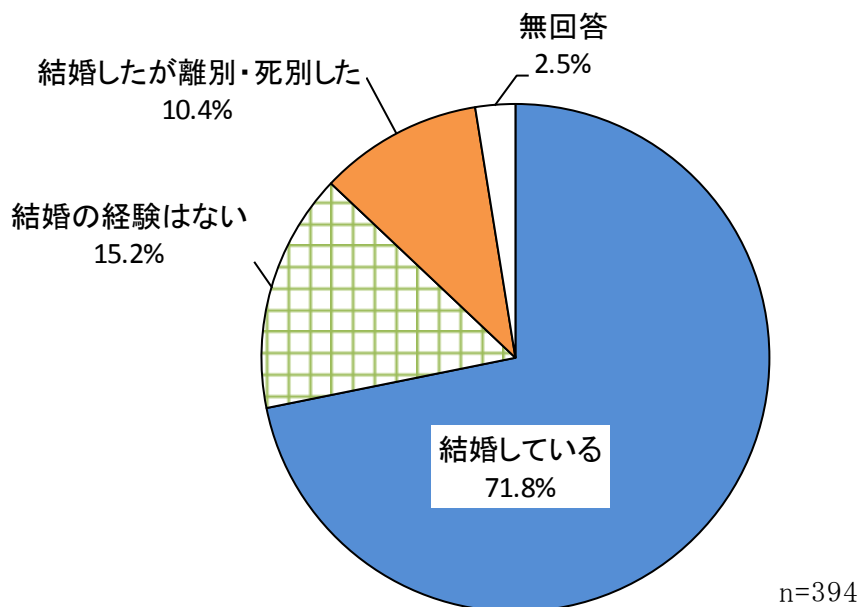
	2年未満	2～4年	5～9年	10～19年	20～29年	30年以上	無回答
全体(n=394)	6.6%	4.1%	11.4%	13.7%	21.1%	40.9%	2.3%
20歳代(n=38)	15.8%	13.2%	10.5%	15.8%	44.7%	0.0%	0.0%
30歳代(n=46)	26.1%	15.2%	28.3%	15.2%	4.3%	10.9%	0.0%
40歳代(n=63)	6.3%	4.8%	20.6%	28.6%	22.2%	17.5%	0.0%
50歳代(n=70)	4.3%	0.0%	10.0%	12.9%	38.6%	32.9%	1.4%
60歳代(n=93)	0.0%	1.1%	6.5%	9.7%	15.1%	67.7%	0.0%
70歳以上(n=78)	1.3%	0.0%	2.6%	6.4%	10.3%	75.6%	3.8%

(カ) 未婚・既婚（未届を含む）

「結婚している」が71.8%と最も多く、次いで「結婚の経験はない」が15.2%、「結婚したが離別・死別した」が10.4%となっています。

【年代別クロス】

年代別からみると『30歳以上』で、「結婚している」が多くなっています。



	結婚している	結婚の経験はない	結婚したが離別・死別した	無回答
全体(n=394)	71.8%	15.2%	10.4%	2.5%
20歳代(n=38)	26.3%	71.1%	2.6%	0.0%
30歳代(n=46)	78.3%	17.4%	4.3%	0.0%
40歳代(n=63)	68.3%	22.2%	6.3%	3.2%
50歳代(n=70)	74.3%	10.0%	15.7%	0.0%
60歳代(n=93)	86.0%	2.2%	10.8%	1.1%
70歳以上(n=78)	76.9%	2.6%	16.7%	3.8%

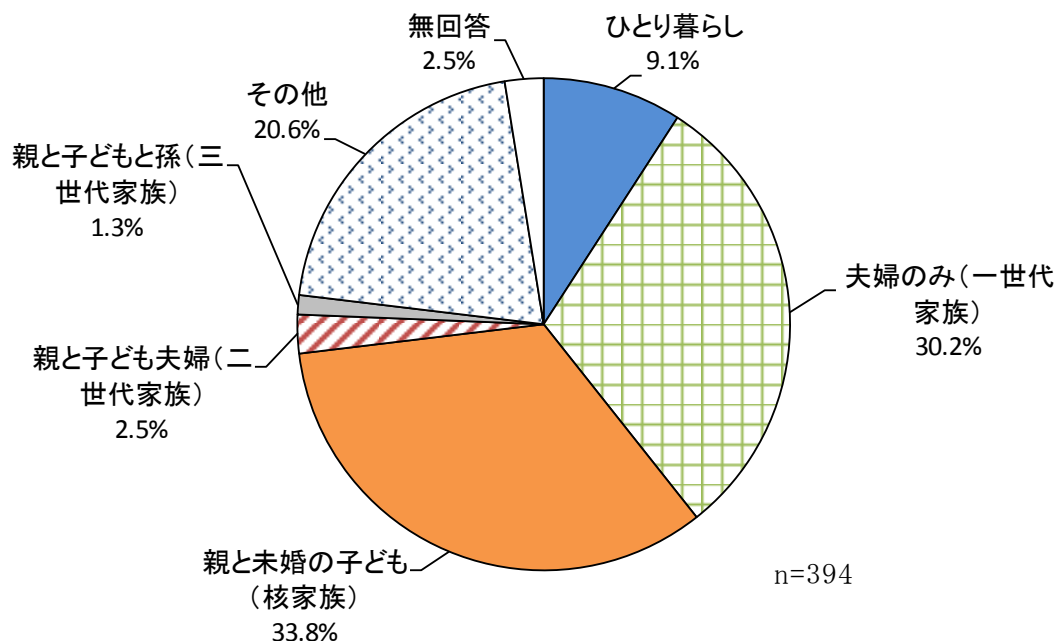
(キ) 同居の家族構成

「親と未婚の子ども（核家族）」が 33.8%と最も多く、次いで「夫婦のみ（一世代家族）」が 30.2%、「その他」が 20.6%となっています。

【年代別クロス】

年代別でみると『20～50歳代』で、「親と未婚の子ども（核家族）」が最も多くなっています。

また、『60歳以上』で、「夫婦のみ（一世代家族）」が最も多くなっています。



	ひとり暮らし	夫婦のみ (一世代家族)	親と未婚の子ども (核家族)	親と子ども夫婦 (二世代家族)	親と子どもと孫 (三世代家族)	その他	無回答
全体 (n=394)	9.1%	30.2%	33.8%	2.5%	1.3%	20.6%	2.5%
20歳代 (n=38)	5.3%	10.5%	63.2%	0.0%	2.6%	18.4%	0.0%
30歳代 (n=46)	10.9%	17.4%	43.5%	4.3%	0.0%	23.9%	0.0%
40歳代 (n=63)	7.9%	6.3%	42.9%	6.3%	0.0%	34.9%	1.6%
50歳代 (n=70)	12.9%	21.4%	35.7%	1.4%	1.4%	27.1%	0.0%
60歳代 (n=93)	8.6%	47.3%	23.7%	1.1%	1.1%	16.1%	2.2%
70歳以上 (n=78)	9.0%	56.4%	17.9%	2.6%	2.6%	7.7%	3.8%

Ⅱ 男女平等意識について

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。番号を選んで○をつけてください。

「そう思わない」が46.7%と最も多く、「どちらかといえばそう思わない」と合わせると61.7%が『否定意見』となっています。

また、「どちらかといえばそう思う」、「そう思う」を合わせると『肯定意見』が22.4%、「どちらともいえない」の『中間意見』が13.2%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、『否定意見』が2.3ポイント増加しています。

【性別クロス】

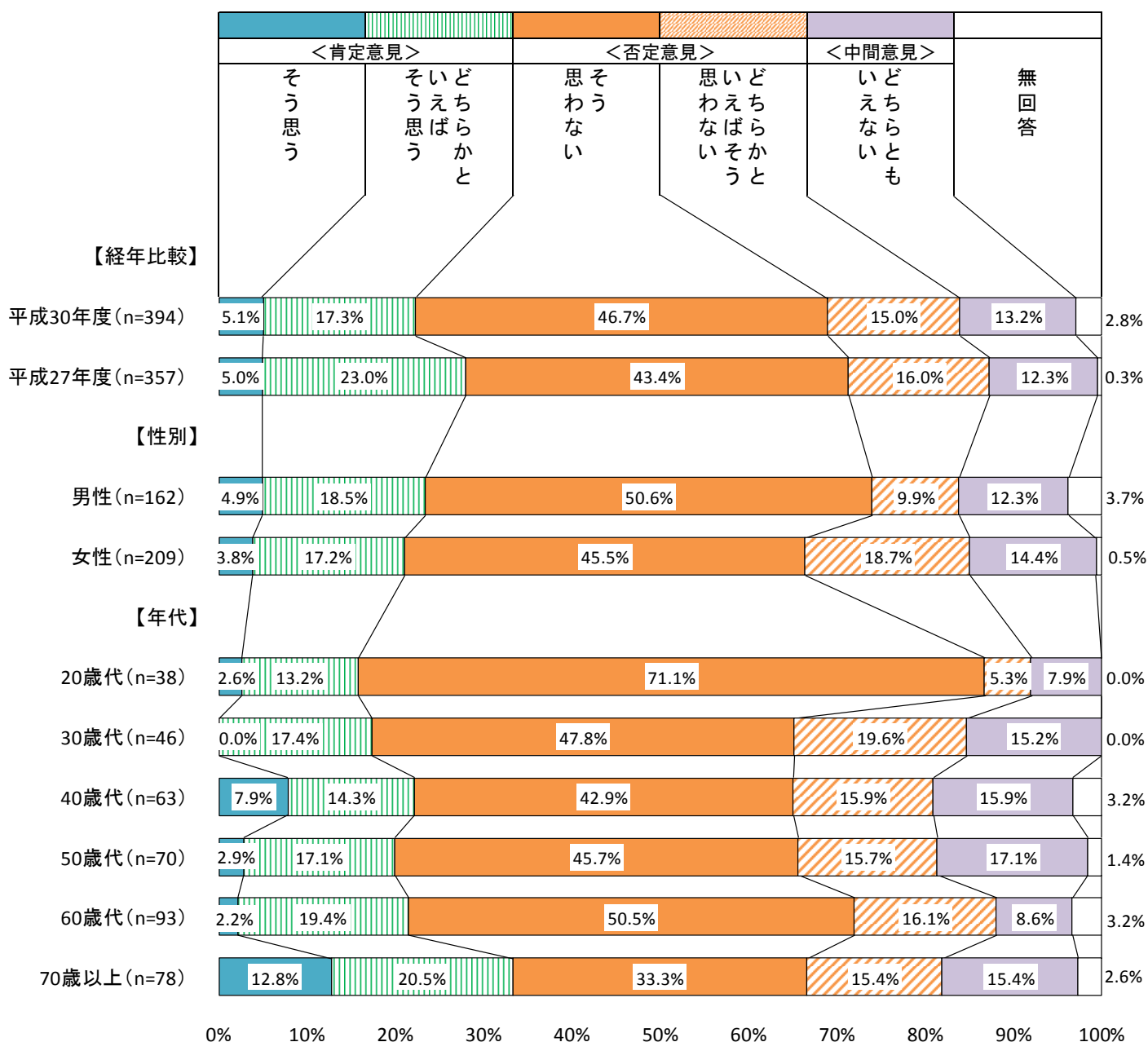
性別で比較すると、『否定意見』が、男性よりも女性が上回っています。

また、『肯定意見』が、女性よりも男性が上回っています。

【年代別クロス】

年代別で比較すると、『否定意見』が、「20歳代」が最も多くなっています。

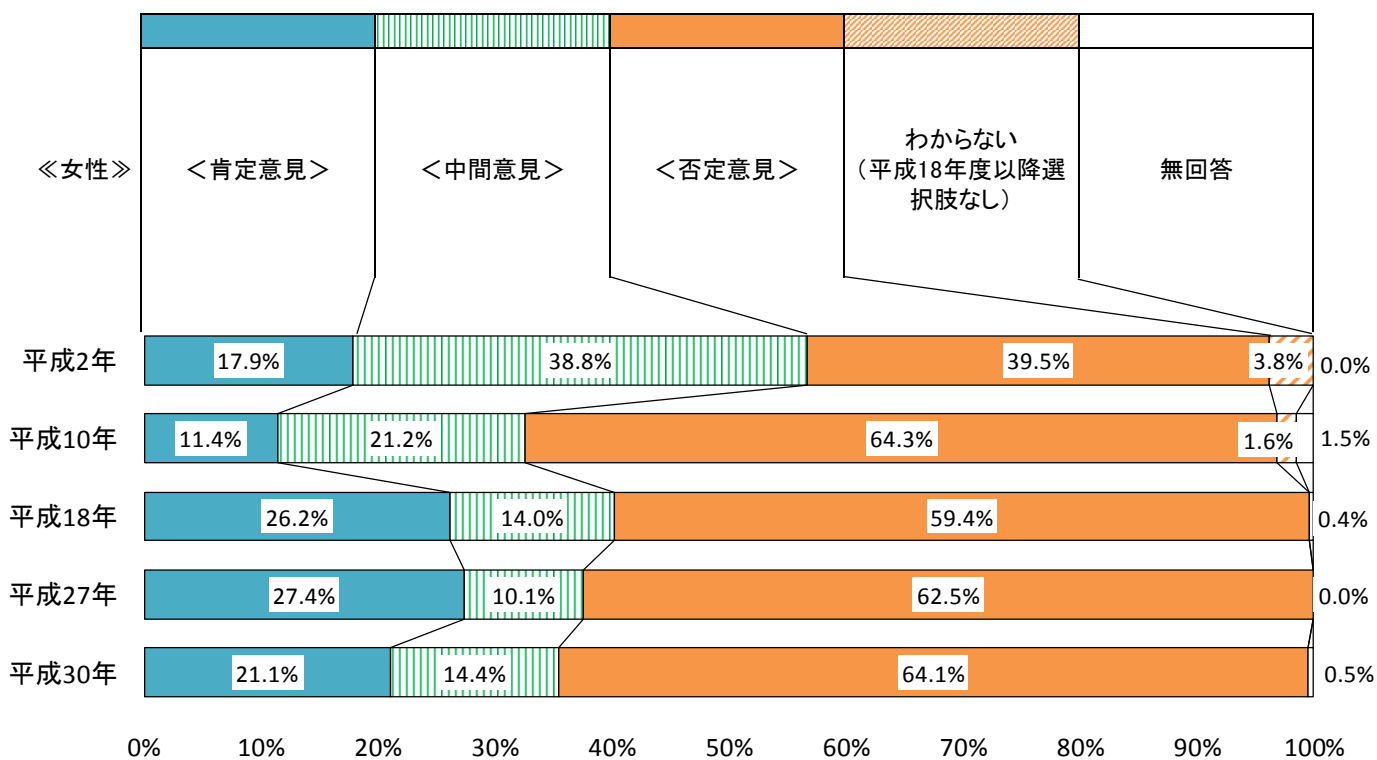
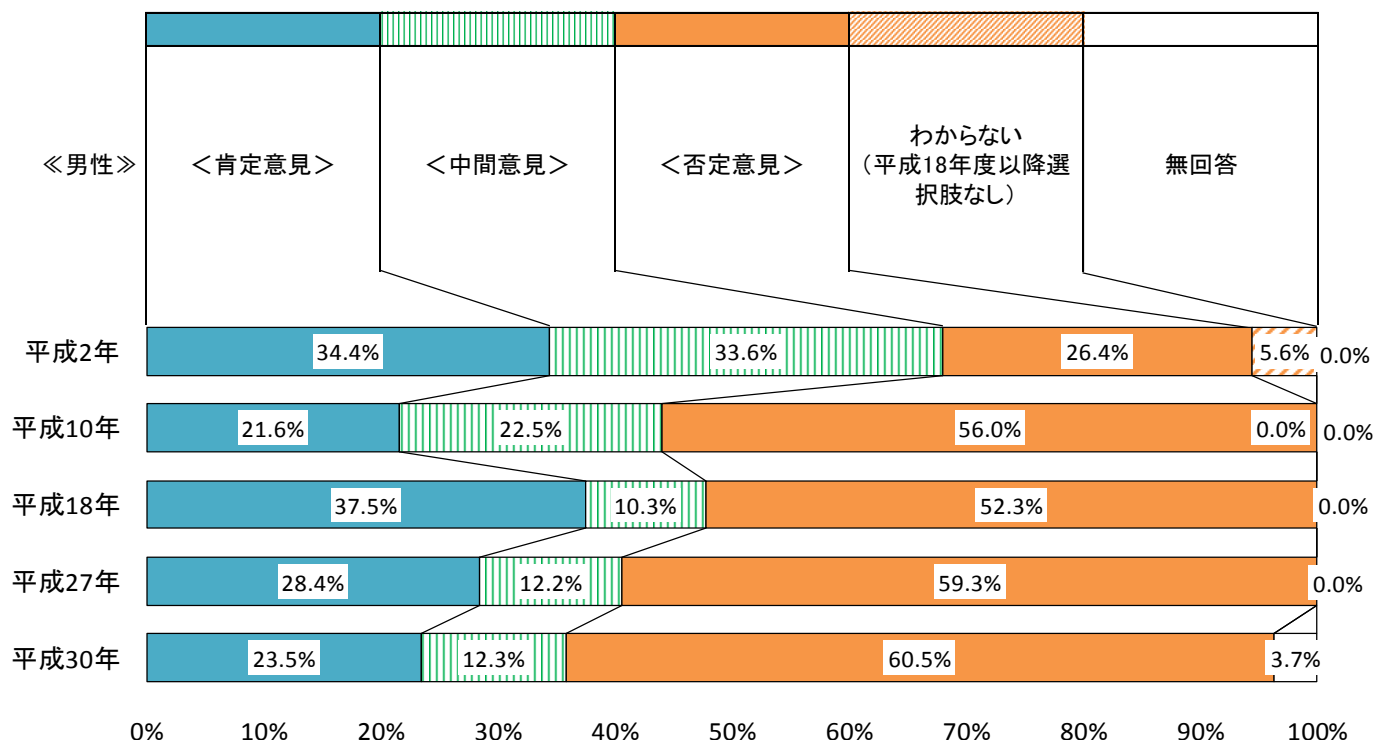
また、『肯定意見』が、「70歳以上」で最も多くなっています。



【経年比較（性別）】

性別ごとの経年比較をすると、男性の『肯定意見』は、平成27年度と比較すると4.9ポイント減少しています。徐々にではありますが、『否定意見』が増加しています。

また、女性の『肯定意見』で、平成27年度と比較すると6.3ポイント減少しています。



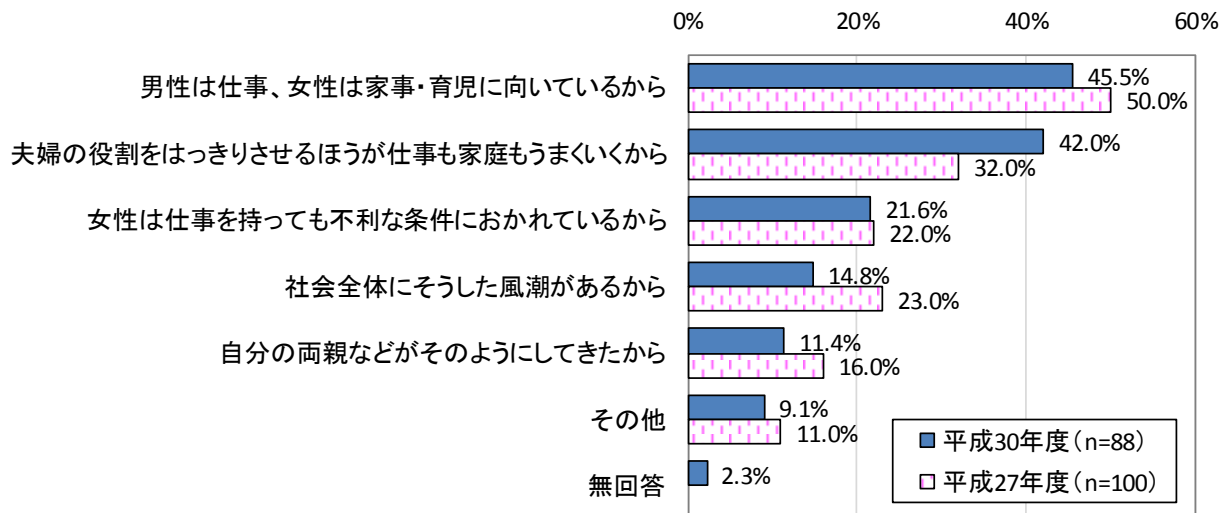
※平成18年以降「わからない」の選択項目はなくなっています。

問2-① 前問（問2）で「1 そう思う」「2 どちらかといえばそう思う」とお答えの方にお聞きします。あなたが、そう思う理由は何ですか。（〇は2つまで）

「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」が45.5%と最も多く、次いで「夫婦の役割をはっきりさせるほうが仕事も家庭もうまくいくから」が42.0%、「女性は仕事を持ってても不利な条件におかれているから」が21.6%となっています。

【経年比較】

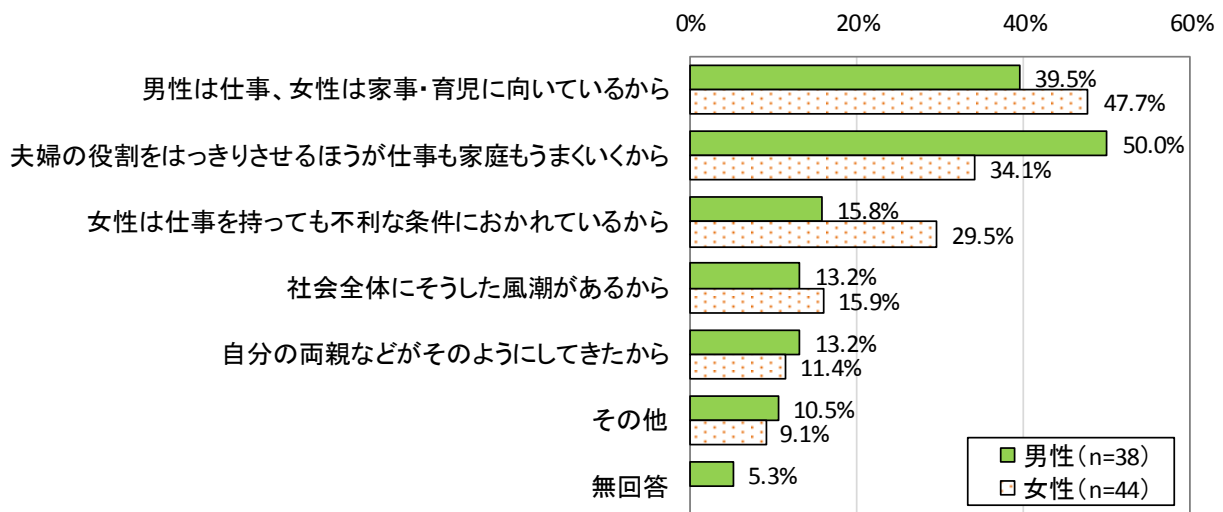
前回調査と比較すると、「夫婦の役割をはっきりさせるほうが仕事も家庭もうまくいくから」が10.0ポイント増加しています。



【性別クロス】

性別で比較すると、「夫婦の役割をはっきりさせるほうが仕事も家庭もうまくいくから」で、女性よりも男性が15.9ポイント上回っています。

また、「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」が、8.2ポイント、「女性は仕事を持ってても不利な条件におかれているから」で、13.7ポイント男性よりも女性が上回っています。



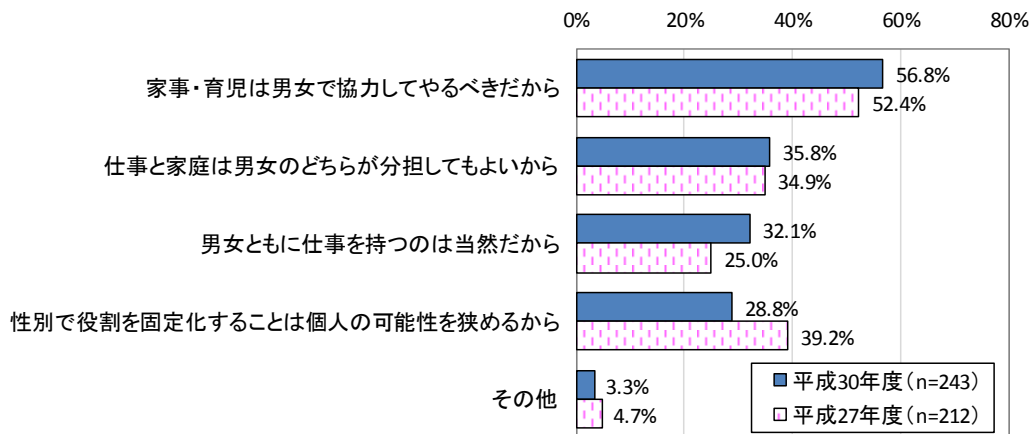
**問2-② 前問（問2）で「3 そう思わない」「4 どちらかといえばそう
思わない」とお答えの方にお聞きします。あなたが、そう思う理由
は何ですか。（〇は2つまで）**

「家事・育児は男女で協力してやるべきだから」が56.8%と最も多く、次いで「仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから」が35.8%、「男女ともに仕事を持つのは当然だから」が32.1%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「男女ともに仕事を持つのは当然だから」が7.1ポイント増加しています。

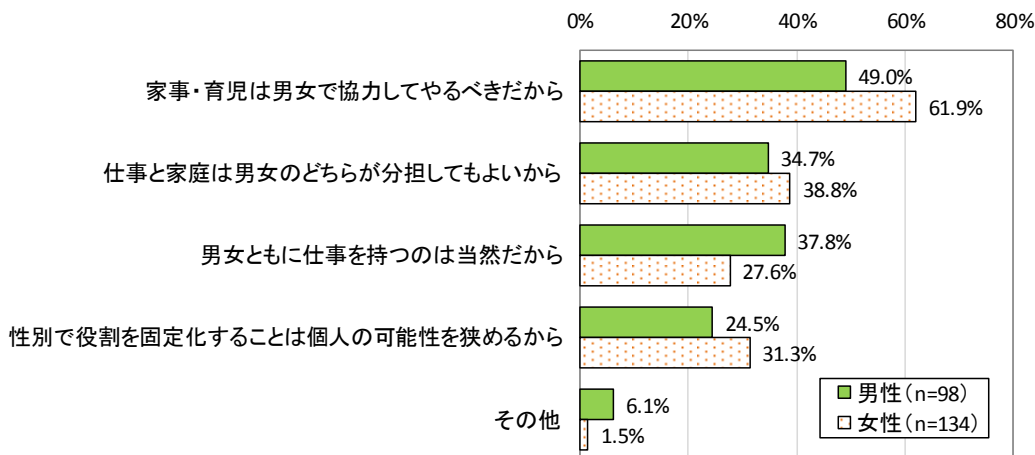
また、「性別で役割を固定化することは個人の可能性を狭めるから」が10.4ポイント減少しています。



【性別クロス】

性別で比較すると、「家事・育児は男女で協力してやるべきだから」が、12.9ポイント男性よりも女性が上回っています。

また、「男女ともに仕事を持つのは当然だから」で、10.2ポイント女性よりも男性が上回っています。



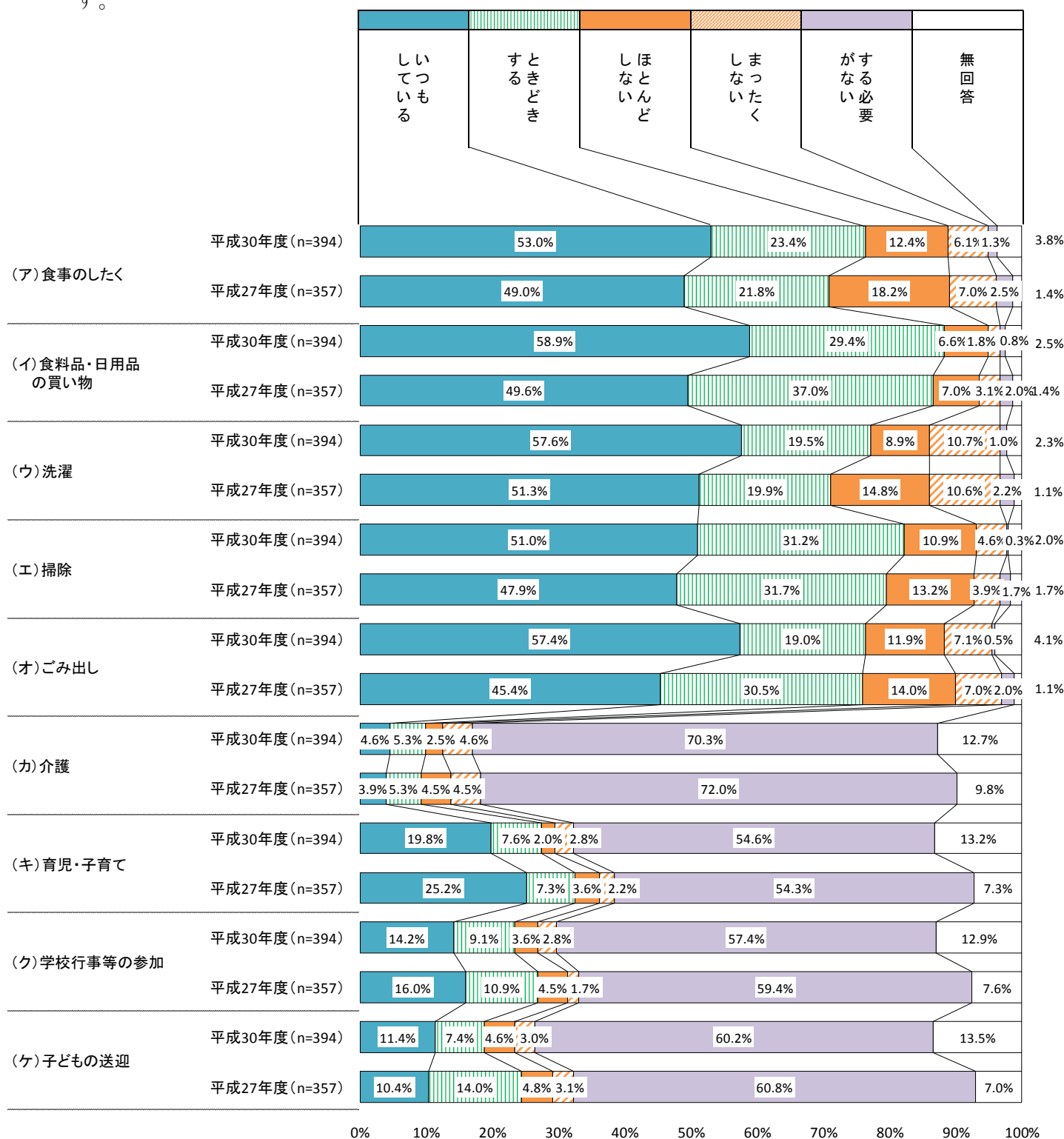
Ⅲ 家庭生活（家事・子育て・介護）について

問3 あなたは、(ア)～(ケ)にあげることを日常どの程度おこなっていますか。(〇はそれぞれ1つ)

家庭生活の「いつもしている」項目は、「食事のしたく」、「食料品・日用品の買い物」、「洗濯」、「掃除」、「ごみ出し」が5割以上となっています。

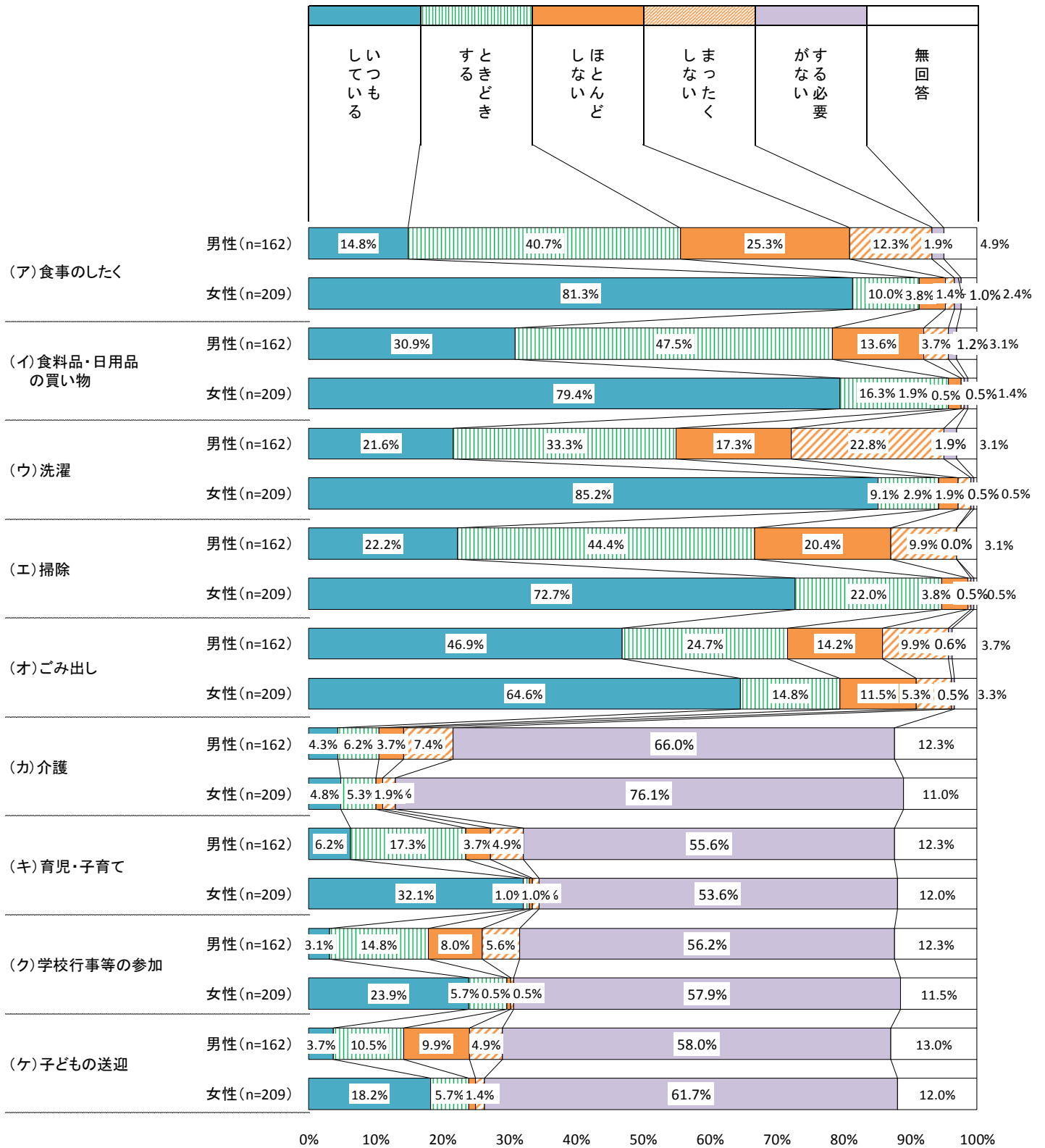
【経年比較】

前回調査と比較すると、「いつもしている」で、「食事のしたく」、「食料品・日用品の買い物」、「洗濯」、「掃除」、「ごみ出し」、「介護」、「子どもの送迎」が増加しています。



【性別クロス】

性別で比較すると、「いつもしている」が、すべての項目において「女性」が上回っています。



問4 平日にあなたが家事・子育て・介護にかかわる時間は、平均すると1日何時間くらいになりますか。(〇は1つだけ)

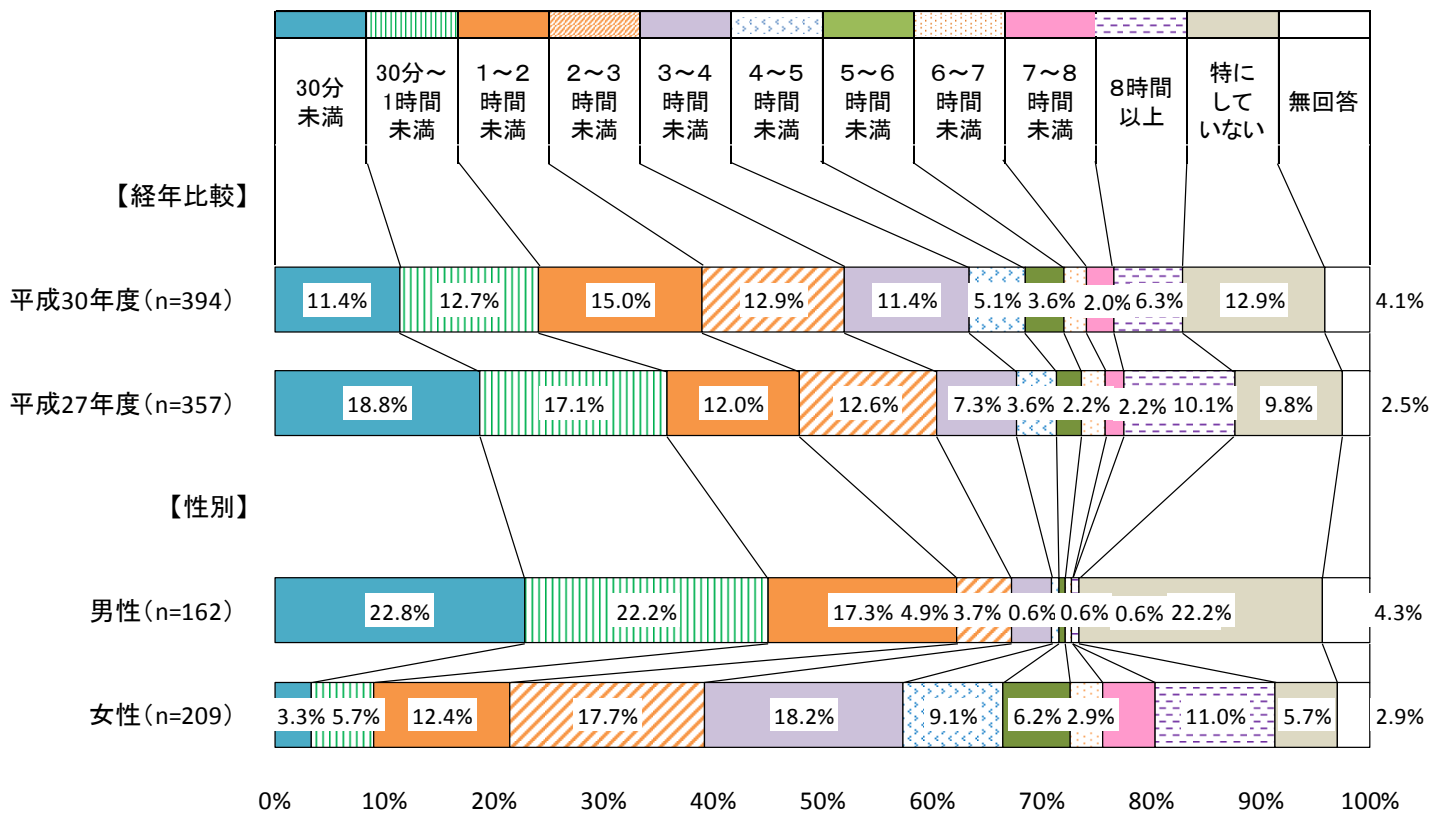
「1～2時間未満」が15.0%と最も多く、次いで「2～3時間未満」が12.9%、「特にしていない」が12.9%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「1～2時間未満」、「3～4時間未満」、「特にしていない」が増加しています。

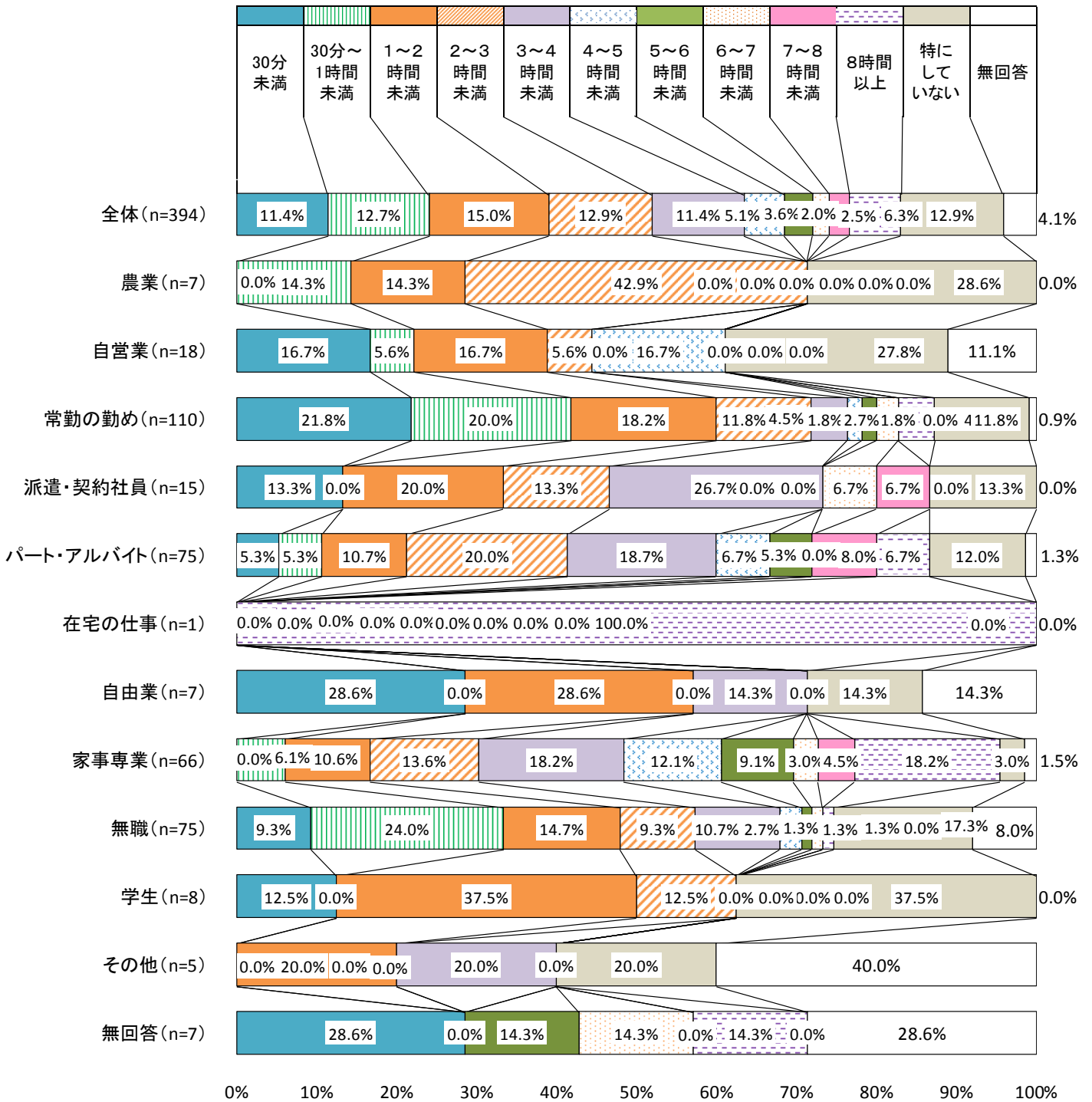
【性別クロス】

性別で比較すると、『「30分未満」～「2時間未満」』、「特にしていない」が、女性よりも男性の方が多く、『2時間以上』では、男性よりも女性の方が上回っています。



【就労状況クロス】

就労状況で比較すると、「常勤の勤め」で、『「30分未満」～「2時間未満」』が多く、「パート・アルバイト」では、『「2～4時間未満」』が多くなっています。



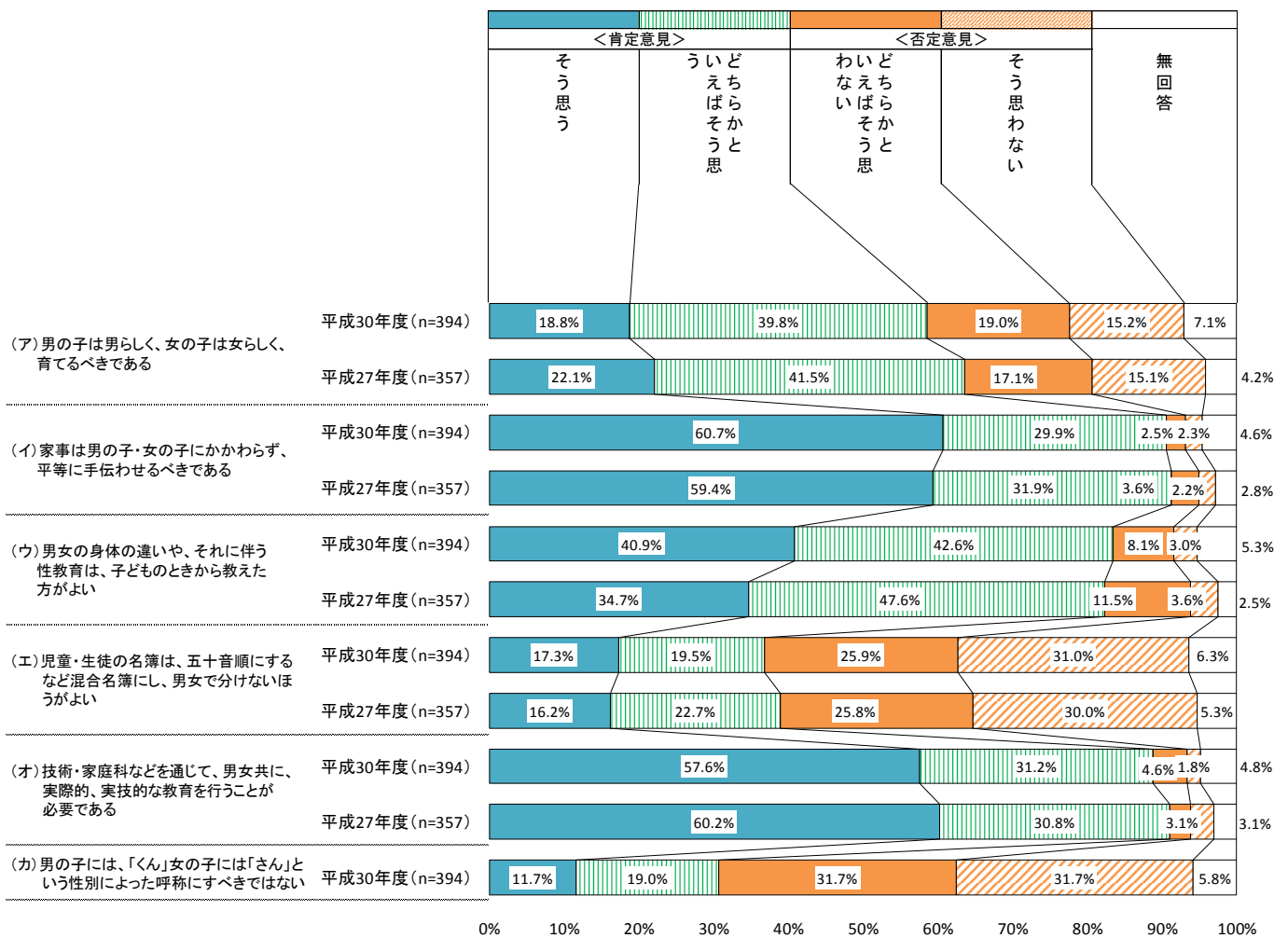
問5 家庭での子育てや、学校での教育に関する（ア）～（カ）の考え方について、あなたはどのように思いますか。（〇はそれぞれ1つ）

「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定意見』で、「家事は男の子・女の子にかかわらず、平等に手伝わせるべきである」、「男女の身体の違いや、それに伴う性教育は、子どものときから教えた方がよい」、「技術・家庭科などを通じて、男女共に、实际的、実技的な教育を行うことが必要である」が多くなっています。

また、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を合わせた『否定意見』で、「男の子は男らしく、女の子は女らしく、育てるべきである」、「児童・生徒の名簿は、五十音順にするなど混合名簿にし、男女で分けられないほうがよい」、「男の子には、「くん」女の子には「さん」という性別によった呼称にすべきではない」が多くなっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、あまり変化はみられませんが、『肯定意見』の「男女の身体の違いや、それに伴う性教育は、子どものときから教えた方がよい」が、今回調査でやや増加しています。

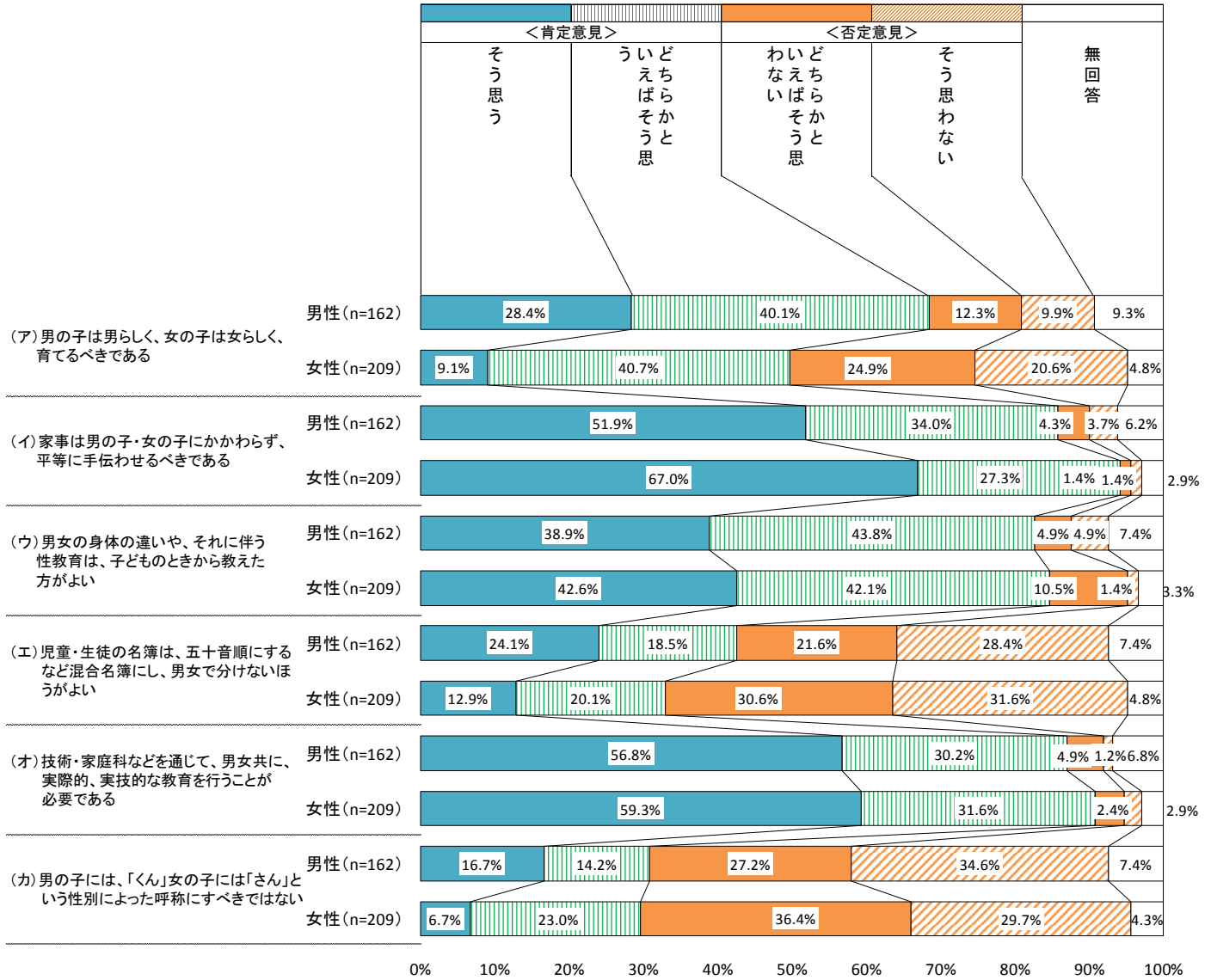


※平成27年度調査は、「男の子には、「くん」女の子には「さん」という性別によった呼称にすべきではない」という選択項目はありませんでした。

【性別クロス】

性別で比較すると、『肯定意見』で、「家事は男の子・女の子にかかわらず、平等に手伝わせるべきである」が、男性よりも女性が上回っています。

また、「男の子は男らしく、女の子は女らしく、育てるべきである」、「児童・生徒の名簿は、五十音順にするなど混合名簿にし、男女で分けないほうがよい」で、『肯定意見』は、女性よりも男性が上回っています。

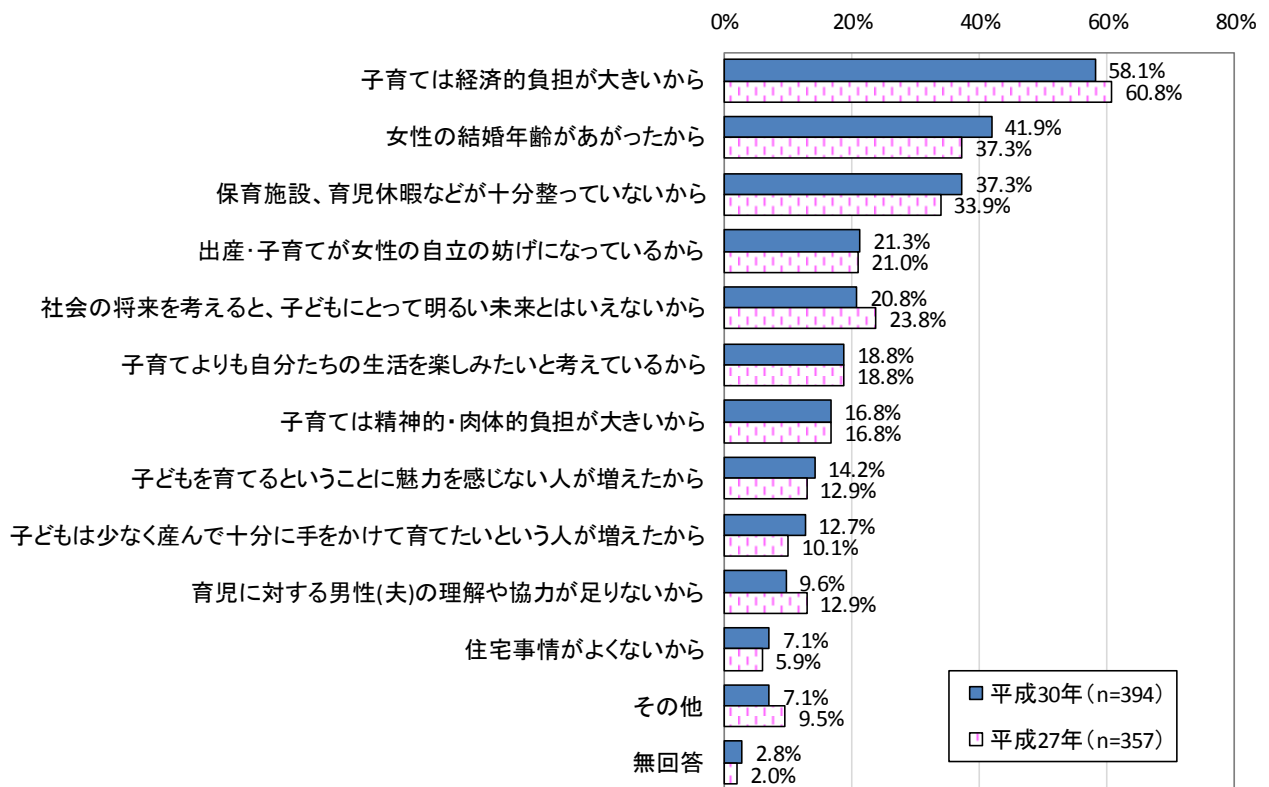


問6 一人の女性が生涯に産む子どもの数の平均は、1.44人（2016年）となっています。少子化の要因は何だと思いますか。（〇は3つまで）

「子育ては経済的負担が大きいから」が58.1%と最も多く、次いで「女性の結婚年齢があがったから」が41.9%、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」が37.3%となっています。

【経年比較】

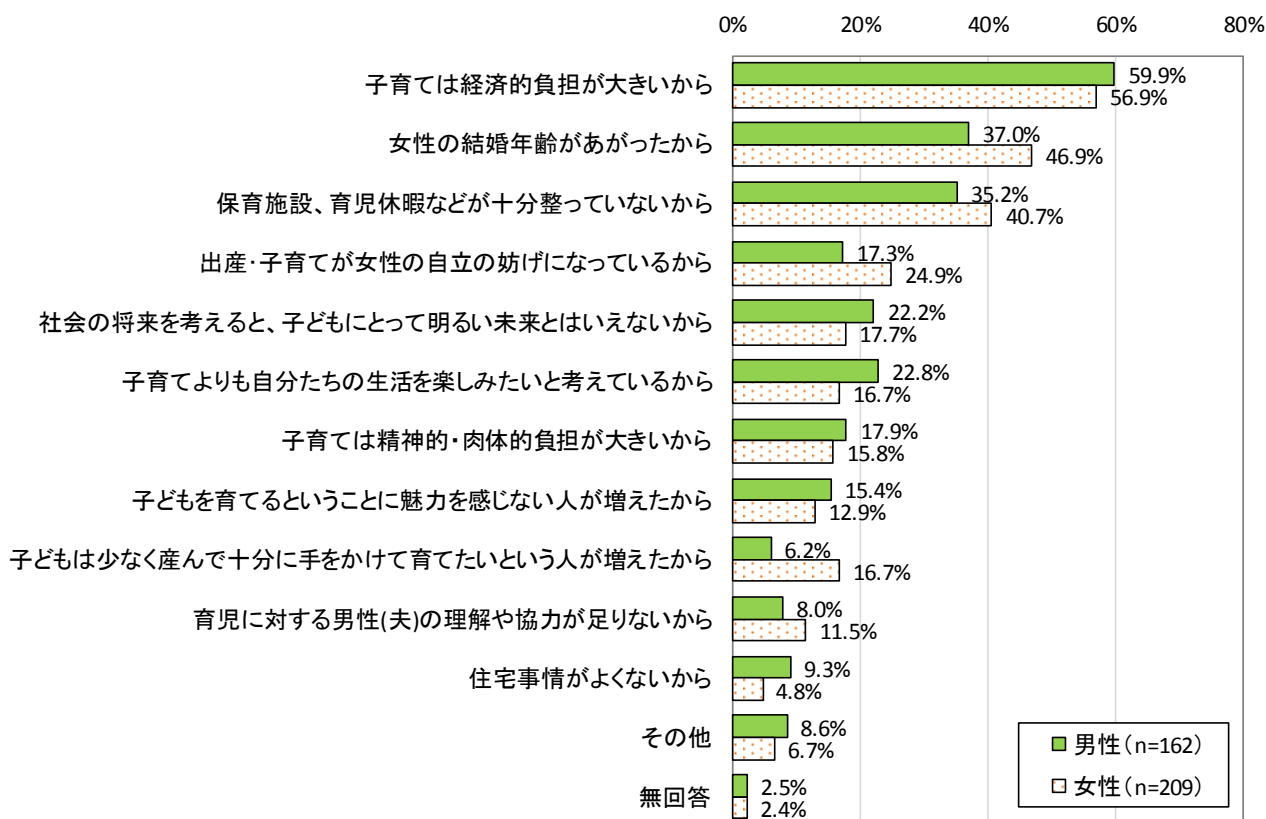
前回調査と比較すると、「女性の結婚年齢があがったから」、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」、「出産・子育てが女性の自立の妨げになっているから」、「子どもを育てるということに魅力を感じない人が増えたから」、「子どもは少なく産んで十分に手をかけて育てたいという人が増えたから」、「住宅事情がよくないから」で、今回調査がやや増加しています。



【性別クロス】

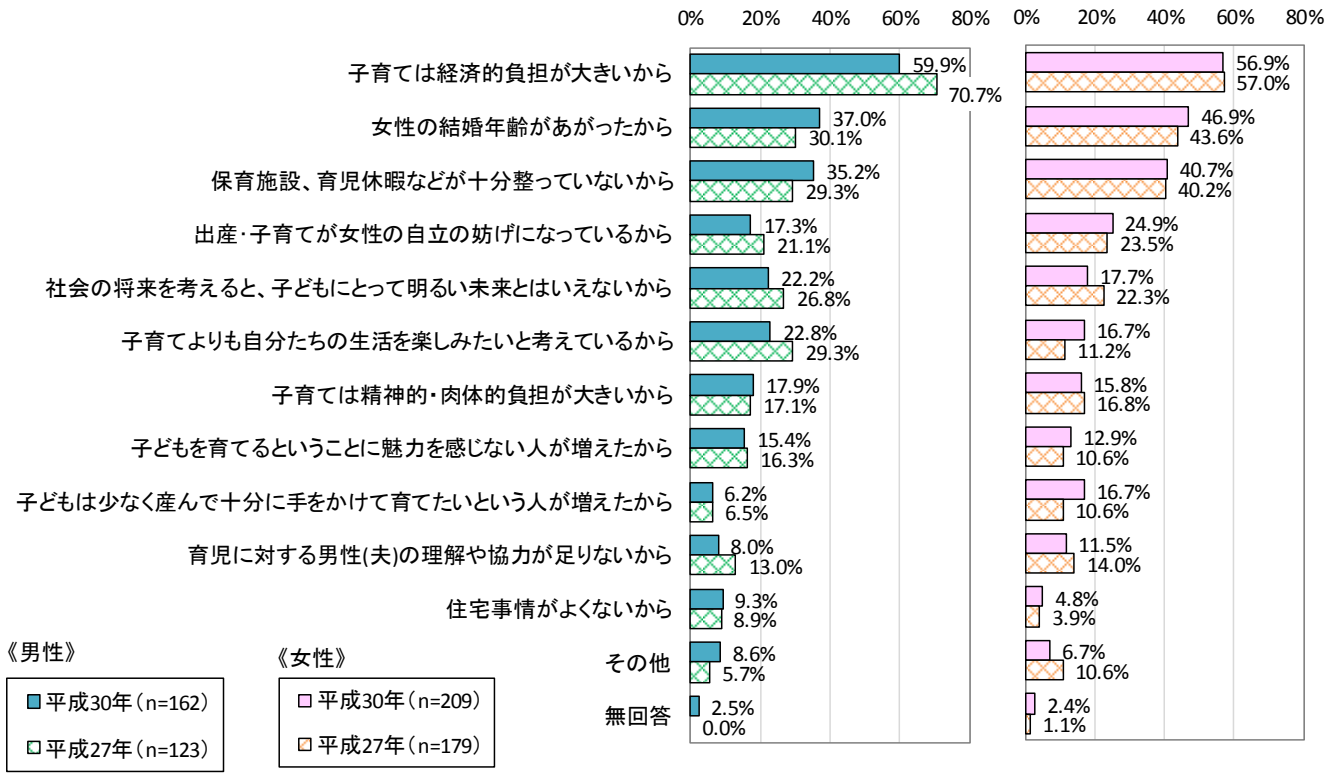
性別で比較すると、「女性の結婚年齢があがったから」、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」、「出産・子育てが女性の自立の妨げになっているから」、「子どもは少なく産んで十分に手をかけて育てたいという人が増えたから」が、男性よりも女性が上回っています。

また、「社会の将来を考えると、子どもにとって明るい未来とはいえないから」、「子育てよりも自分たちの生活を楽しみたいと考えているから」、「子どもを育てるということに魅力を感じない人が増えたから」、「住宅事情がよくないから」が、女性よりも男性が上回っています。



【経年比較（性別）】

前回調査を性別で比較すると、男女ともに「女性の結婚年齢があがったから」、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」、「住宅事情がよくないから」が、今回の調査で増加しています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、いずれの年代においても、「子育ては経済的負担が大きいから」が多くなっていますが、「30歳代」、「70歳以上」では、「女性の結婚年齢があがったから」が、最も多くなっています。

	子育ては経済的負担が大きいから	女性の結婚年齢があがったから	保育施設、育児休暇などが十分整っていないから	出産・子育てが女性の自立の妨げになっているから	社会の将来を考えると、子どもにとって明るい未来とはいえないから	子育てよりも自分たちの生活を楽しまたいと考えているから	子育ては精神的・肉体的負担が大きいから	子どもを育てるということに魅力を感じない人が増えたから	子どもは少なく産んで十分に手をかけて育てたいという人が増えたから	育児に対する男性(夫)の理解や協力が足りないから	住宅事情がよくないから	その他	無回答
全体 (n=394)	58.1%	41.9%	37.3%	21.3%	20.8%	18.8%	16.8%	14.2%	12.7%	9.6%	7.1%	7.1%	2.8%
20歳代 (n=38)	68.4%	34.2%	47.4%	23.7%	18.4%	15.8%	15.8%	10.5%	0.0%	10.5%	2.6%	15.8%	0.0%
30歳代 (n=46)	54.3%	58.7%	50.0%	30.4%	19.6%	8.7%	13.0%	8.7%	8.7%	8.7%	0.0%	19.6%	2.2%
40歳代 (n=63)	68.3%	34.9%	34.9%	25.4%	15.9%	14.3%	23.8%	20.6%	14.3%	15.9%	3.2%	6.3%	1.6%
50歳代 (n=70)	60.0%	40.0%	32.9%	25.7%	21.4%	21.4%	21.4%	14.3%	17.1%	10.0%	4.3%	0.0%	1.4%
60歳代 (n=93)	57.0%	36.6%	40.9%	16.1%	21.5%	20.4%	16.1%	12.9%	8.6%	11.8%	10.8%	5.4%	3.2%
70歳以上 (n=78)	43.6%	47.4%	26.9%	14.1%	25.6%	25.6%	10.3%	16.7%	20.5%	2.6%	14.1%	5.1%	6.4%

問7 あなたの家族の中で介護の必要な方が出た場合に、どのように対応しますか。現在介護をしている方は、今後の希望としてお答えください。(〇は1つだけ)

「介護施設を利用する」が28.7%と最も多く、次いで「介護サービスを利用しながら自宅で介護する」が26.4%、「まだわからない」が24.4%となっています。

【経年比較】

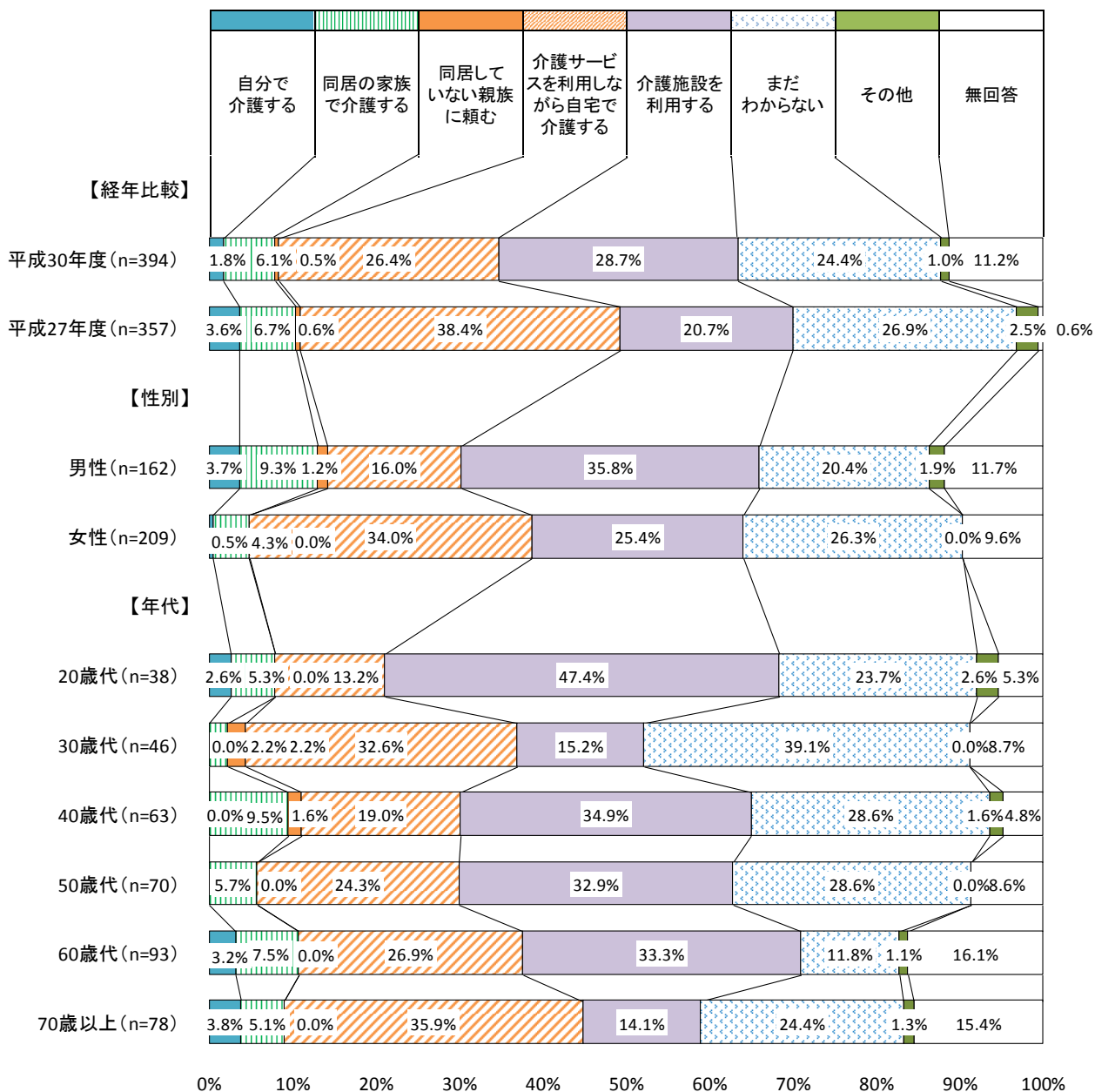
前回調査と比較すると、「介護施設を利用する」が8.0ポイント増加しています。また、「介護サービスを利用しながら自宅で介護する」が12.0ポイント減少しています。

【性別クロス】

性別で比較すると、「介護サービスを利用しながら自宅で介護する」が18.0ポイント男性より女性が上回っており、「介護施設を利用する」が10.4ポイント女性より男性が上回っています。

【年代別クロス】

年代別で比較すると、「20歳代」、「40～60歳代」で「介護施設を利用する」が多くなっており、「30歳代」、「70歳以上」では、「介護サービスを利用しながら自宅で介護する」が多くなっていきます。



問8 あなたご自身が、介護が必要になった場合、誰に介護を頼みたいと思いますか。(〇は1つだけ)

「介護保険サービスの利用(デイサービスや施設入所等)」が66.0%と最も多く、次いで「配偶者(パートナー)」が22.3%、「娘」が4.1%となっています。

【経年比較】

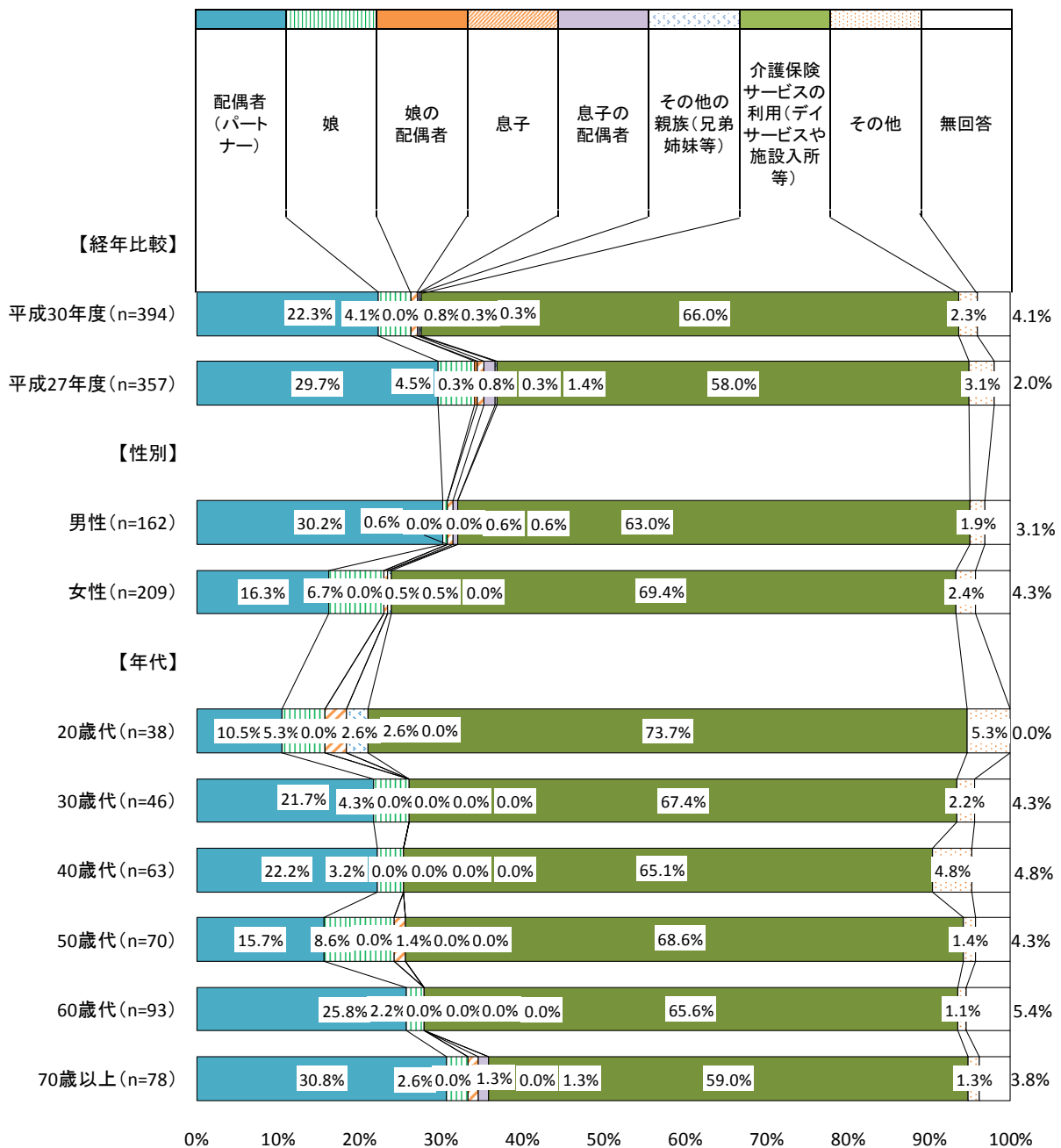
前回調査と比較すると、「介護保険サービスの利用(デイサービスや施設入所等)」が8.0ポイント増加しています。

【性別クロス】

性別で比較すると、「配偶者(パートナー)」が13.9ポイント女性より男性が上回っています。「介護保険サービスの利用(デイサービスや施設入所等)」が6.4ポイント女性より男性が上回っています。

【年代別クロス】

年代別で比較すると、「20歳代」、「50歳代」が他の年代に比べ、「配偶者(パートナー)」が低くなっており、「介護保険サービスの利用(デイサービスや施設入所等)」が代わりに高くなっています。

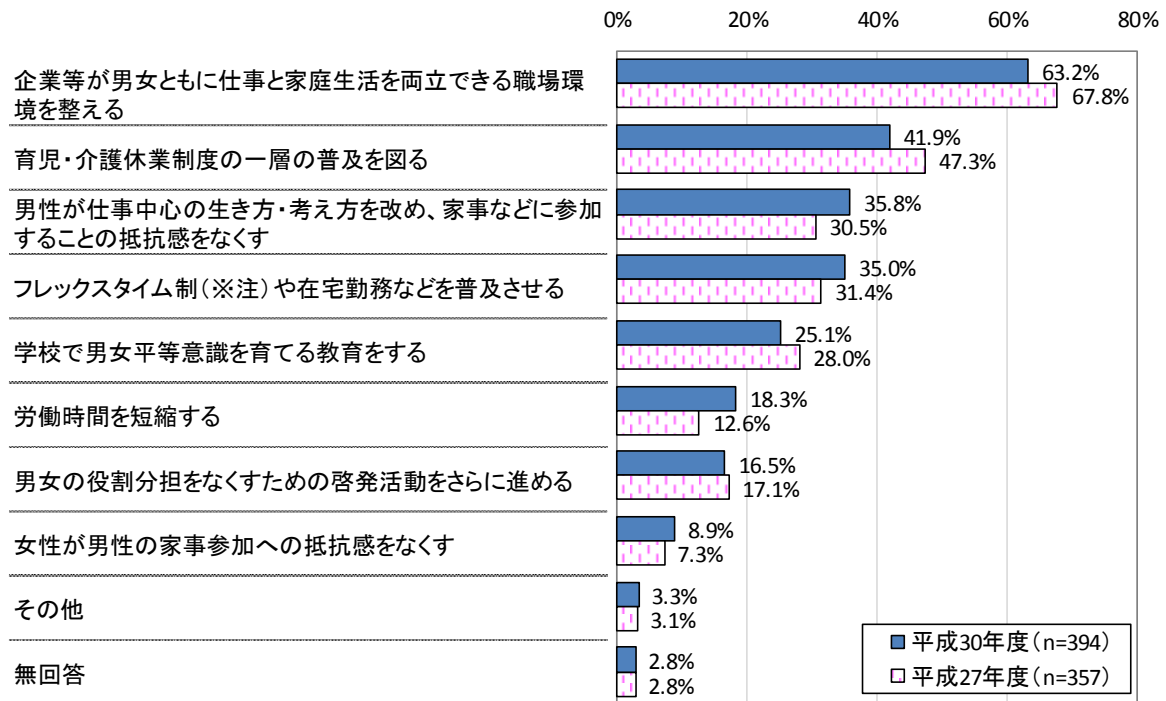


問9 今後、性別にかかわらず家事・子育て・介護を積極的に行っていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」が63.2%と最も多く、次いで「育児・介護休業制度の一層の普及を図る」が41.9%、「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することの抵抗感をなくす」が35.8%となっています。

【経年比較】

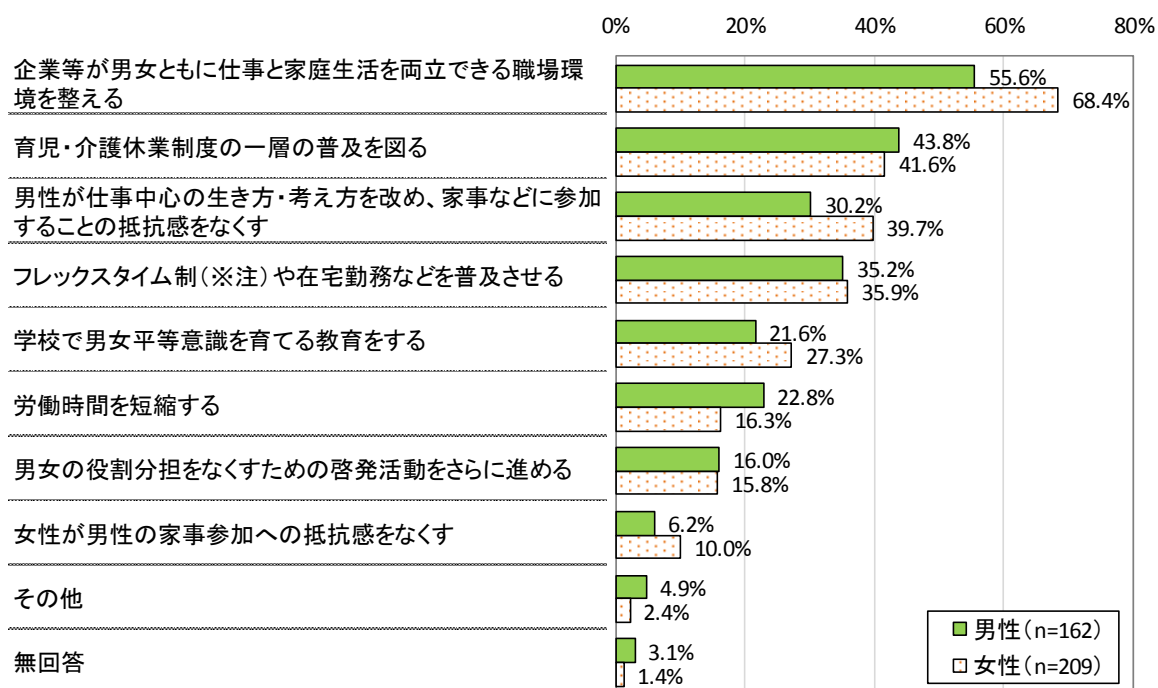
前回調査と比較すると、「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することの抵抗感をなくす」、「フレックスタイム制(※注)や在宅勤務などを普及させる」、「労働時間を短縮する」、「女性が男性の家事参加への抵抗感をなくす」で今回調査が増加しています。



※注：フレックスタイム制・・・労働者が一定の定められた時間帯の中で、労働の始期と終期を自由に決定できる労働時間制

【性別クロス】

性別で比較すると、「企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」、「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することの抵抗感をなくす」が男性よりも女性が大幅に上回っています。また、「労働時間を短縮する」が女性よりも男性がやや上回っています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、ほぼすべての年代において「企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」が多くなっています。また、「30歳代」では、「フレックスタイム制(※注)や在宅勤務などを普及させる」が多くなっています。

	企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える	育児・介護休業制度の一層の普及を図る	男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することの抵抗感をなくす	フレックスタイム制(※注)や在宅勤務などを普及させる	学校で男女平等意識を育てる教育をする	労働時間を短縮する	男女の役割分担をなくすための啓発活動をさらに進める	女性が男性の家事参加への抵抗感をなくす	その他	無回答
全体 (n=394)	63.2%	41.9%	35.8%	35.0%	25.1%	18.3%	16.5%	8.9%	3.3%	2.8%
20歳代 (n=38)	60.5%	36.8%	39.5%	34.2%	26.3%	28.9%	18.4%	10.5%	0.0%	0.0%
30歳代 (n=46)	50.0%	47.8%	34.8%	56.5%	8.7%	37.0%	4.3%	15.2%	4.3%	2.2%
40歳代 (n=63)	68.3%	42.9%	31.7%	50.8%	23.8%	20.6%	4.8%	3.2%	7.9%	1.6%
50歳代 (n=70)	74.3%	45.7%	28.6%	32.9%	18.6%	21.4%	17.1%	4.3%	4.3%	1.4%
60歳代 (n=93)	64.5%	38.7%	40.9%	24.7%	30.1%	11.8%	18.3%	9.7%	2.2%	3.2%
70歳以上 (n=78)	55.1%	41.0%	37.2%	24.4%	34.6%	5.1%	28.2%	11.5%	1.3%	6.4%

IV 就業について

問10 あなたは、働いたことがありますか。(パート、自営業、臨時、内職等も含みます)(○は1つだけ)

「現在働いている」が58.4%、「以前は働いていたが、今は働いていない」が35.3%、「今まで働いたことがない」が1.3%となっています。

【経年比較】

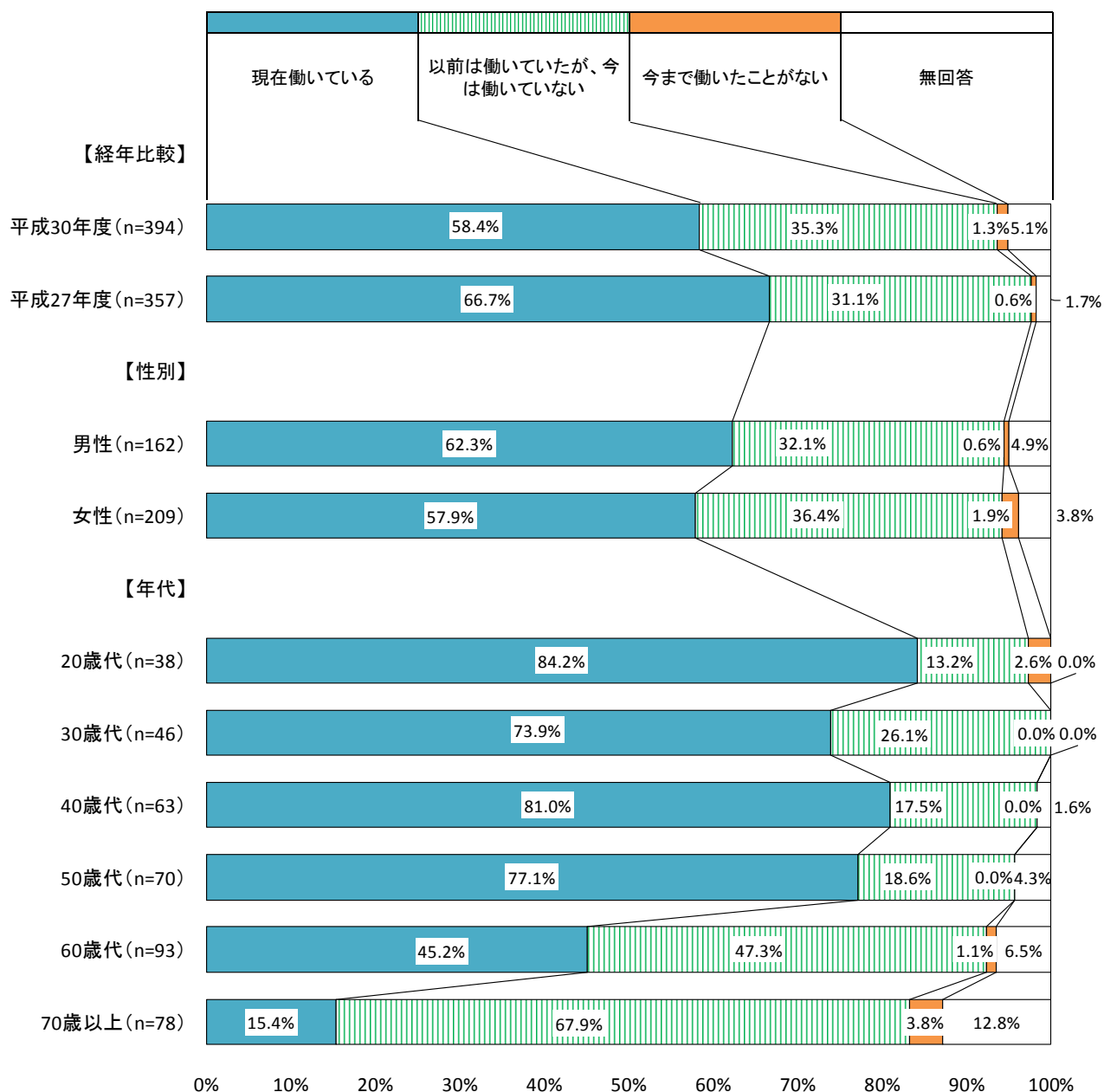
前回調査と比較すると、「現在働いている」が8.3ポイント減少しています。

【性別クロス】

性別で比較すると、「現在働いている」が、4.4ポイント女性よりも男性が上回っています。

【年代別クロス】

年代別で比較すると、「現在働いている」が『20～50歳代』で7割を超え最も多くなっており、『60歳以上』で、「以前は働いていたが、今は働いていない」が多くなっています。

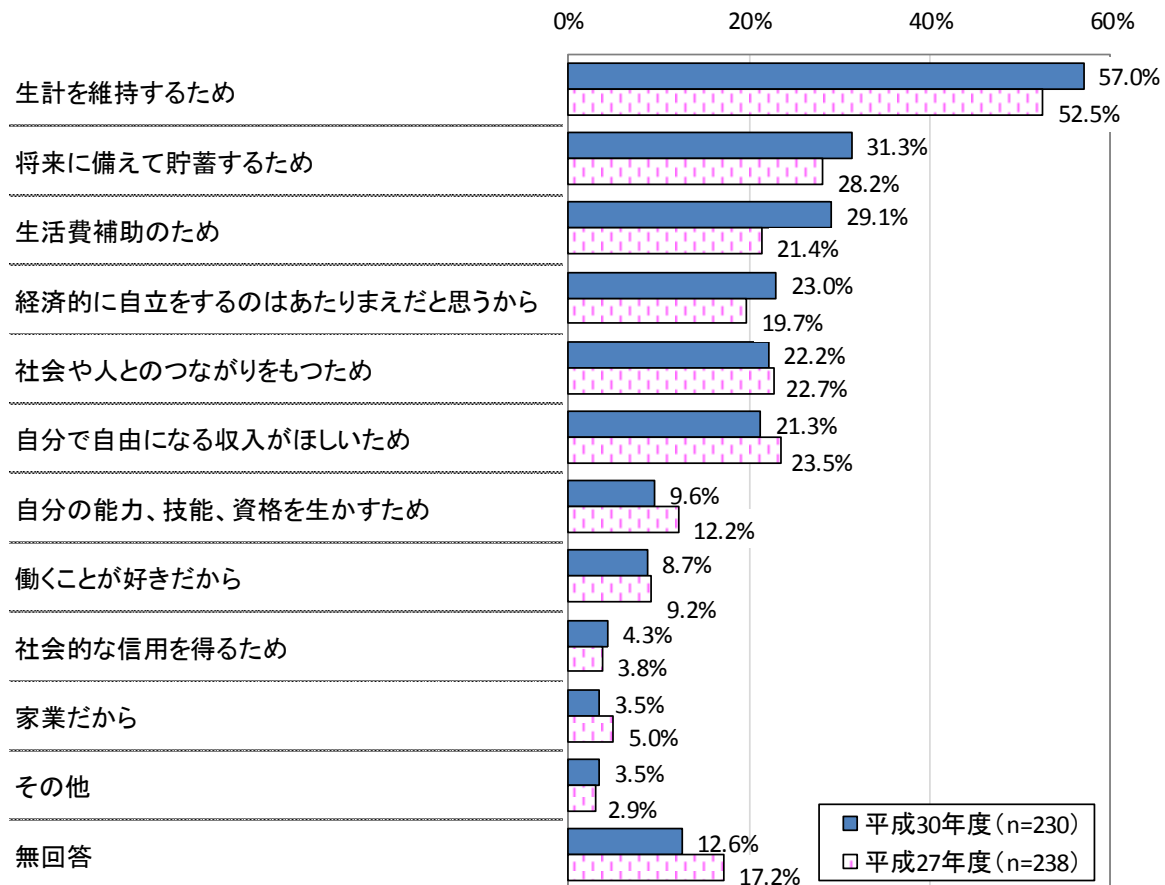


問 10-① 前問（問 10）で、「1 現在働いている」と答えた方にお聞きします。あなたが働いて収入を得ている理由はどのようなことですか。（〇は3つまで）

「生計を維持するため」が 57.0%と最も多く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」が 31.3%、「生活費補助のため」が 29.1%となっています

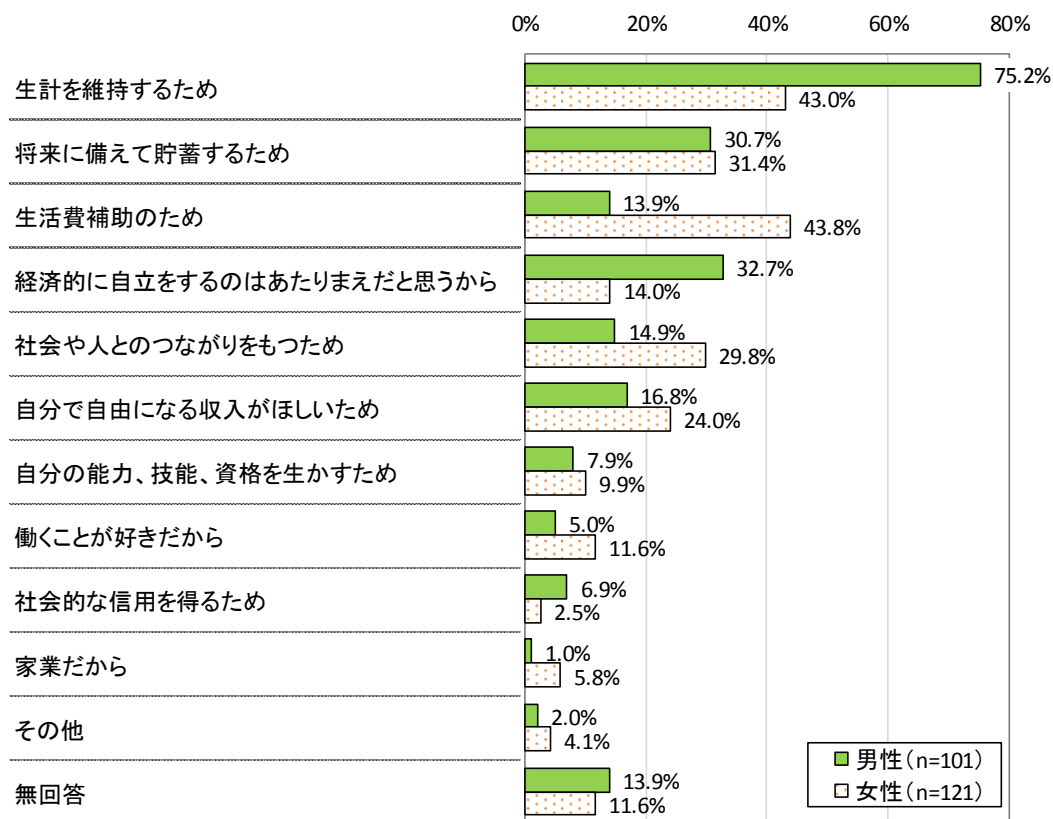
【経年比較】

前回調査と比較すると、「生計を維持するため」、「将来に備えて貯蓄するため」、「生活費補助のため」、「経済的に自立をするのはあたりまえだと思うから」、「社会的な信用を得るため」が増加しています。その中でも「生活費補助のため」では、7.7ポイント増加しています。



【性別クロス】

性別で比較すると、「生計を維持するため」が 32.2 ポイント、「経済的に自立をするのはあたりまえだと思うから」が 18.7 ポイント女性よりも男性が上回っています。また、「生活費補助のため」では、29.9 ポイント男性よりも女性が上回っています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、「20 歳代」では、「自分で自由になる収入がほしいため」、『30～60 歳代』では、「生計を維持するため」、「70 歳以上」では、「生活費補助のため」が多くなっています。

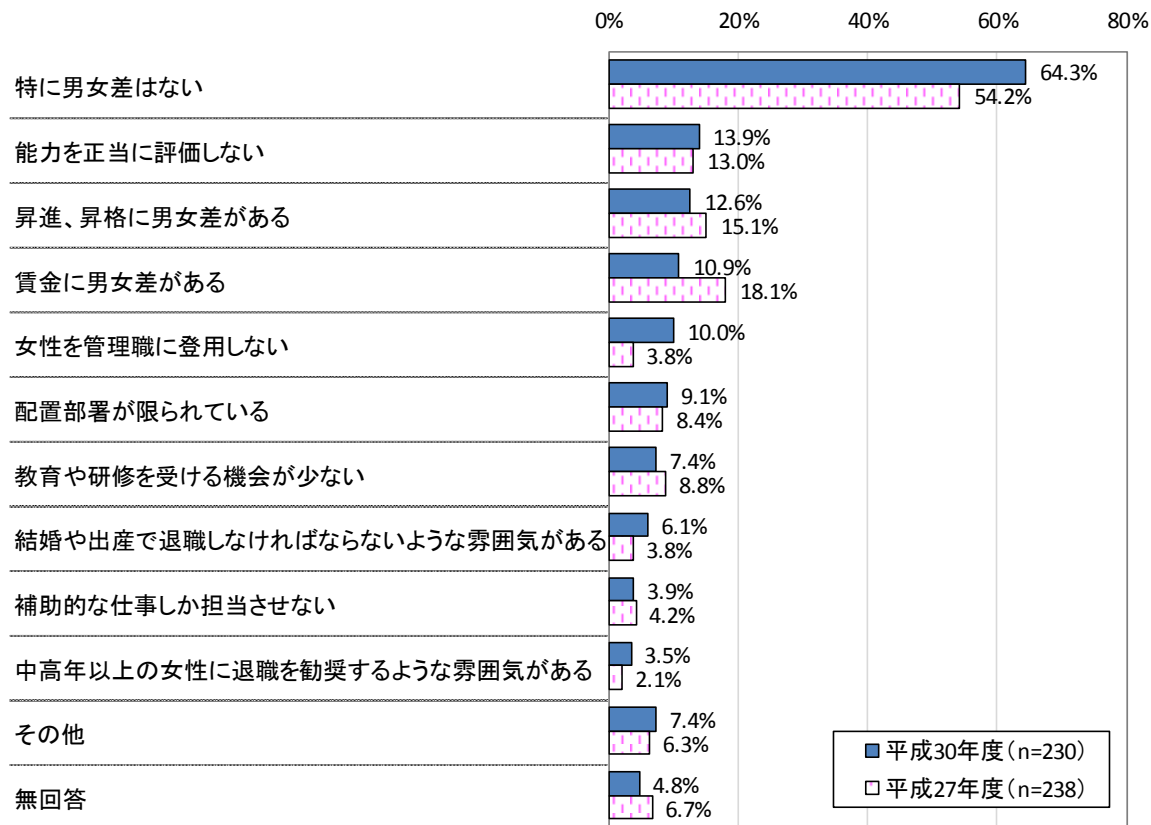
	生計を維持するため	将来に備えて貯蓄するため	生活費補助のため	経済的に自立をするのはあたりまえだと思うから	社会や人とのつながりをもつため	自分で自由になる収入がほしいため	自分の能力、技能、資格を生かすため	働くことが好きだから	社会的な信用を得るため	家業だから	その他	無回答
全体 (n=230)	57.0%	31.3%	29.1%	23.0%	22.2%	21.3%	9.6%	8.7%	4.3%	3.5%	3.5%	12.6%
20歳代 (n=32)	43.8%	28.1%	18.8%	25.0%	34.4%	50.0%	9.4%	3.1%	6.3%	3.1%	3.1%	15.6%
30歳代 (n=34)	76.5%	44.1%	23.5%	35.3%	20.6%	20.6%	5.9%	2.9%	14.7%	0.0%	0.0%	5.9%
40歳代 (n=51)	56.9%	39.2%	33.3%	25.5%	9.8%	19.6%	9.8%	7.8%	2.0%	2.0%	2.0%	13.7%
50歳代 (n=54)	59.3%	24.1%	33.3%	14.8%	18.5%	11.1%	13.0%	11.1%	3.7%	3.7%	3.7%	14.8%
60歳代 (n=42)	57.1%	23.8%	23.8%	21.4%	28.6%	11.9%	9.5%	7.1%	0.0%	7.1%	4.8%	14.3%
70歳以上 (n=12)	16.7%	8.3%	58.3%	8.3%	50.0%	25.0%	0.0%	33.3%	0.0%	8.3%	16.7%	8.3%

問 10-② 前問（問 10）で、「1 現在働いている」と答えた方にお聞きします。あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。

「特に男女差はない」が 64.3%と最も多く、次いで「能力を正當に評価しない」が 13.9%、「昇進、昇格に男女差がある」が 12.6%となっています。

【経年比較】

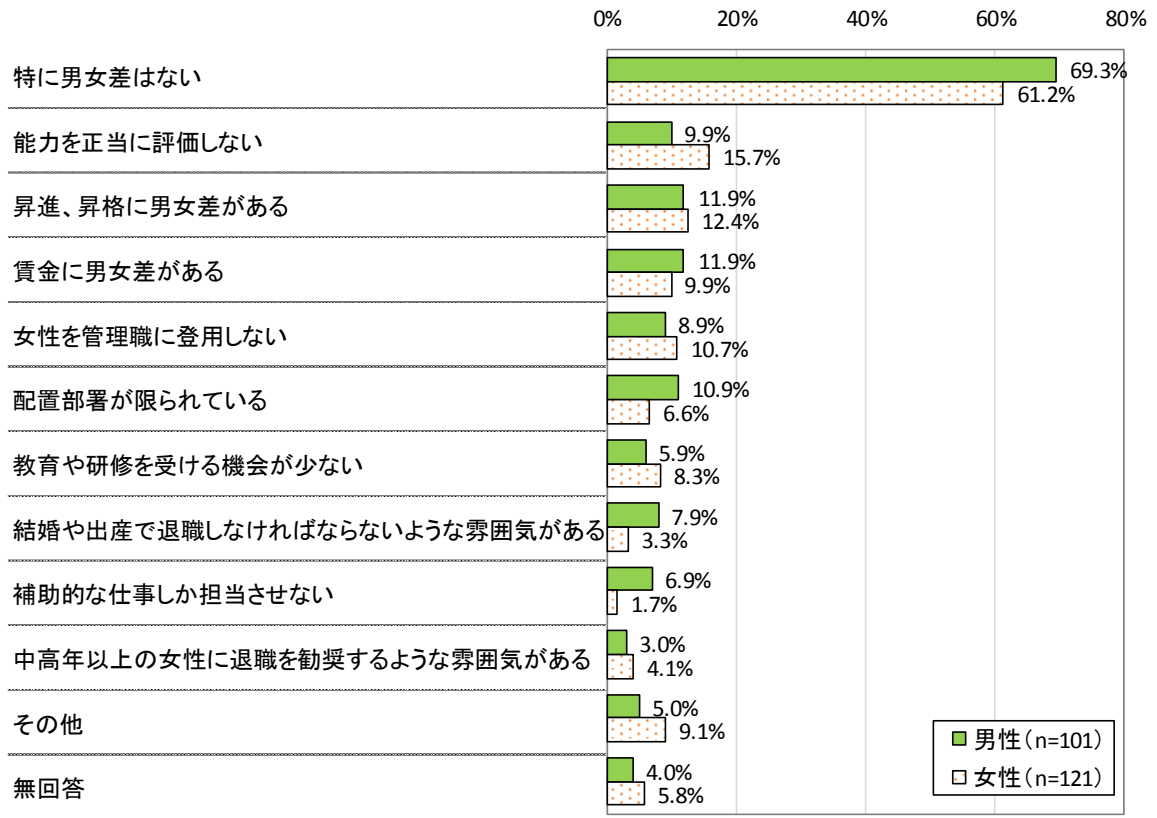
前回調査と比較すると、「特に男女差はない」、「女性を管理職に登用しない」がやや増加しています。また、「賃金に男女差がある」では、今回調査が減少しています。



【性別クロス】

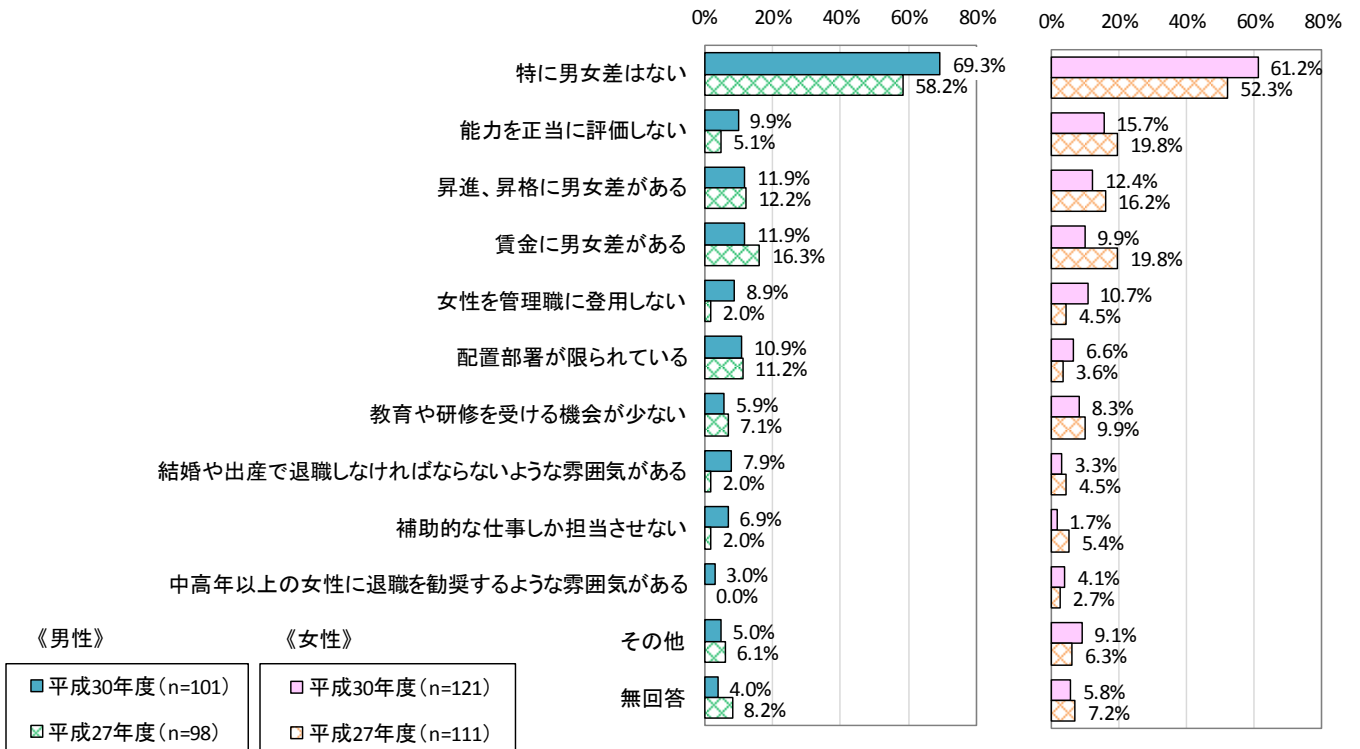
性別で比較すると、「特に男女差はない」、「配置部署が限られている」、「結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある」、「補助的な仕事しか担当させない」が女性よりも男性が上回っています。

また、「能力を正當に評価しない」が男性よりも女性が上回っています。



【経年比較（性別）】

前回調査と比較すると、男女ともに「特に男女差はない」が増加しています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、全ての年代において「特に男女差はない」が多くなっています。

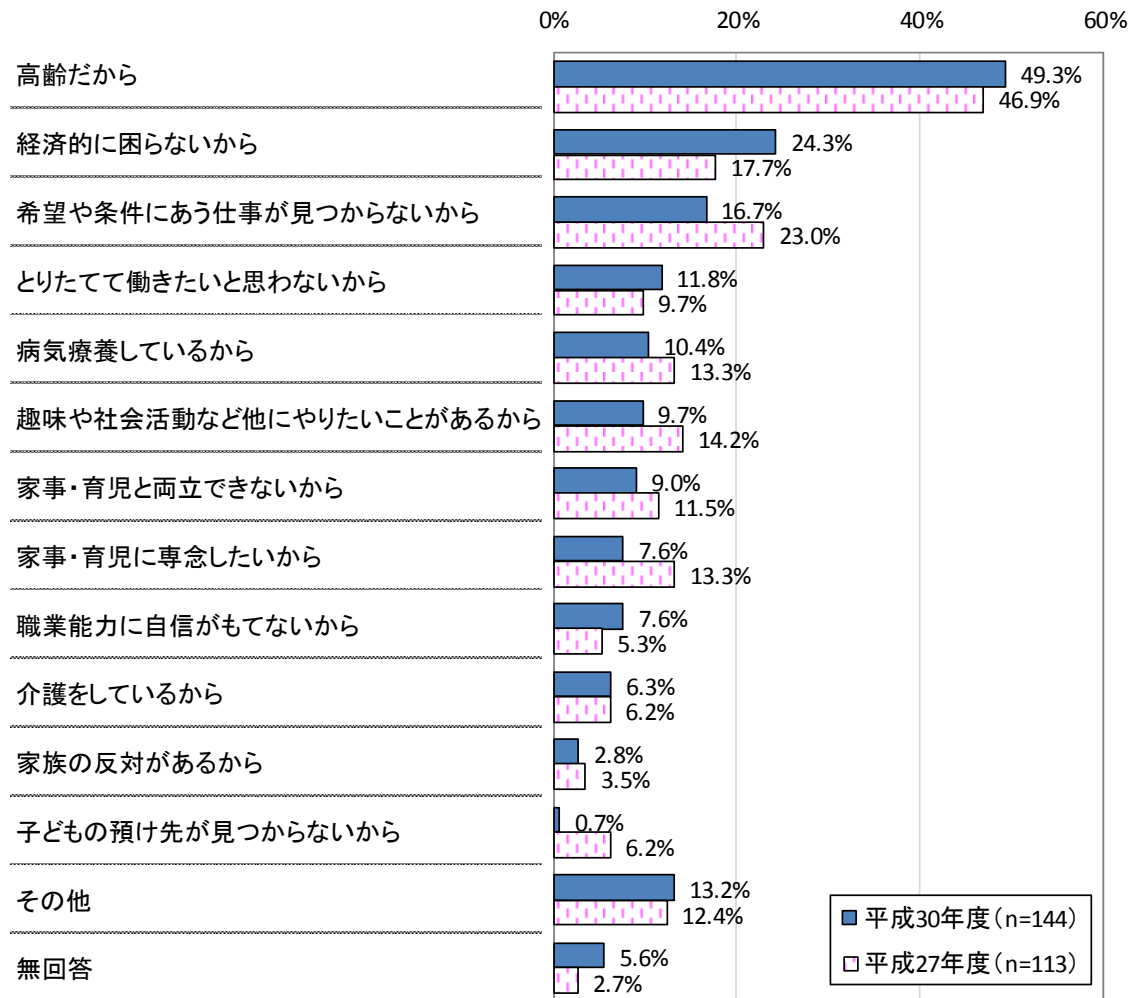
	特に男女差はない	能力を正当に評価しない	昇進、昇格に男女差がある	賃金に男女差がある	女性を管理職に登用しない	配置部署が限られている	ない教育や研修を受ける機会が少	ならないや出産で退職しなければ	い補助的な仕事しか担当させない	中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある	その他	無回答
全体 (n=230)	64.3%	13.9%	12.6%	10.9%	10.0%	9.1%	7.4%	6.1%	3.9%	3.5%	7.4%	4.8%
20歳代 (n=32)	81.3%	9.4%	3.1%	9.4%	3.1%	6.3%	3.1%	6.3%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%
30歳代 (n=34)	70.6%	14.7%	14.7%	8.8%	14.7%	5.9%	8.8%	11.8%	2.9%	2.9%	8.8%	2.9%
40歳代 (n=51)	62.7%	9.8%	13.7%	5.9%	11.8%	5.9%	3.9%	3.9%	3.9%	7.8%	7.8%	2.0%
50歳代 (n=54)	66.7%	18.5%	16.7%	11.1%	7.4%	14.8%	11.1%	3.7%	3.7%	1.9%	5.6%	5.6%
60歳代 (n=42)	59.5%	14.3%	7.1%	16.7%	9.5%	9.5%	4.8%	4.8%	7.1%	4.8%	4.8%	9.5%
70歳以上 (n=12)	33.3%	8.3%	16.7%	16.7%	16.7%	8.3%	16.7%	0.0%	8.3%	0.0%	25.0%	16.7%

問 10-③ 問（問 10）で、「2 以前は働いていたが、今は働いていない」「3 今まで働いたことがない」と答えた方にお聞きします。あなたが、現在働いていない理由は次のどれにあたりますか。（〇は3つまで）

「高齢だから」が 49.3%と最も多く、次いで「経済的に困らないから」が 24.3%、「希望や条件にあう仕事が見つからないから」が 16.7%となっています。

【経年比較】

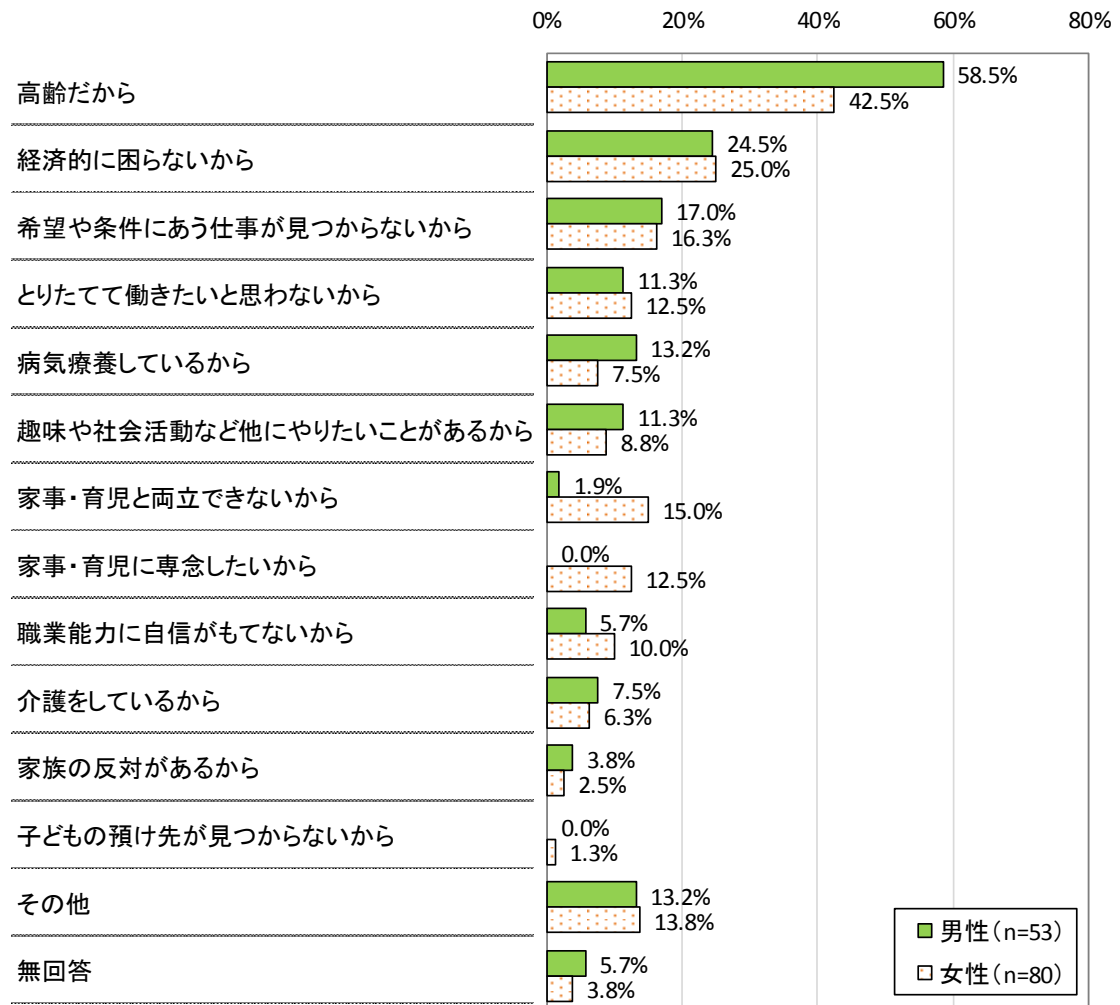
前回調査と比較すると、「経済的に困らないから」が 6.6 ポイント増加しています。また、「希望や条件にあう仕事が見つからないから」が 6.3 ポイント、「家事・育児に専念したいから」が 5.7 ポイント減少しています。



【性別クロス】

性別で比較すると、「高齢だから」が16.0ポイント女性よりも男性が上回っています。

また、「家事・育児と両立できないから」が13.1ポイント、「家事・育児に専念したいから」が12.5ポイント男性よりも女性が上回っています。



問 11 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。(〇は1つだけ)

「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで働く」が31.5%と最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける」が30.5%、「子育ての時期だけ一時やめて、その後もフルタイムで働く」が17.0%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける」が3.6ポイント増加しています。

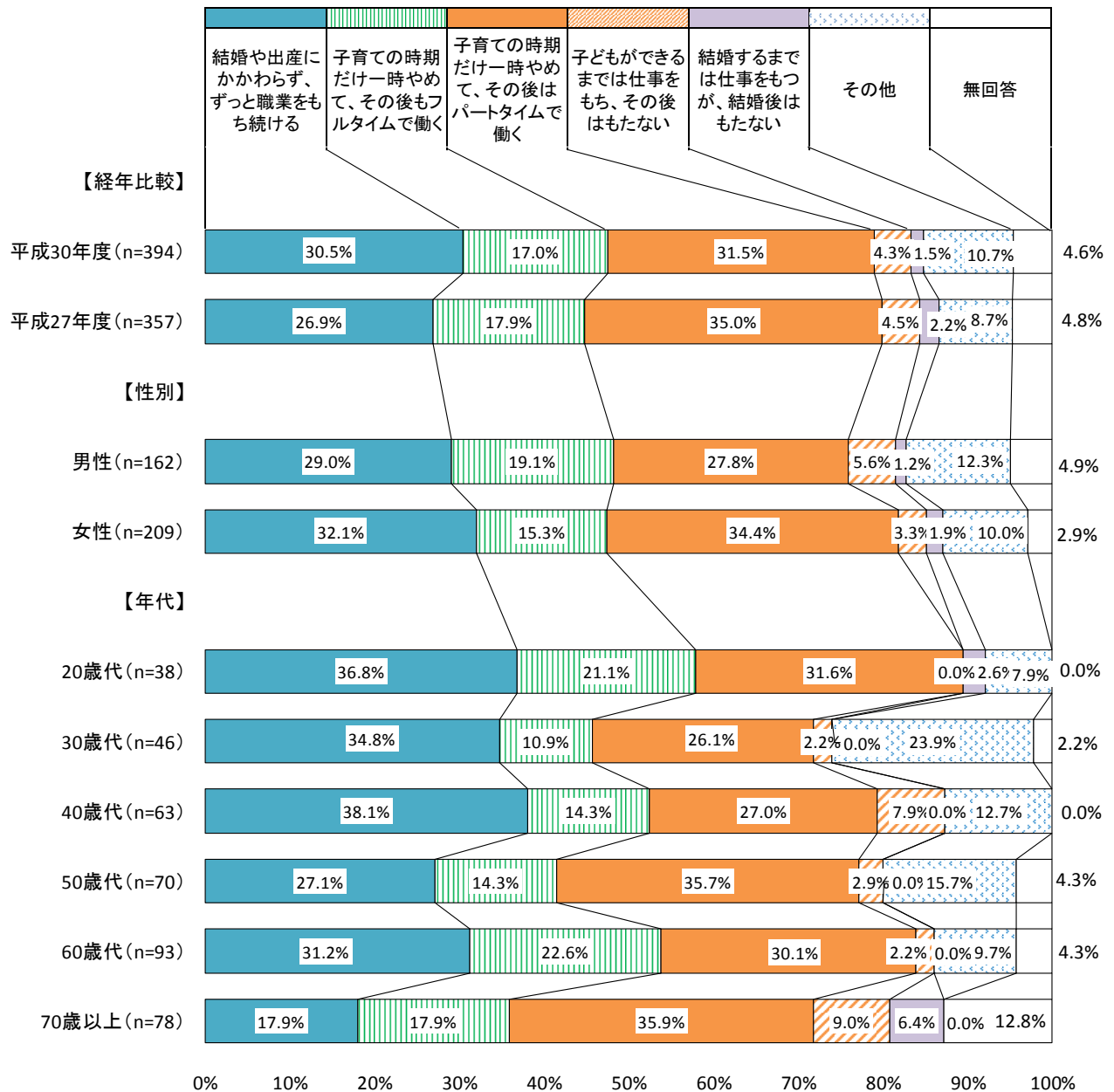
【性別クロス】

性別で比較すると、「子育ての時期だけ一時やめて、その後もフルタイムで働く」が3.8ポイント女性よりも男性が上回っています。

また、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで働く」で、6.6ポイント男性よりも女性が上回っています。

【年代別クロス】

年代別で比較すると、『20～40歳代』は「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける」が最も多く、『50歳以上』では「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで働く」がやや多くなっています。

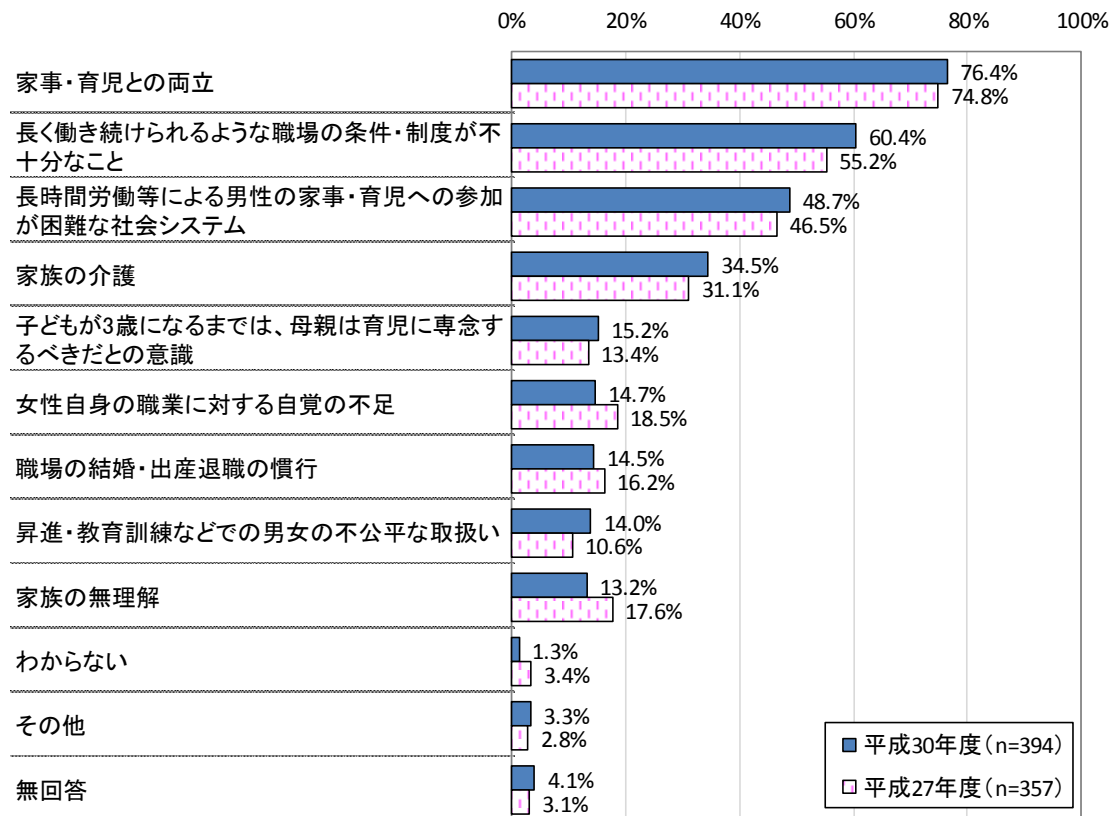


問 12 女性が長く働き続けるのを困難にしたり、障害になっているのはどんなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「家事・育児との両立」が76.4%と最も多く、次いで「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分なこと」が60.4%、「長時間労働等による男性の家事・育児への参加が困難な社会システム」が48.7%となっています。

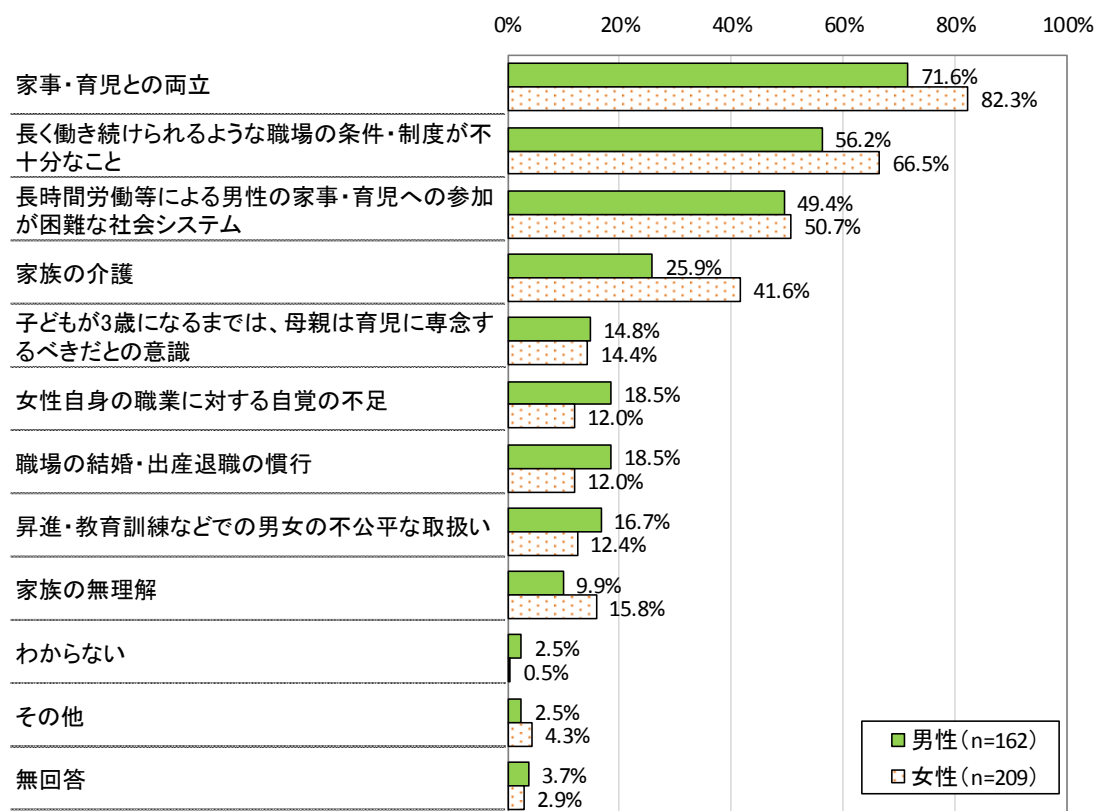
【経年比較】

前回調査と比較すると、あまり大きな差はありませんが、「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分なこと」、「家族の介護」、「昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取扱い」がやや増加しています。



【性別クロス】

性別で比較すると、「家事・育児との両立」が10.7ポイント、「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分なこと」が10.3ポイント、「家族の介護」が15.7ポイント、「家族の無理解」が5.9ポイント男性よりも女性が上回っています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、すべての年代において「家事・育児との両立」が多くなっています。

	家事・育児との両立	長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分なこと	長時間労働等による男性の参加が困難な社会システム	家族の介護	意識	子どもが3歳になるまで、母親は育児に専念するべきだとの意識	女性自身の職業に対する自覚の不足	職場の結婚・出産退職の慣行	不公平な取扱い	昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取扱い	家族の無理解	わからない	その他	無回答
全体 (n=394)	76.4%	60.4%	48.7%	34.5%	15.2%	14.7%	14.5%	14.0%	13.2%	1.3%	3.3%	4.1%		
20歳代 (n=38)	81.6%	68.4%	60.5%	10.5%	21.1%	13.2%	28.9%	18.4%	7.9%	0.0%	2.6%	2.6%		
30歳代 (n=46)	84.8%	58.7%	58.7%	21.7%	17.4%	10.9%	6.5%	15.2%	6.5%	0.0%	4.3%	0.0%		
40歳代 (n=63)	82.5%	57.1%	54.0%	34.9%	12.7%	19.0%	14.3%	12.7%	19.0%	0.0%	6.3%	0.0%		
50歳代 (n=70)	78.6%	61.4%	58.6%	41.4%	11.4%	10.0%	11.4%	15.7%	14.3%	1.4%	1.4%	4.3%		
60歳代 (n=93)	73.1%	67.7%	43.0%	44.1%	9.7%	20.4%	16.1%	14.0%	15.1%	0.0%	3.2%	3.2%		
70歳以上 (n=78)	64.1%	50.0%	32.1%	34.6%	23.1%	12.8%	11.5%	10.3%	12.8%	5.1%	2.6%	11.5%		

V 人権の尊重について

問 13 あなたは今までに、職場や学校などで、セクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けた経験、または見たり聞いたりしたことがありますか。該当する番号に○をつけてください。（○は1つだけ）

「ある」が25.9%、「ない」が66.5%となっています。

【経年比較】

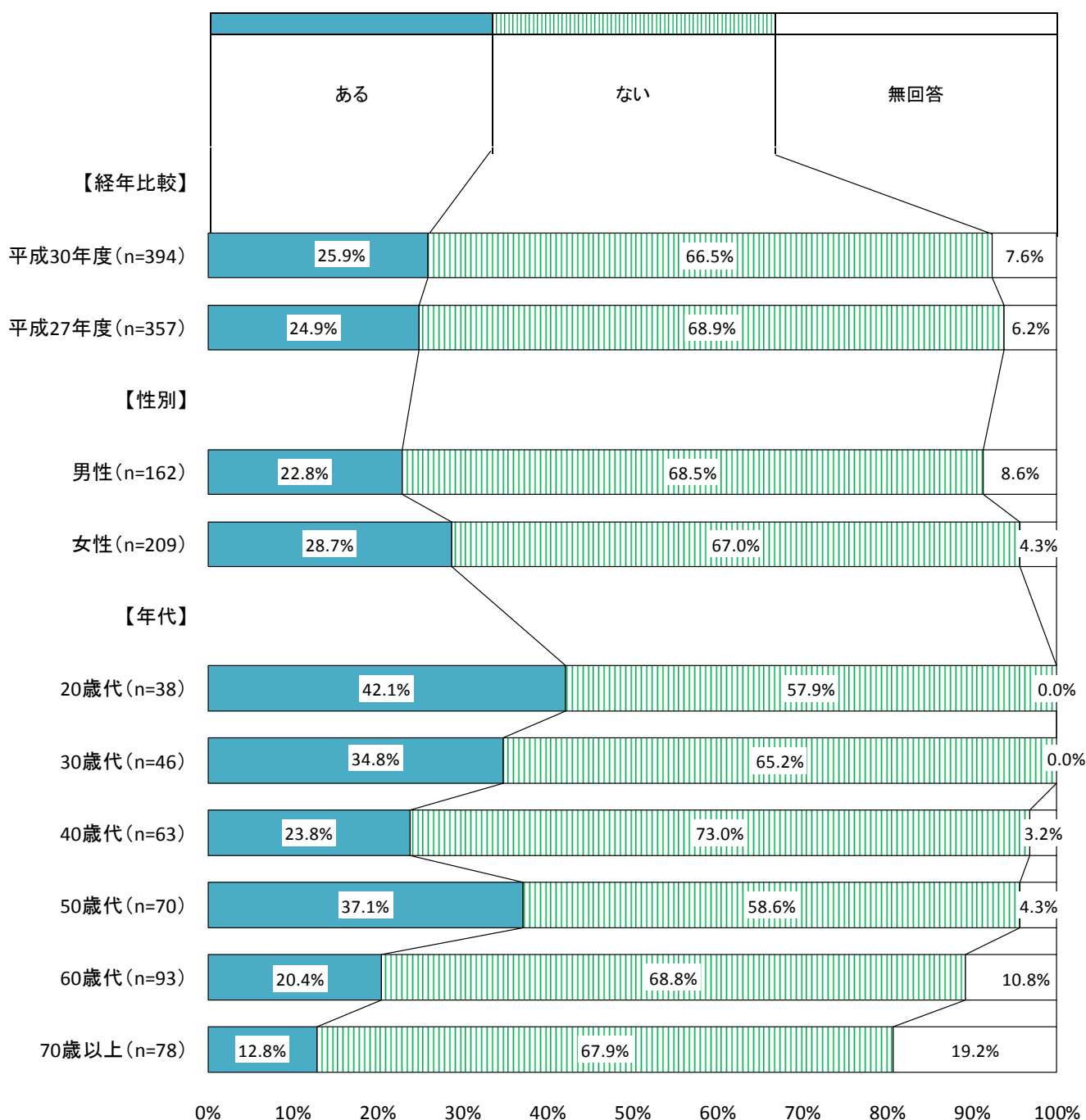
前回調査と比較すると、あまり差はありませんでした。

【性別クロス】

性別で比較すると、「ある」が、5.9ポイント男性よりも女性が上回っています。

【年代別クロス】

年代別で比較すると、『20～30歳代』、「50歳代」の「ある」が多くなっています。

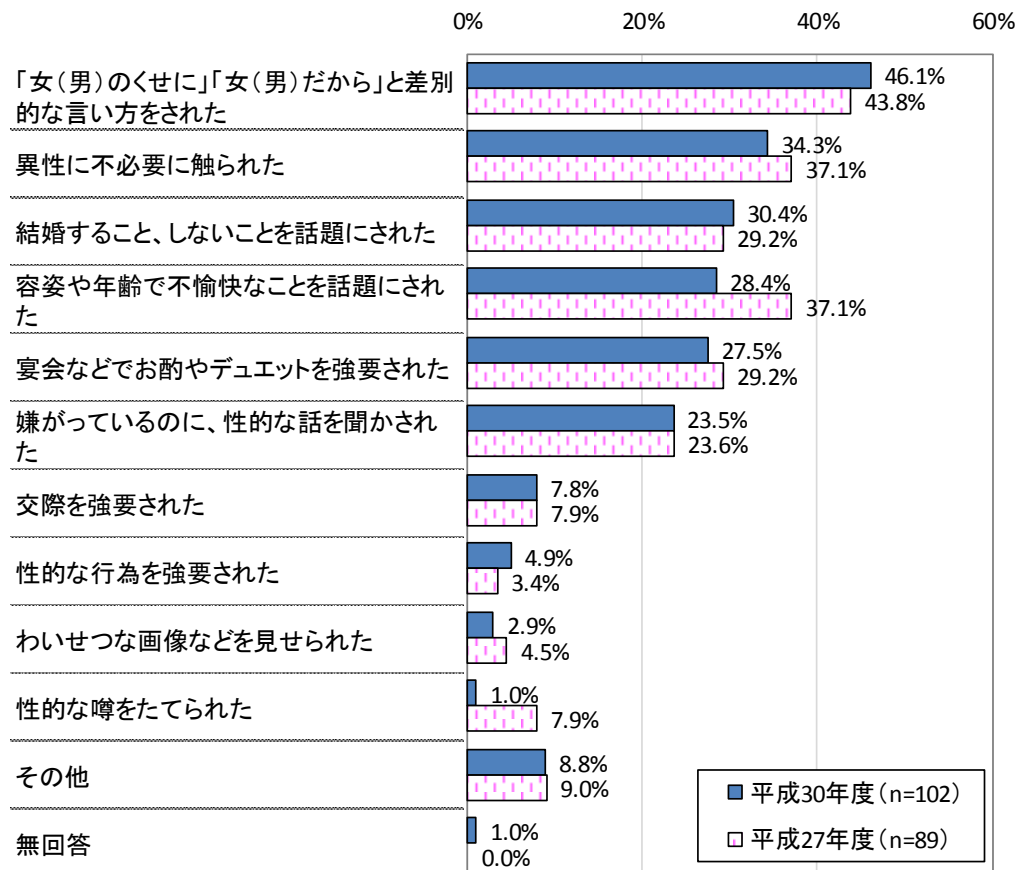


問 13-① 前問（問 13）で、「1 ある」と答えた方にお聞きします。それは、どのような行為でしょうか。（あてはまるものすべてに○）

「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた」が 46.1%と最も多く、次いで「異性に不必要に触られた」が 34.3%、「結婚すること、しないことを話題にされた」が 30.4%となっています。

【経年比較】

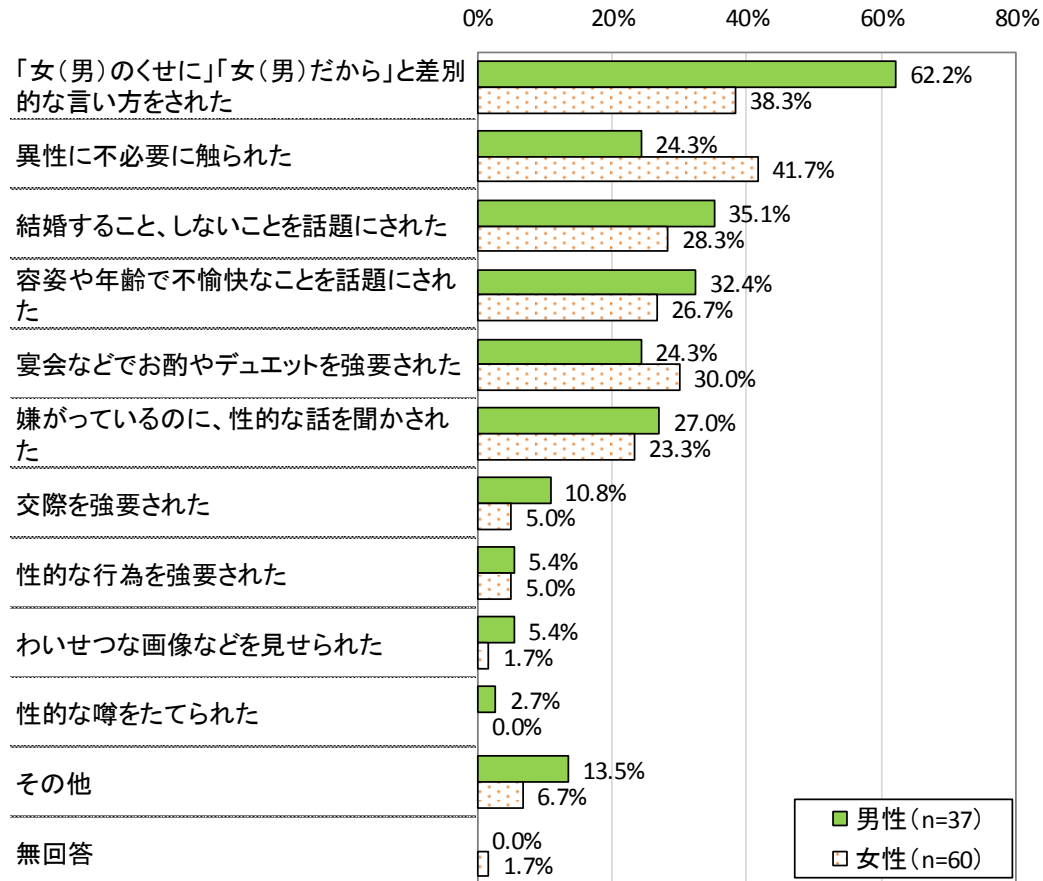
前回調査と比較すると、「容姿や年齢で不愉快なことを話題にされた」が、8.7ポイント、「性的な噂をたてられた」が 6.9ポイント減少しています。



【性別クロス】

性別で比較すると、「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた」が、23.9ポイント女性よりも男性が上回っています。

また、「異性に不必要に触られた」で、17.4ポイント男性よりも女性が上回っています。

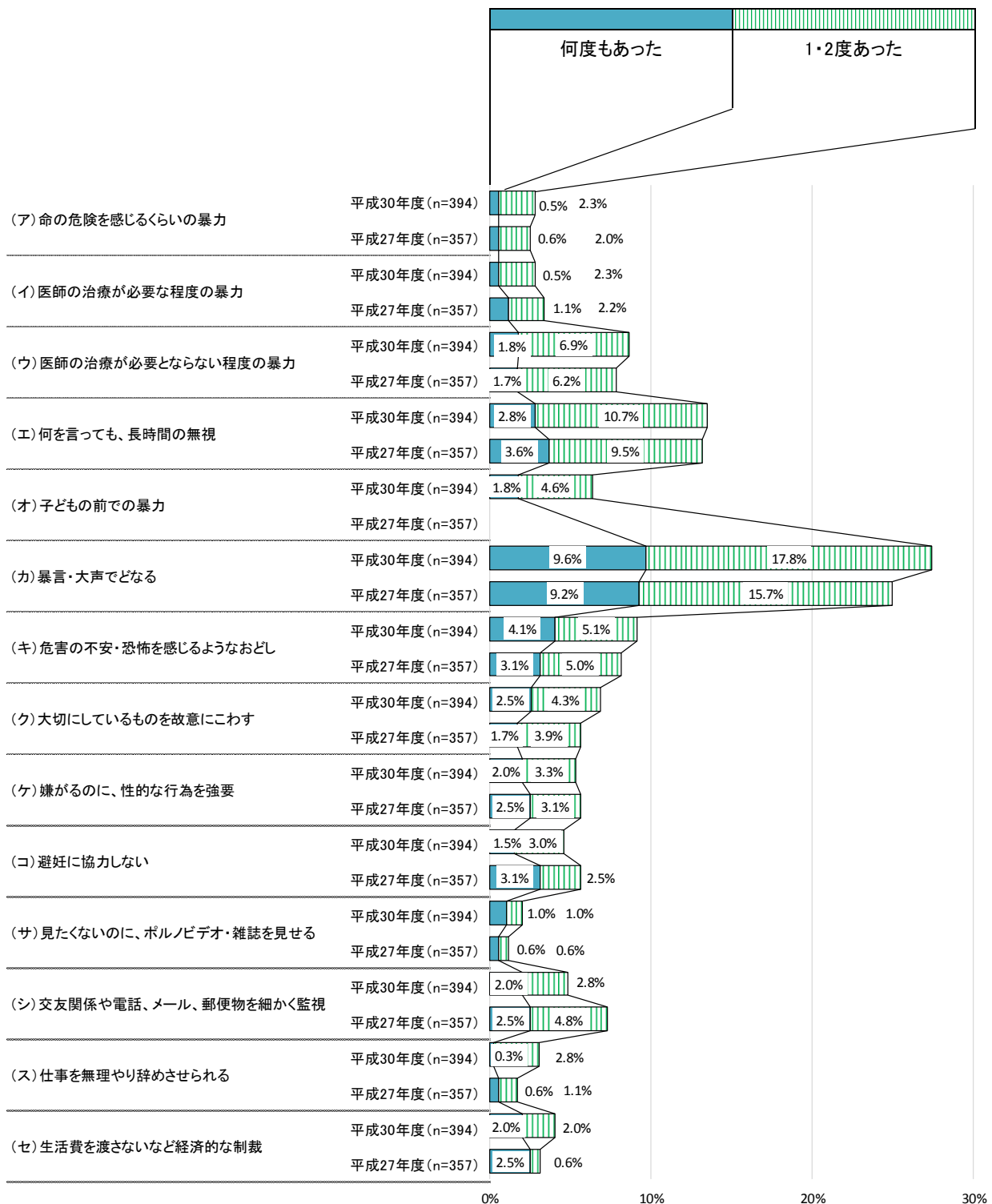


問 14 配偶者や親密な関係にある人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）が問題になっていますが、あなたは今までに、（ア）～（セ）のような行為を受けたことがありますか。（〇はそれぞれ1つ）

「何度もあった」、「1・2度あった」を合わせた回答では、「暴言・大声でどなる」が27.4%と最も多く、次いで「何を言っても、長時間の無視」、13.5%となっています。

【経年比較】

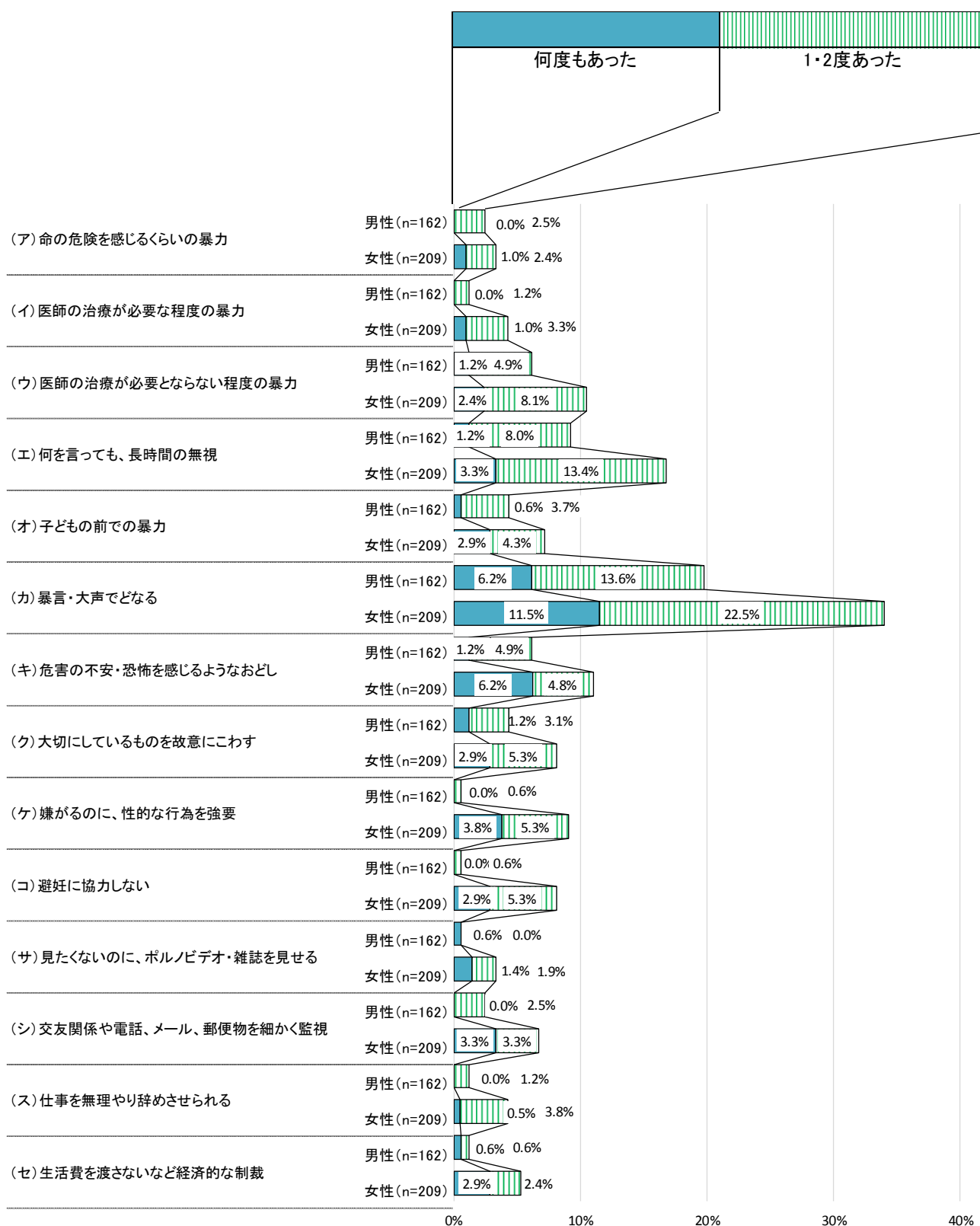
前回調査と比較すると、「暴言・大声でどなる」が2.5ポイント増加しています。



※「子どもの前での暴力」は、平成27年度調査はありませんでした。

【性別クロス】

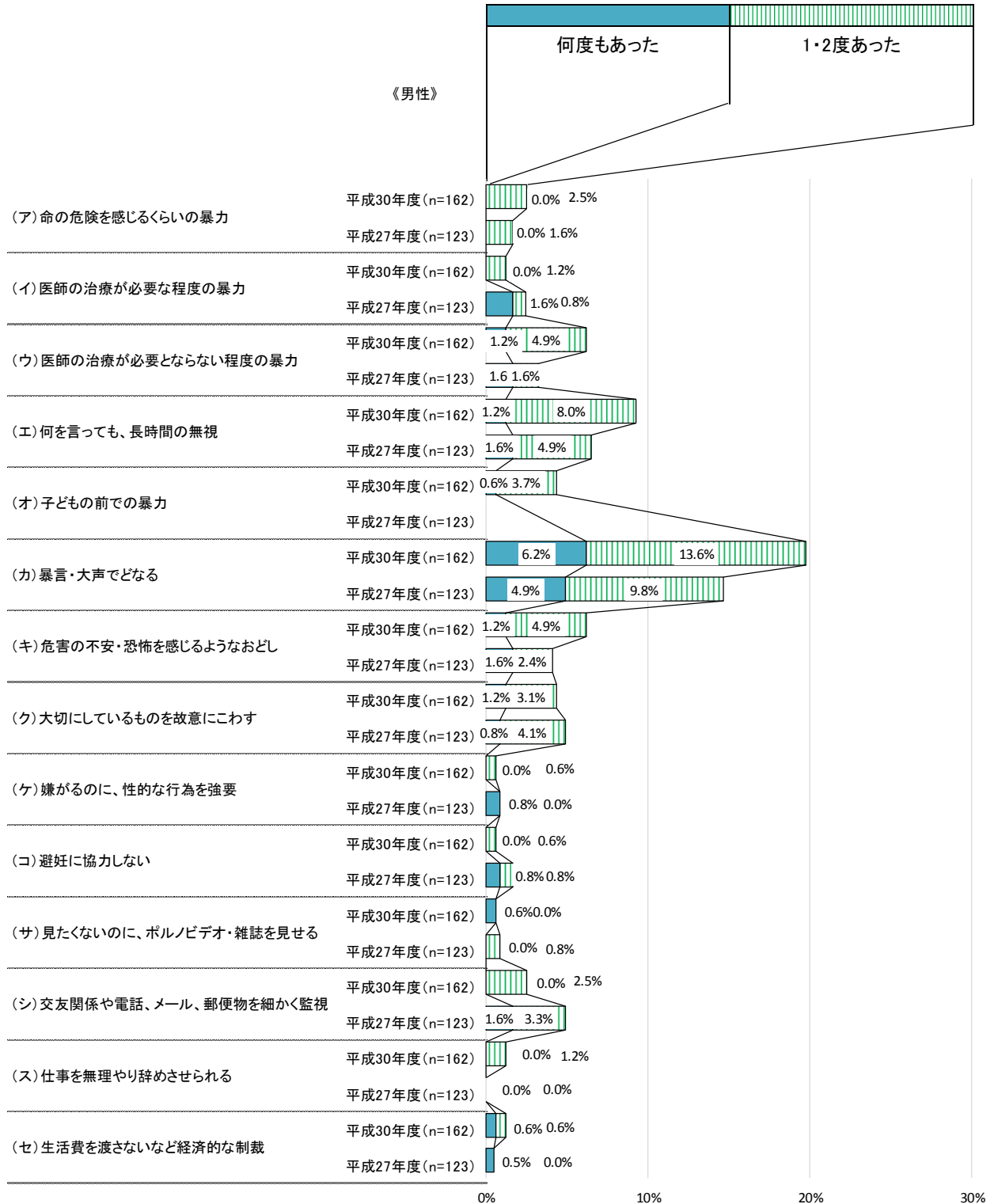
性別で比較すると、すべての項目で女性が上回っています。その中でも「暴言・大声でどなる」が、14.2ポイント男性よりも女性が上回っています。



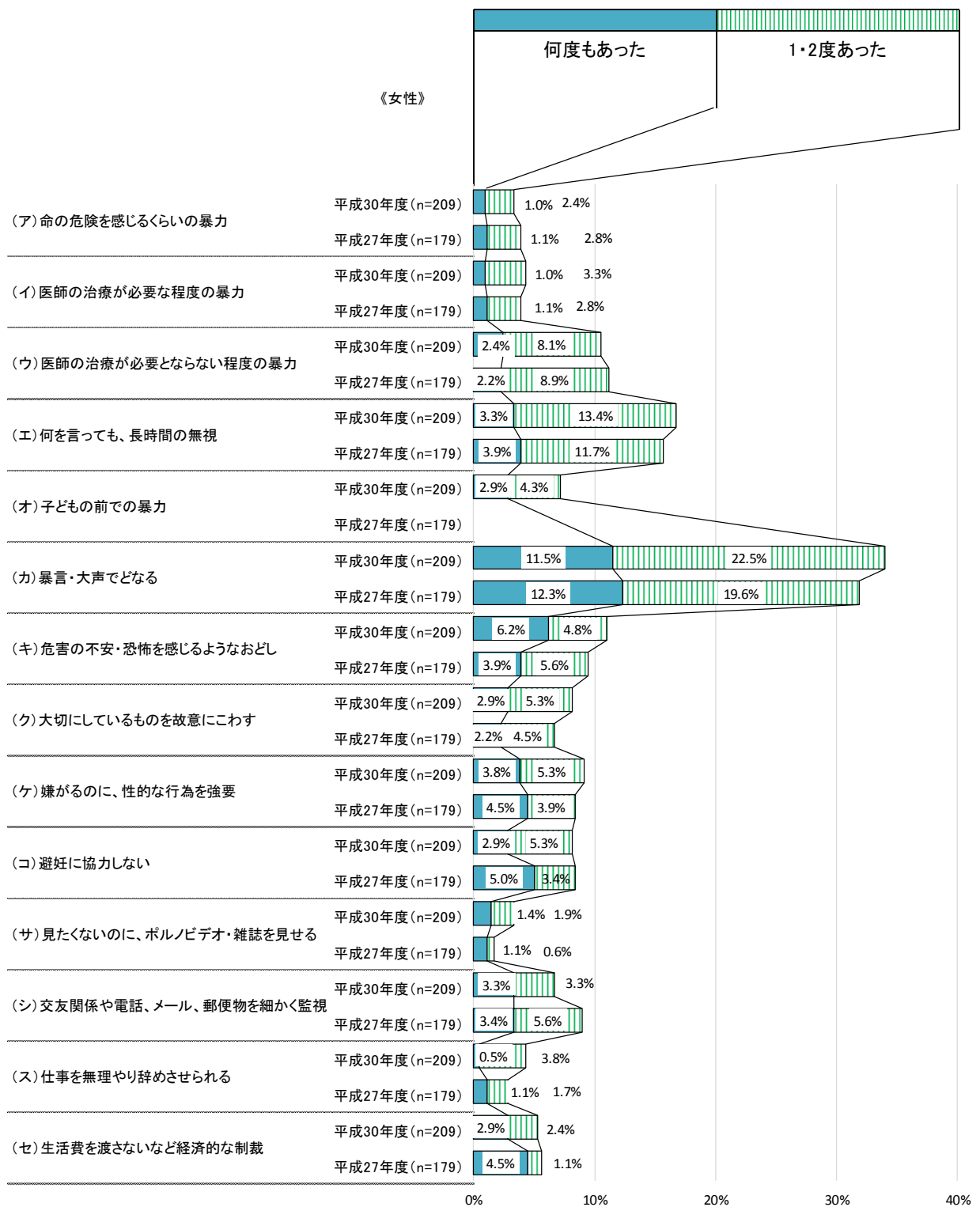
【経年比較（性別）】

前回調査を性別で比較すると、「男性」で、「医師の治療が必要とならない程度の暴力」、「何を言っても、長時間の無視」、「暴言・大声でどなる」が前回調査より増加しています。

一方で、「女性」では、「何を言っても、長時間の無視」、「暴言・大声でどなる」がやや増加しています。



※「子どもの前での暴力」は、平成27年度調査はありませんでした。



※「子どもの前での暴力」は、平成27年度調査はありませんでした。

問 14-① 前問（問 14）で1つでも「何度もあった」「1・2度あった」と答えた方にお聞きします。あなたは、その受けた行為に対して、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（〇は1つだけ）

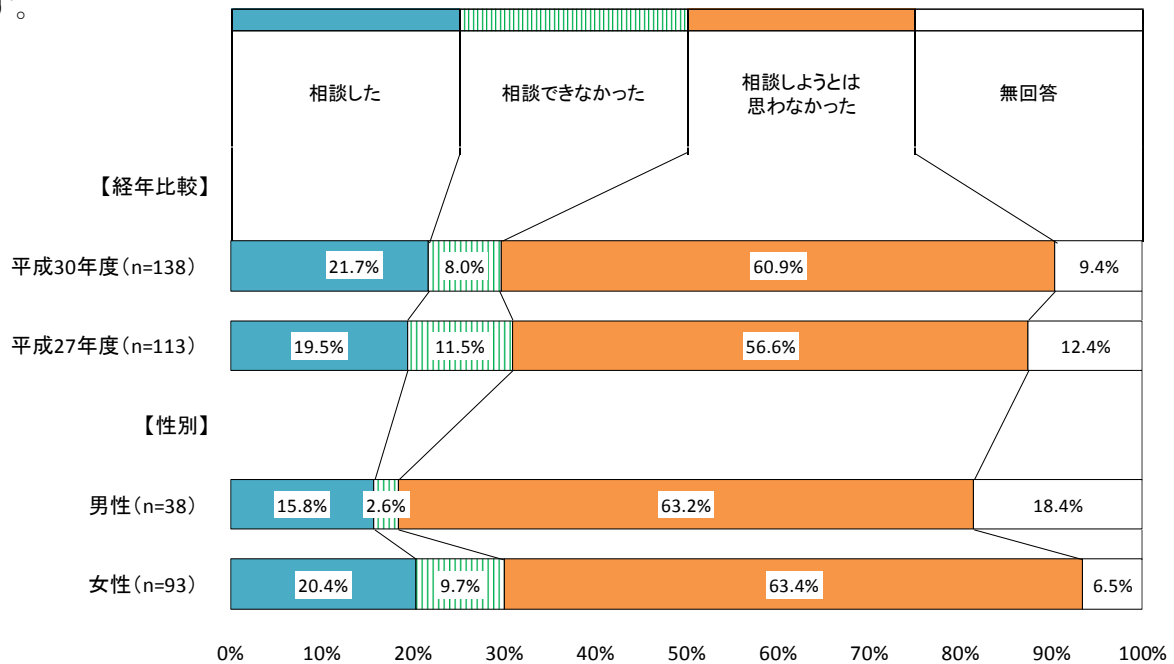
「相談した」が 21.7%、「相談できなかった」が 8.0%、「相談しようとは思わなかった」が 60.9%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「相談した」が、2.2ポイント増加しています。

【性別クロス】

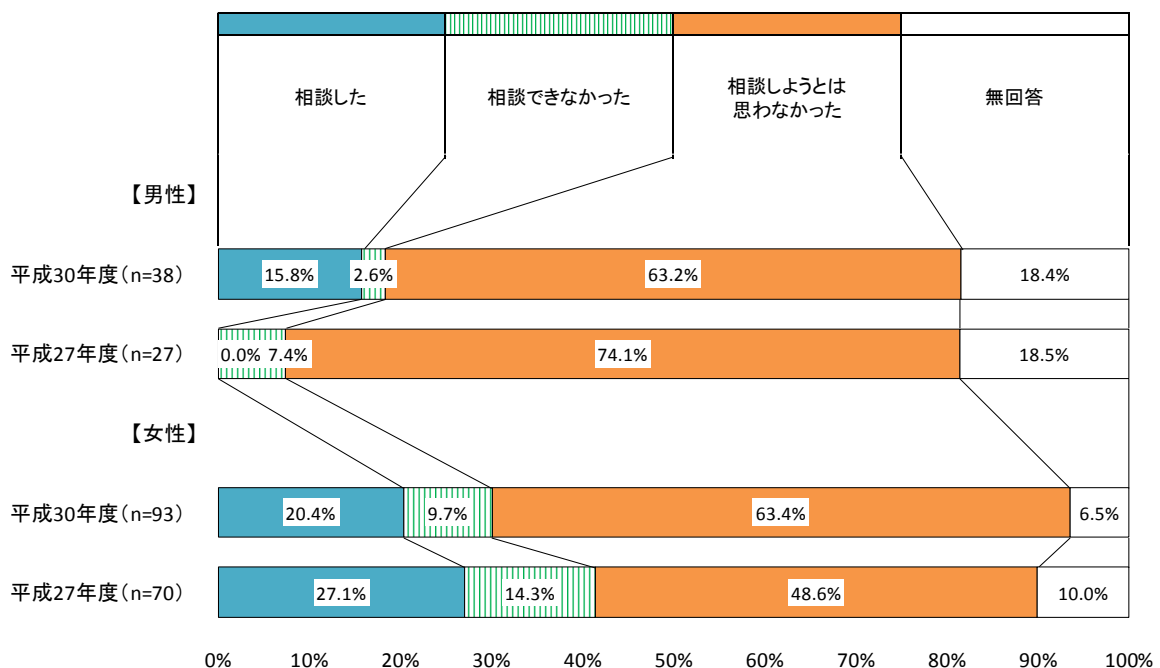
性別で比較すると、「相談した」で、4.6ポイント男性よりも女性が上回っています。



【経年比較（性別）】

前回調査を性別で比較すると、「男性」の「相談した」が、15.8ポイント増加しています。

また、「女性」の「相談しようとは思わなかった」が、14.8ポイント増加しています。

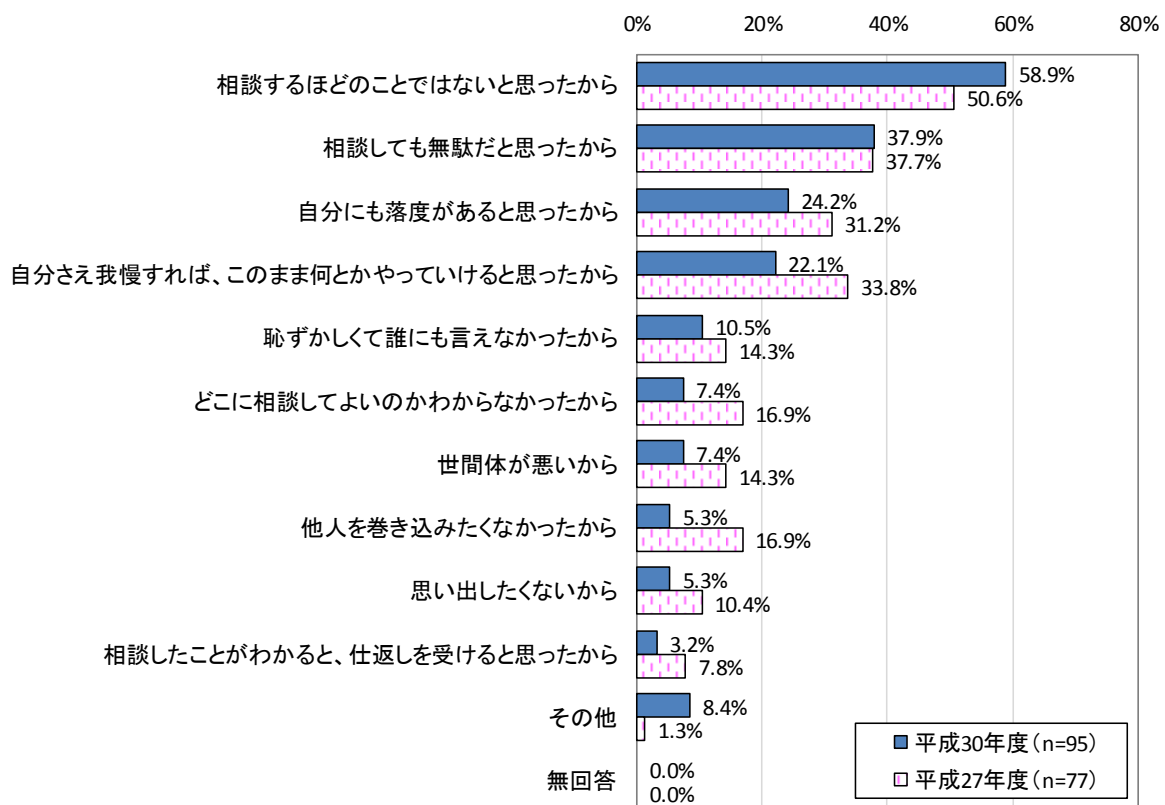


問 14-② 前問（問 14-①）で「2 相談できなかった」「3 相談しようとは思わなかった」と答えた方にお聞きします。相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「相談するほどのことではないと思ったから」が 58.9%と最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が 37.9%、「自分にも落度があると思ったから」が 24.2%となっています。

【経年比較】

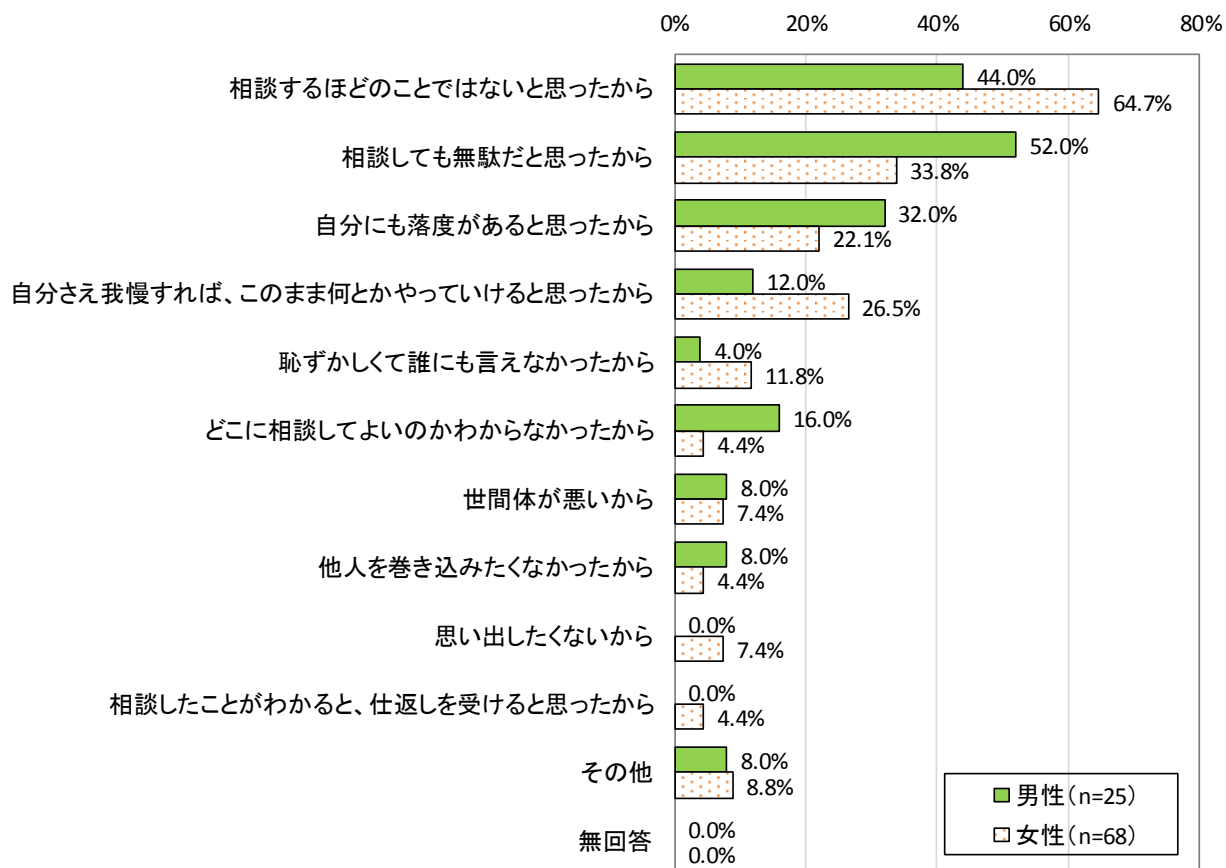
前回調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから」が 8.3 ポイント増加しています。また、「相談しても無駄だと思ったから」がほぼ同様に、それ以外の項目は前回調査より減少しています。



【性別クロス】

性別で比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから」が 20.7 ポイント、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていたらよかったから」が 14.5 ポイント男性よりも女性が上回っています。

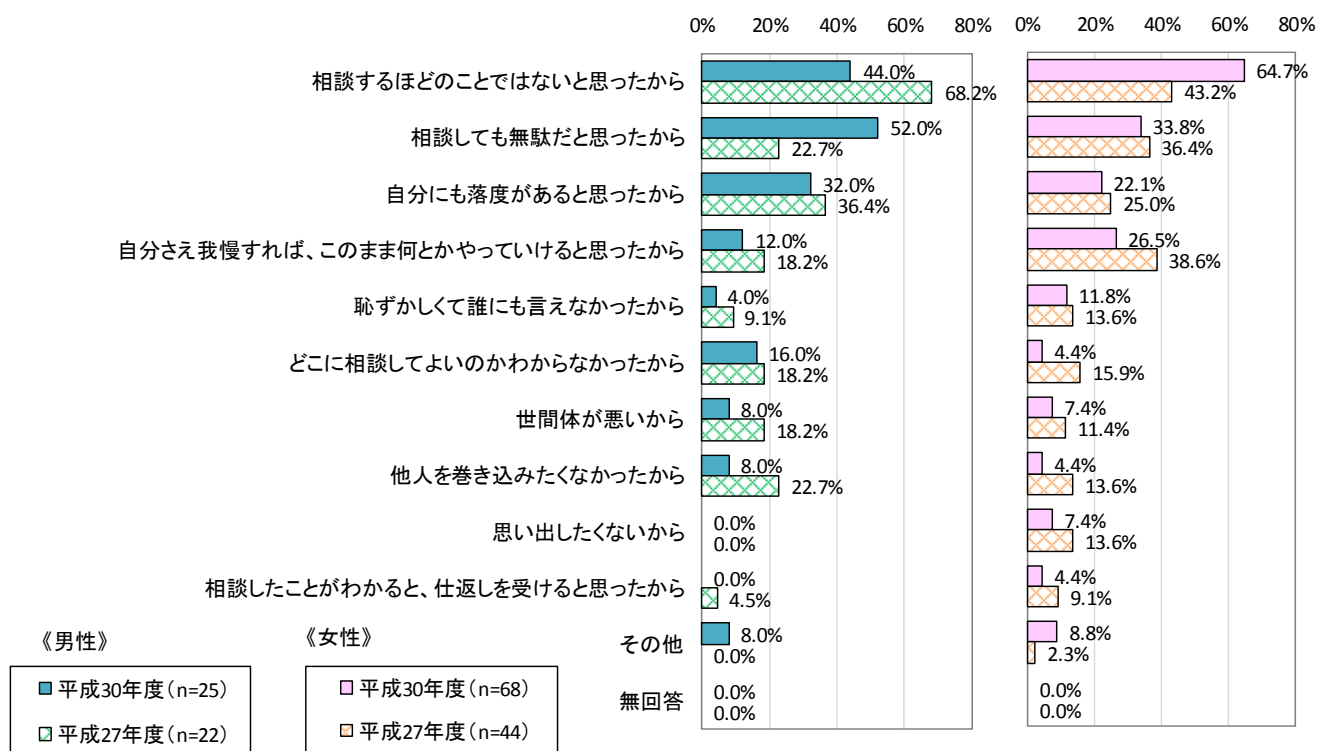
また、「相談しても無駄だと思ったから」が 18.2 ポイント、「自分にも落度があると思ったから」が 9.9 ポイント、「どこに相談してよいのかわからなかったから」が 11.6 ポイント女性よりも男性が上回っています。



【経年比較（性別）】

前回調査を性別で比較すると、「男性」で、「相談しても無駄だと思ったから」が、29.3ポイント増加しています。

また、「女性」で、「相談するほどのことではないと思ったから」が21.5ポイント増加しています。

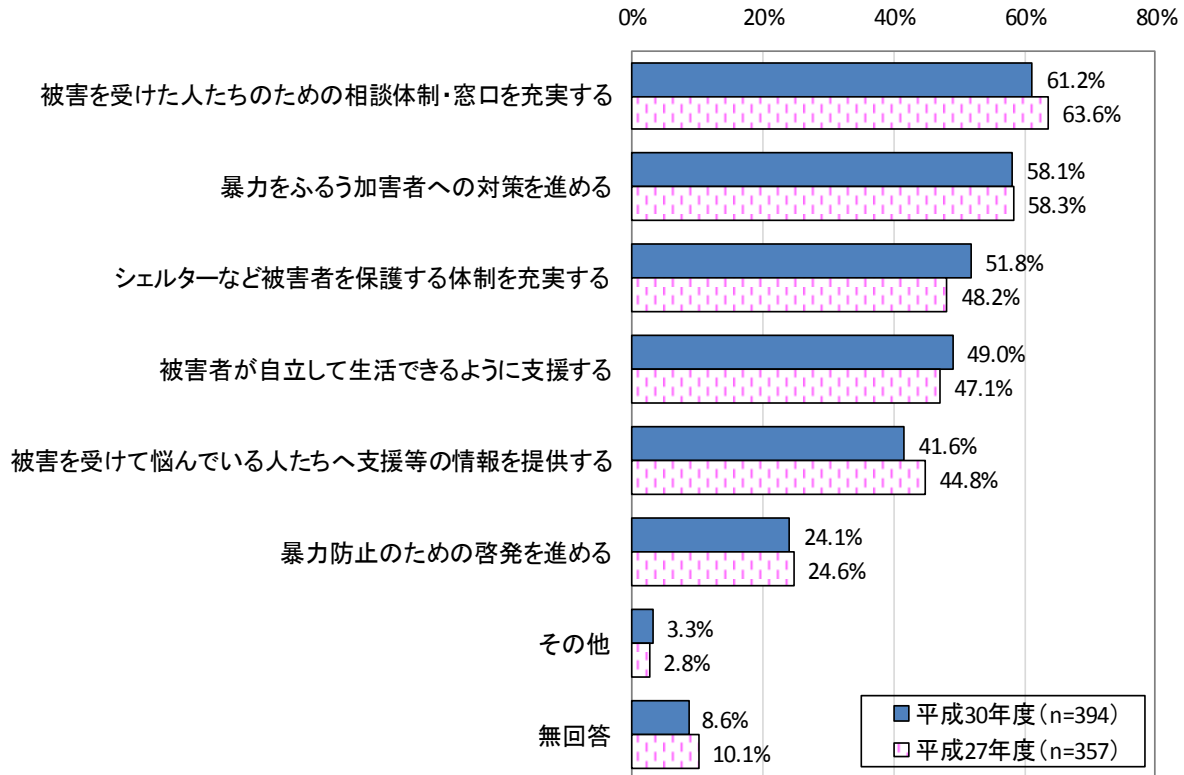


**問 15 あなたは、配偶者等から暴力を受けた人への取り組みとして、どのよう
なことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)**

「被害を受けた人たちのための相談体制・窓口を充実する」が 61.2%と最も多く、次いで「暴力をふるう加害者への対策を進める」が 58.1%、「シェルターなど被害者を保護する体制を充実する」が 51.8%となっています。

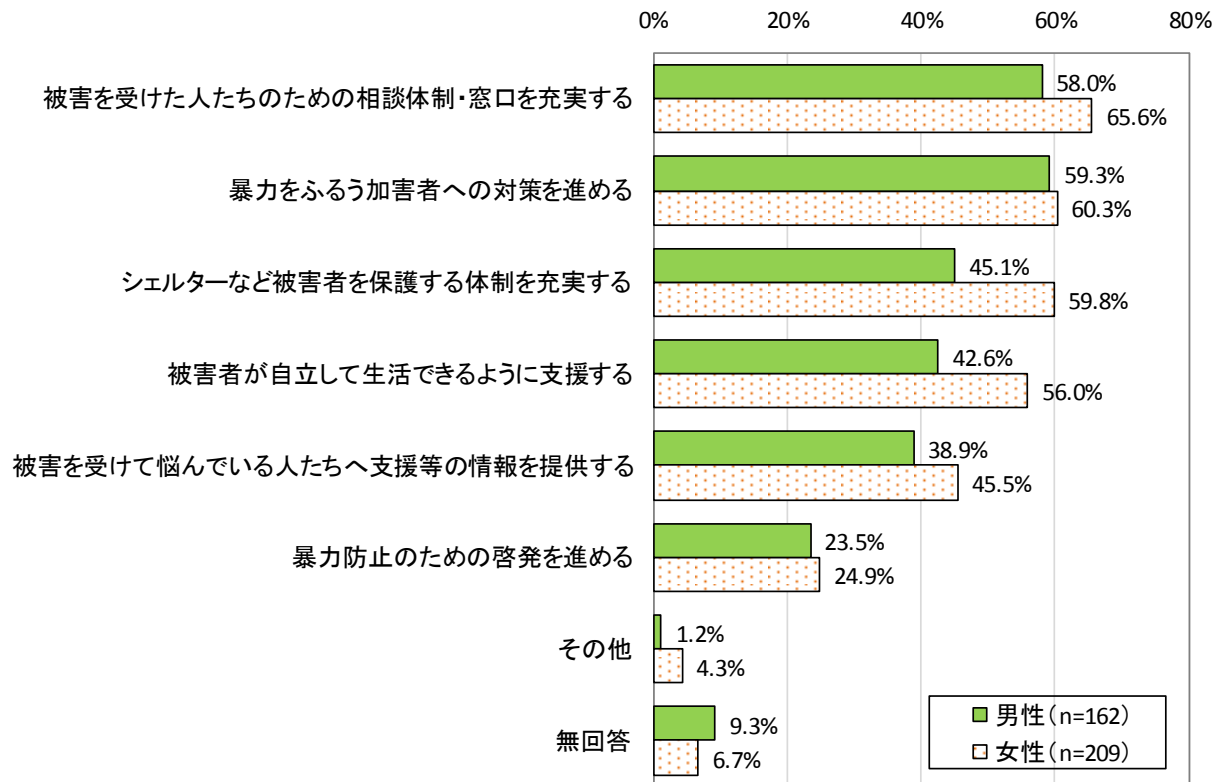
【経年比較】

前回調査と比較すると、あまり大きな差はありませんでした。



【性別クロス】

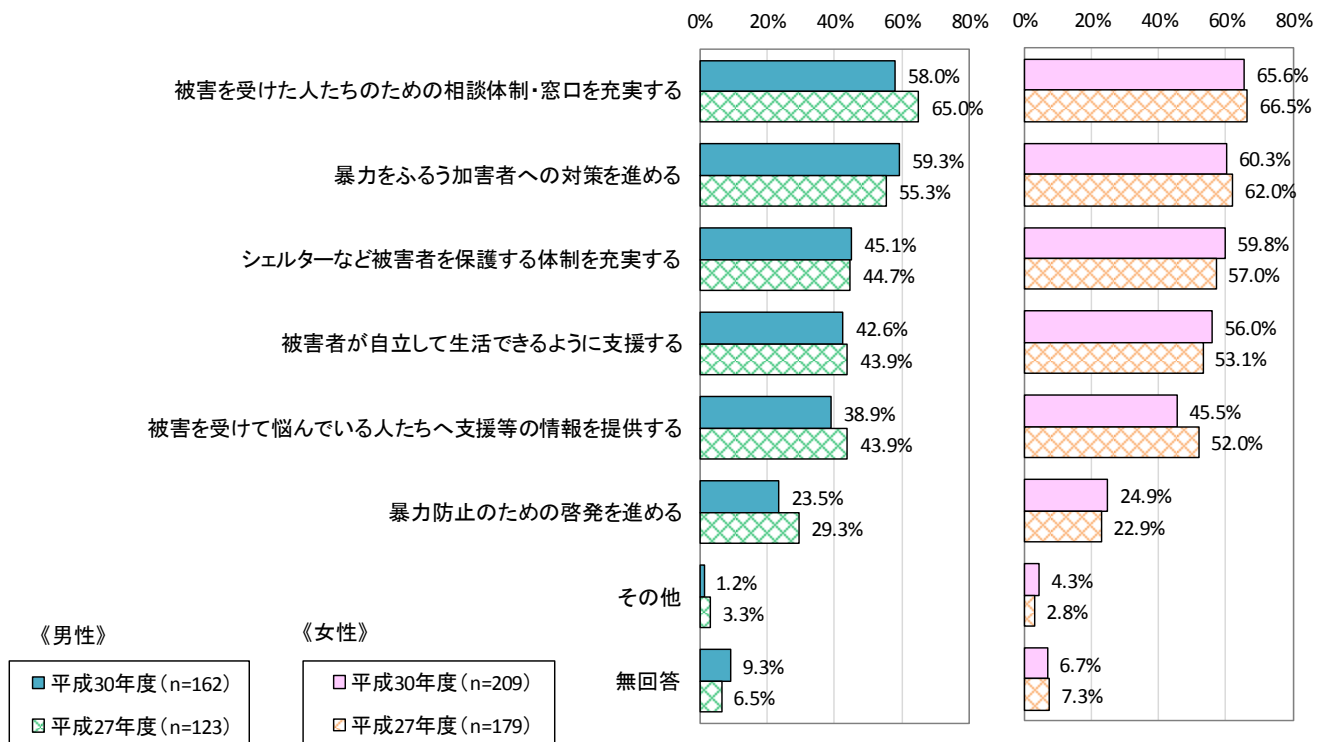
性別で比較すると、すべての項目で男性よりも女性が上回っていますが、その中でも大きな差がみられるのは、「シェルターなど被害者を保護する体制を充実する」が14.7ポイント、「被害者が自立して生活できるように支援する」が13.4ポイント上回っています。



【経年比較（性別）】

前回調査を性別で比較すると、「男性」で、「暴力をふるう加害者への対策を進める」、「シェルターなど被害者を保護する体制を充実する」が増加しています

「女性」で、「シェルターなど被害者を保護する体制を充実する」、「被害者が自立して生活できるように支援する」、「暴力防止のための啓発を進める」がわずかに増加しています。



VI 地域での社会参画について

問 16 あなたは現在、次のような地域の活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

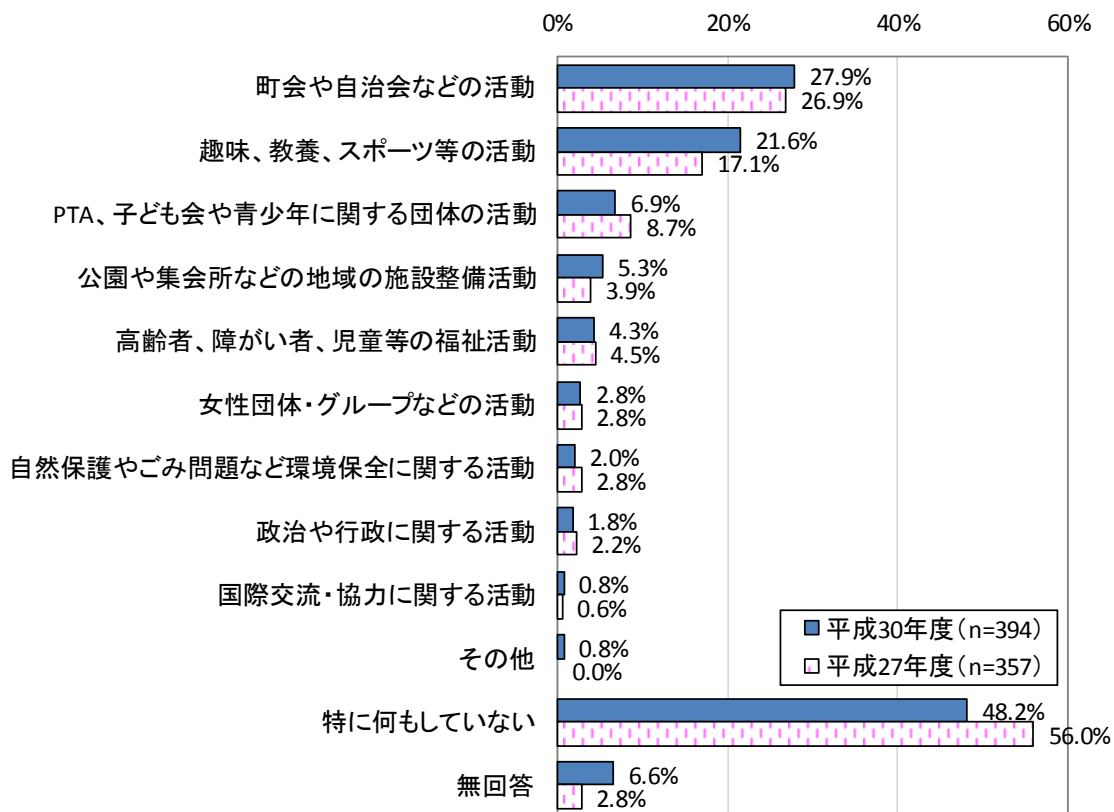
「町会や自治会などの活動」が27.9%と最も多く、次いで「趣味、教養、スポーツ等の活動」が21.6%、「PTA、子ども会や青少年に関する団体の活動」が6.9%となっています。

また、「特に何もしていない」が、48.2%となっています。

【経年比較】

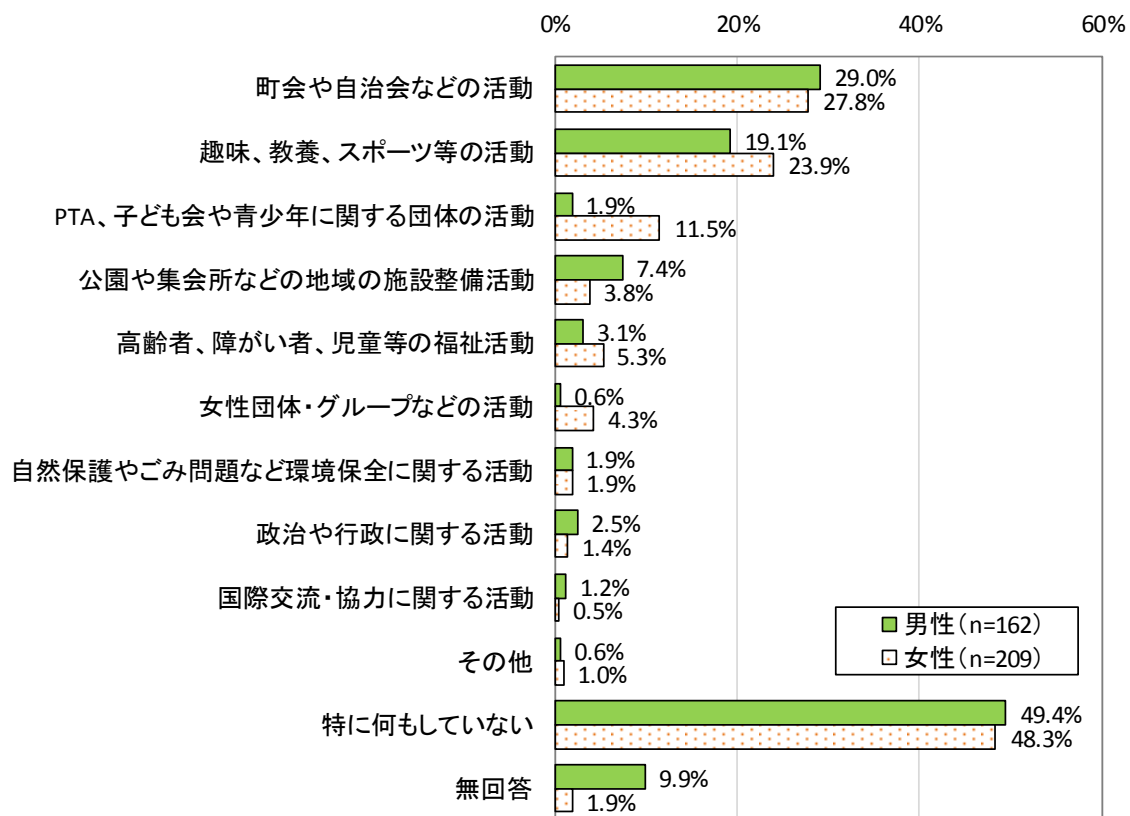
前回調査と比較すると、「趣味、教養、スポーツ等の活動」が、4.5ポイント増加しています。

また、「特に何もしていない」が、7.8ポイント減少しています。



【性別クロス】

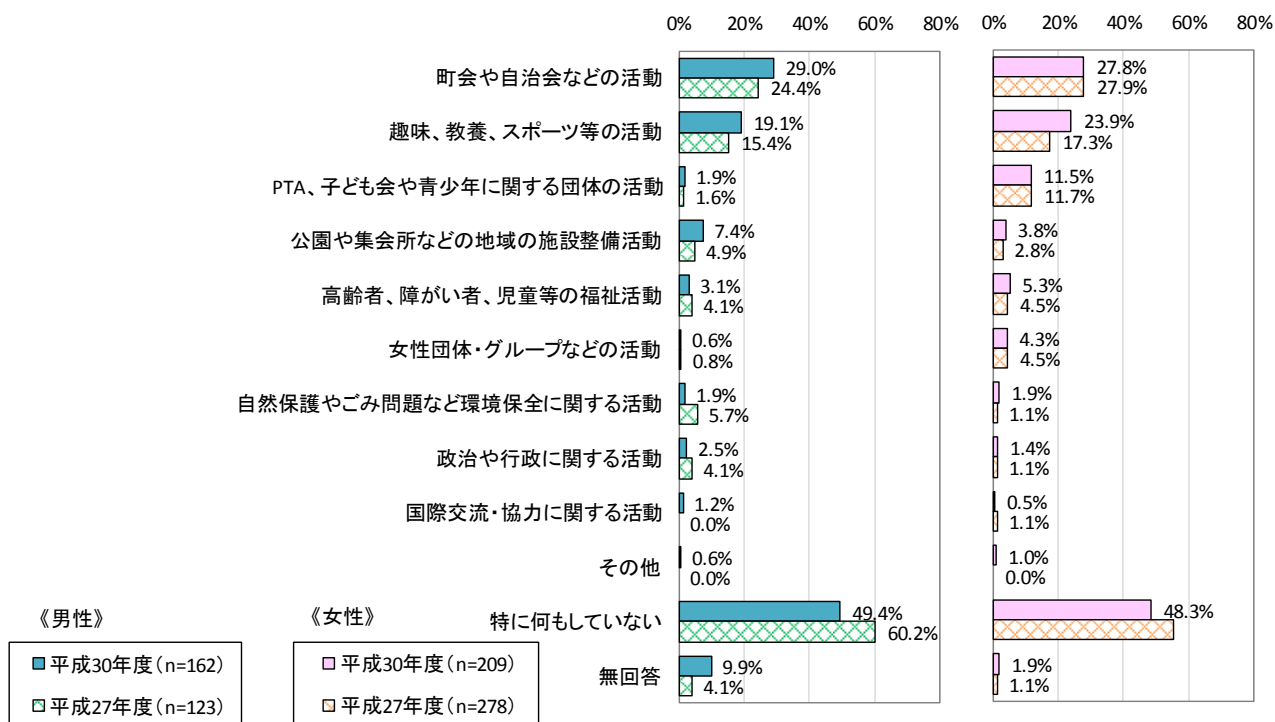
性別で比較すると、「趣味、教養、スポーツ等の活動」、「PTA、子ども会や青少年に関する団体の活動」、「高齢者、障がい者、児童等の福祉活動」、「女性団体・グループなどの活動」が男性よりも女性が上回っています。



【経年比較（性別）】

前回調査を性別で比較すると、「男性」で、「町会や自治会などの活動」、「趣味、教養、スポーツ等の活動」がやや増加しています。

「女性」で、「趣味、教養、スポーツ等の活動」がやや増加しています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、『20～60歳代』で、「特になし」が多くなっていますが、年齢が上がるに従い少なくなっています。

また、「70歳以上」では、「趣味、教養、スポーツ等の活動」が多くなっています。

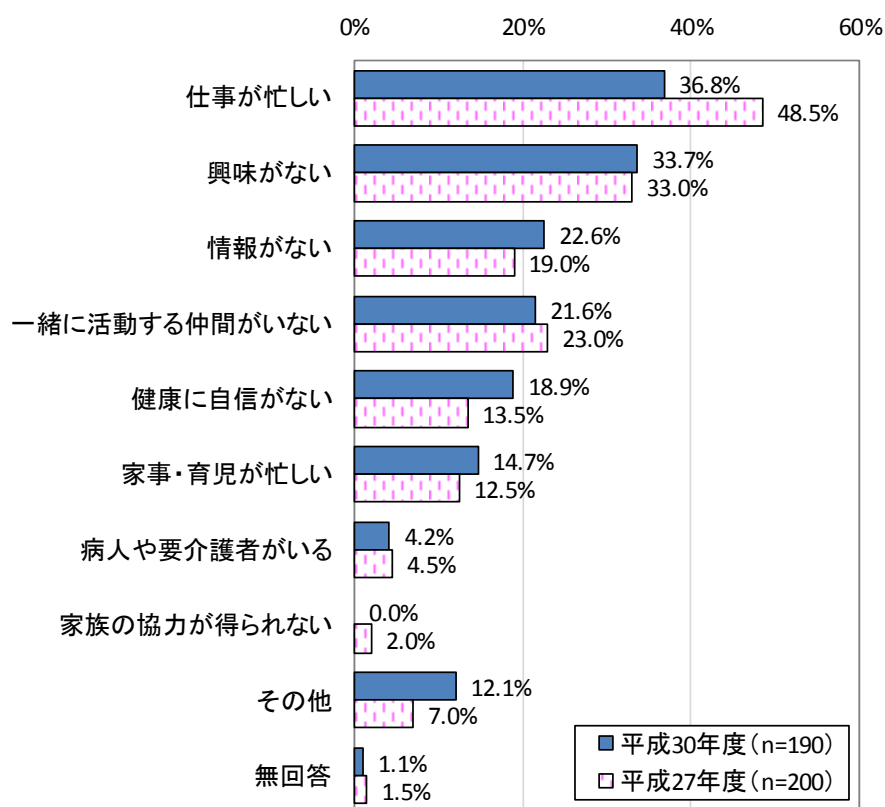
	町会や自治会などの活動	の趣味、教養、スポーツ等の活動	年PTAに関する子ども会や青少年の活動	の公園や集会所などの地域の施設整備活動	等の高齢者、障がい者、児童等の福祉活動	の女性団体・グループなど	環境自然保護やごみ問題に関する活動	政治や行政に関する活動	活動国際交流・協力に関する	その他	特になし	無回答
全体(n=394)	27.9%	21.6%	6.9%	5.3%	4.3%	2.8%	2.0%	1.8%	0.8%	0.8%	48.2%	6.6%
20歳代(n=38)	5.3%	10.5%	2.6%	2.6%	5.3%	2.6%	5.3%	0.0%	2.6%	0.0%	78.9%	0.0%
30歳代(n=46)	28.3%	17.4%	17.4%	4.3%	0.0%	2.2%	0.0%	2.2%	2.2%	2.2%	54.3%	4.3%
40歳代(n=63)	31.7%	6.3%	19.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	47.6%	3.2%
50歳代(n=70)	32.9%	24.3%	5.7%	7.1%	5.7%	1.4%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	51.4%	2.9%
60歳代(n=93)	31.2%	26.9%	1.1%	6.5%	4.3%	4.3%	2.2%	3.2%	1.1%	1.1%	44.1%	5.4%
70歳以上(n=78)	28.2%	34.6%	1.3%	9.0%	3.8%	5.1%	5.1%	2.6%	0.0%	1.3%	32.1%	16.7%

問 16-① 前問（問 16）で「11 特に何もしていない」と答えた方にお聞きします。それはどのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）

「仕事が忙しい」が 36.8%と最も多く、次いで「興味がない」が 33.7%、「情報がない」が 22.6%となっています。

【経年比較】

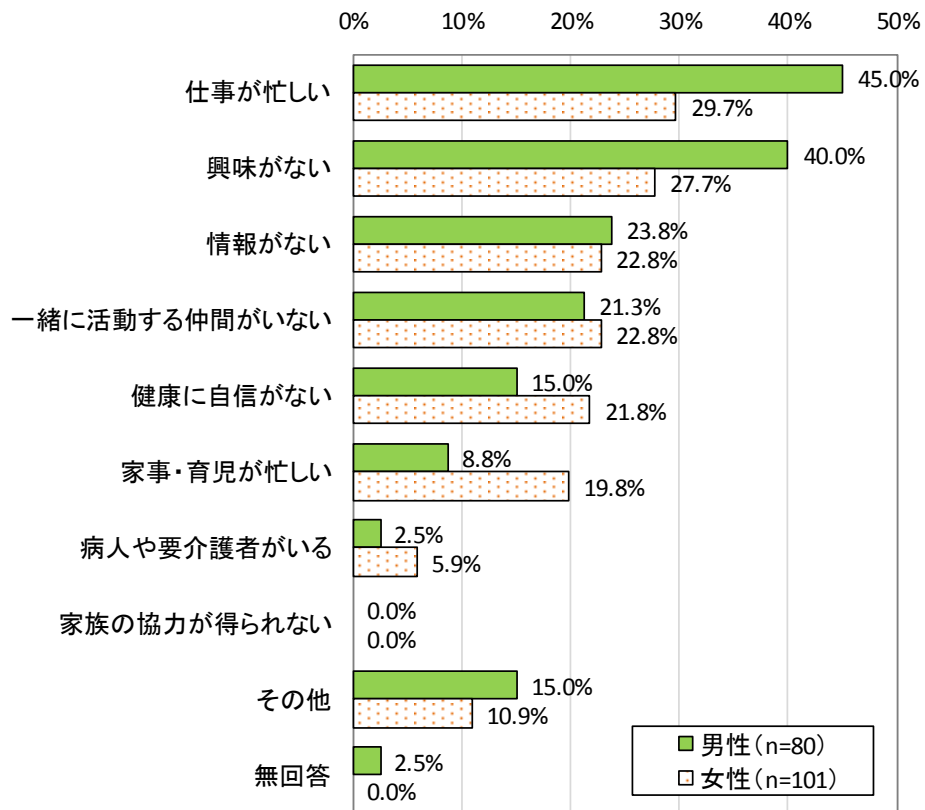
前回調査と比較すると、「情報がない」、「健康に自信がない」、「家事・育児が忙しい」が増加しています。



【性別クロス】

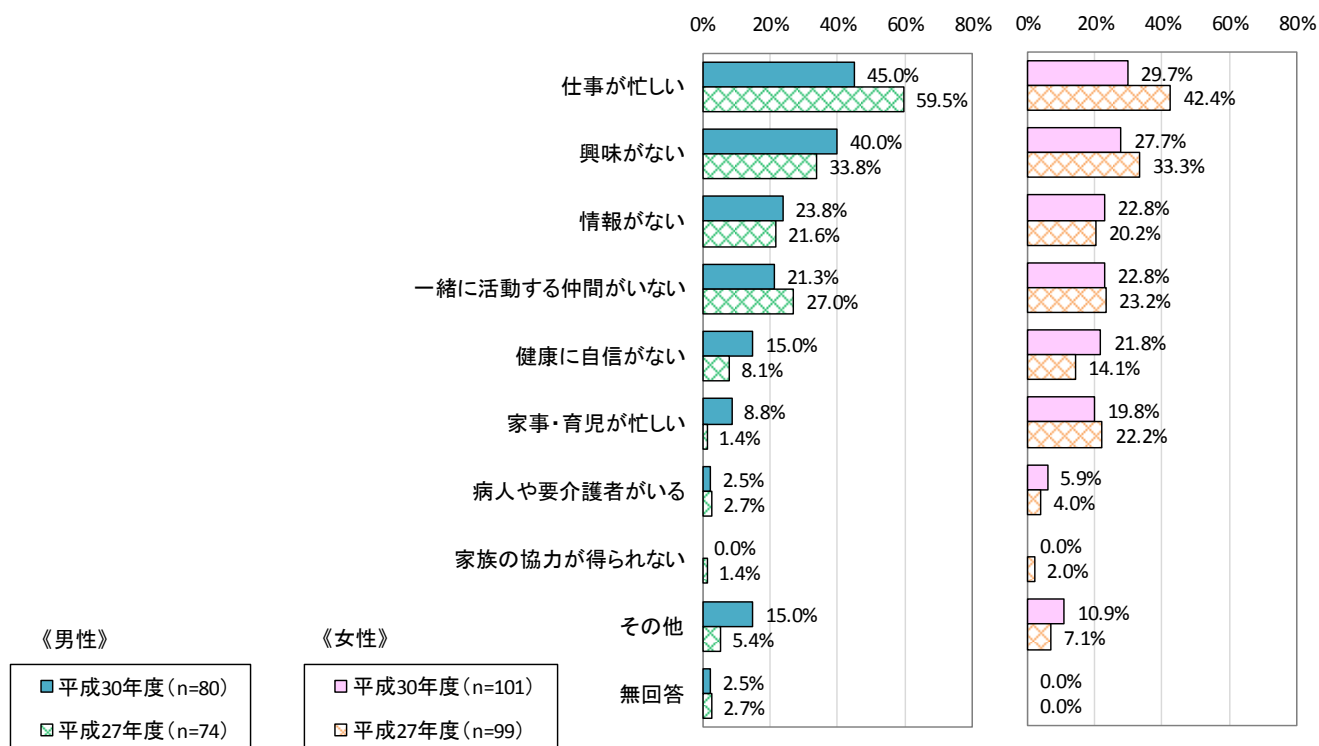
性別で比較すると、「仕事が忙しい」が 15.3 ポイント、「興味がない」が 12.3 ポイント女性よりも男性が上回っています。

また、「健康に自信がない」が 6.8 ポイント、「家事・育児が忙しい」が 11.0 ポイント男性よりも女性が上回っています。



【経年比較（性別）】

前回調査を性別で比較すると、男女ともに、「仕事が忙しい」、「一緒に活動する仲間がいない」、「家族の協力が得られない」が減少しています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、『30～50歳代』で、「仕事が忙しい」が多く、「20歳代」、『60歳以上』では、「興味がない」が多くなっています。

また、「70歳以上」では、「健康に自信がない」も多くなっています。

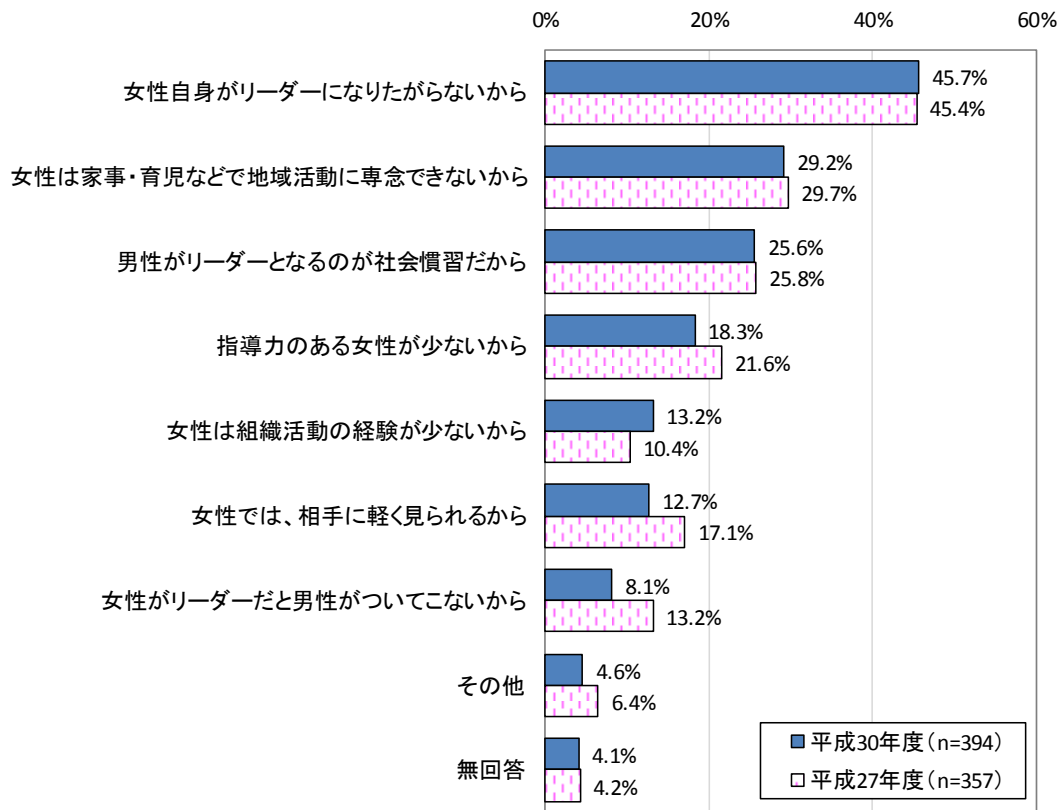
	仕事が忙しい	興味がない	情報がない	一緒に活動する仲間がいない	健康に自信がない	家事・育児が忙しい	病人や要介護者がいる	家族の協力が得られない	その他	無回答
全体 (n=190)	36.8%	33.7%	22.6%	21.6%	18.9%	14.7%	4.2%	0.0%	12.1%	1.1%
20歳代 (n=30)	30.0%	46.7%	43.3%	33.3%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%
30歳代 (n=25)	44.0%	24.0%	20.0%	36.0%	4.0%	40.0%	0.0%	0.0%	8.0%	4.0%
40歳代 (n=30)	60.0%	36.7%	20.0%	16.7%	16.7%	33.3%	3.3%	0.0%	13.3%	0.0%
50歳代 (n=36)	50.0%	25.0%	22.2%	27.8%	22.2%	5.6%	8.3%	0.0%	11.1%	0.0%
60歳代 (n=41)	24.4%	36.6%	22.0%	12.2%	31.7%	4.9%	9.8%	0.0%	7.3%	0.0%
70歳以上 (n=25)	4.0%	36.0%	4.0%	8.0%	36.0%	0.0%	0.0%	0.0%	32.0%	4.0%

問 17 地域活動の担い手は、女性が多い傾向にあります。が、会長やリーダーに女性が少ない原因は何だと思えますか。(〇は2つまで)

「女性自身がリーダーになりたがらないから」が45.7%と最も多く、次いで「女性は家事・育児などで地域活動に専念できないから」が29.2%、「男性がリーダーとなるのが社会慣習だから」が25.6%となっています。

【経年比較】

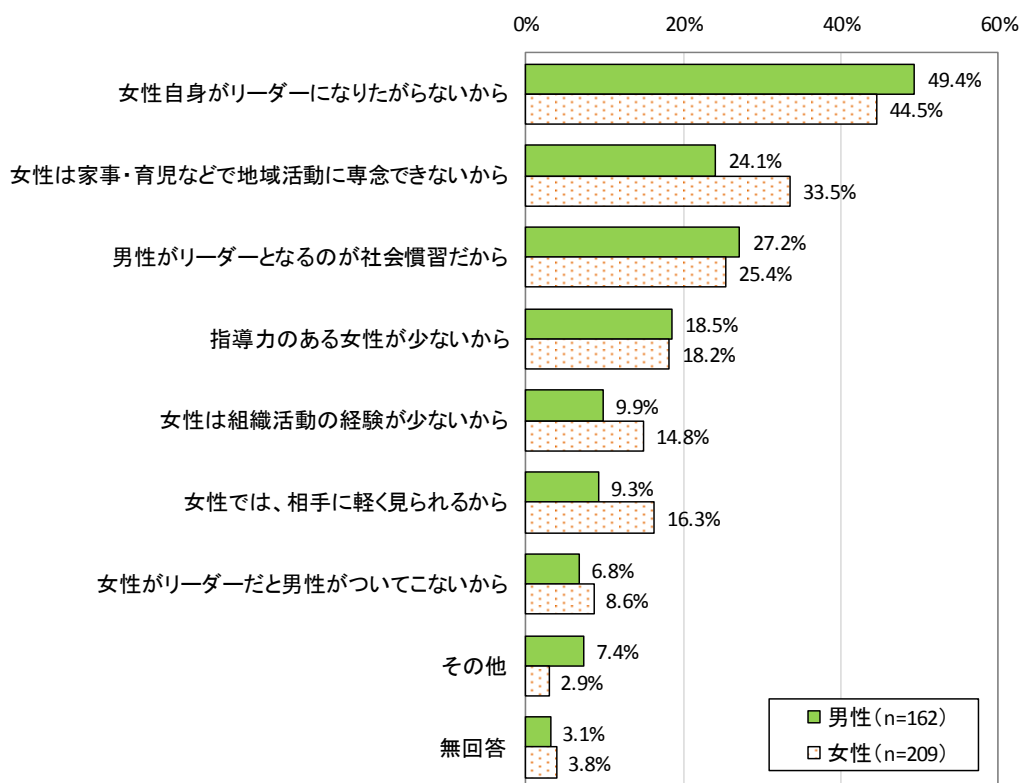
前回調査と比較すると、「女性は組織活動の経験が少ないから」がやや増加しています。



【性別クロス】

性別で比較すると、「女性自身がリーダーになりたがらないから」、「男性がリーダーとなるのが社会慣習だから」が女性よりも男性が上回っています。

また、「女性は家事・育児などで地域活動に専念できないから」が男性よりも女性が上回っています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、『30歳以上』で、「女性自身がリーダーになりたがらないから」が多くなっています。

また、「20歳代」で、「女性は家事・育児などで地域活動に専念できないから」が多くなっています。

	女性自身がリーダーになりたがらないから	女性は家事・育児などで地域活動に専念できないから	男性がリーダーとなるのが社会慣習だから	指導力のある女性が少ないから	女性は組織活動の経験が少ないから	女性では、相手に軽く見られるから	女性がリーダーだと男性がついてこないから	その他	無回答
全体 (n=394)	45.7%	29.2%	25.6%	18.3%	13.2%	12.7%	8.1%	4.6%	4.1%
20歳代 (n=38)	26.3%	34.2%	23.7%	15.8%	7.9%	31.6%	13.2%	5.3%	0.0%
30歳代 (n=46)	39.1%	34.8%	32.6%	19.6%	8.7%	13.0%	8.7%	10.9%	2.2%
40歳代 (n=63)	42.9%	30.2%	39.7%	11.1%	9.5%	12.7%	11.1%	4.8%	4.8%
50歳代 (n=70)	54.3%	27.1%	22.9%	18.6%	10.0%	18.6%	10.0%	5.7%	0.0%
60歳代 (n=93)	52.7%	28.0%	22.6%	18.3%	22.6%	6.5%	4.3%	1.1%	3.2%
70歳以上 (n=78)	47.4%	24.4%	14.1%	25.6%	12.8%	5.1%	5.1%	3.8%	11.5%

問 18 国の目標では「指導的立場に女性が占める割合を 2020 年までに 30% とする」となっています。三芳町の政策・方針を決定する審議会等の女性委員の割合は、24.5%（平成 29 年 4 月 1 日現在）です。これらの分野に女性の参画が進むことによって、社会がどうなることを期待しますか。（○は 1 つだけ）

「男性中心の考え方に変化が生じる」が 23.1%と最も多く、次いで「男女平等社会に向けて施策が推進される」が 20.8%、「行政に対する要望がきめ細くなる」が 18.5%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「男性中心の考え方に変化が生じる」が増加しています。

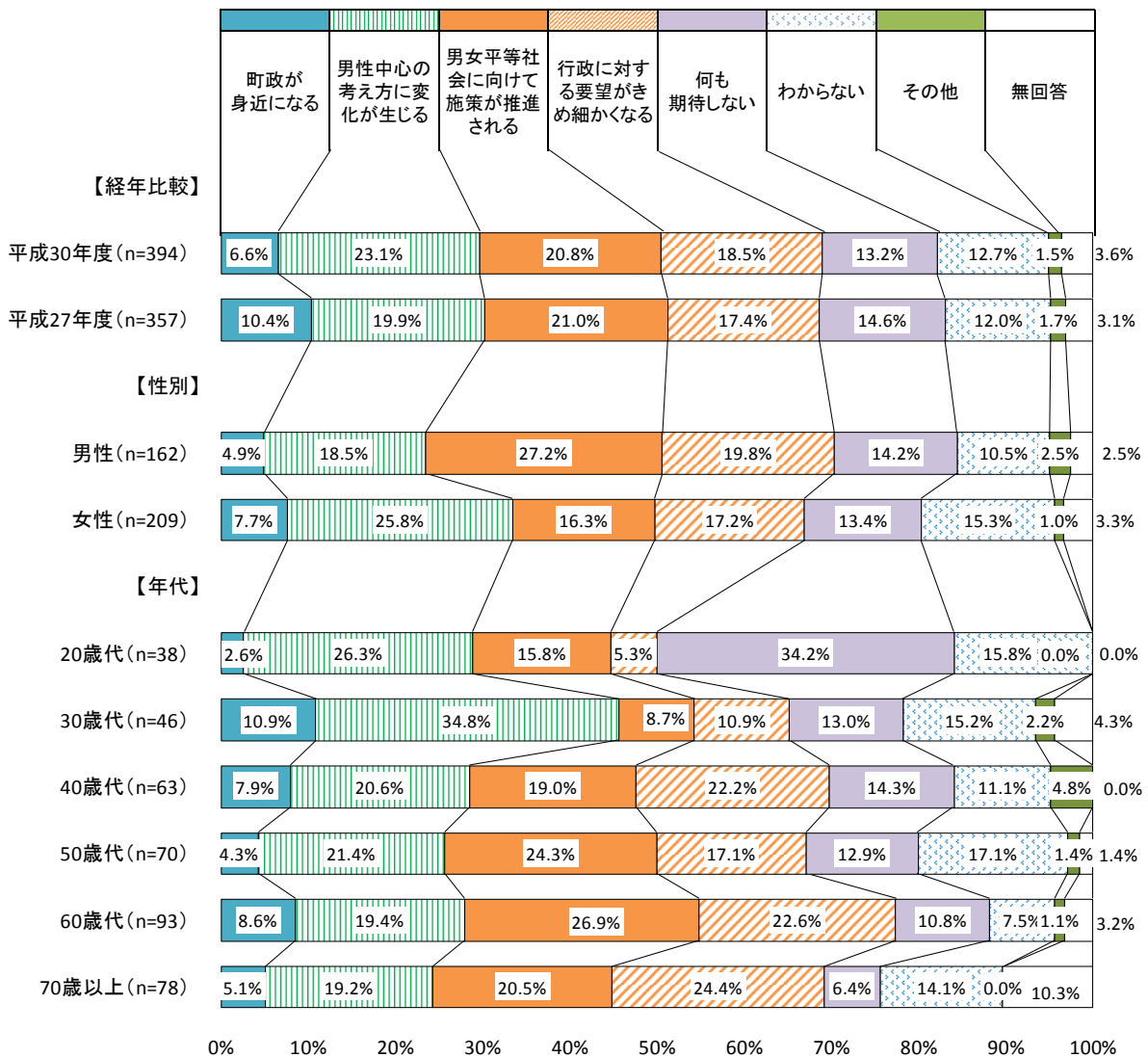
【性別クロス】

性別で比較すると、「男性中心の考え方に変化が生じる」が 7.3 ポイント男性よりも女性が上回っています。

また、「男女平等社会に向けて施策が推進される」で、10.9 ポイント女性よりも男性が上回っています。

【年代別クロス】

年代別で比較すると、「20 歳代」で、「何も期待しない」が最も多く、「30 歳代」で、「男性中心の考え方に変化が生じる」が多く、「40 歳代」、「70 歳以上」で、「行政に対する要望がきめ細くなる」が多く、『50～60 歳代』で、「男女平等社会に向けて施策が推進される」が多くなっています。



Ⅶ 男女共同参画社会に向けた取組について

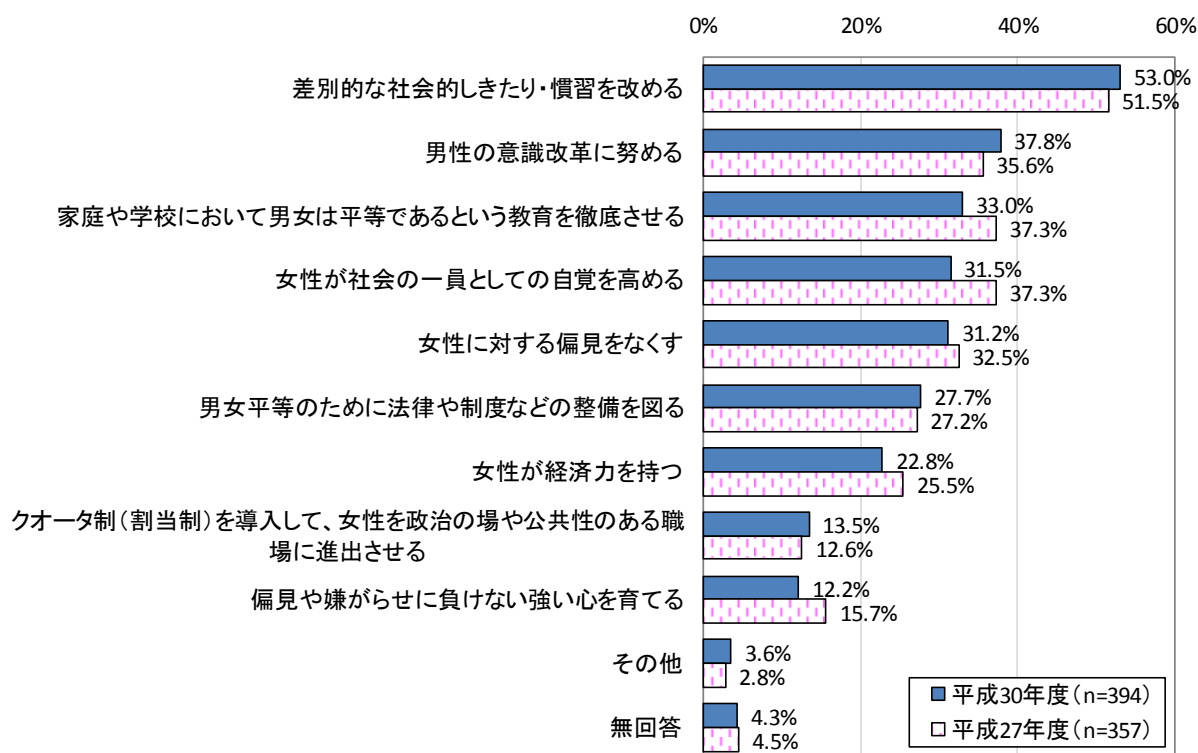
問 19 あなたは、男女共同参画社会（男女が対等な立場で、社会のあらゆる活動に共に参画し、責任を分かち合う社会）の実現に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「差別的な社会的しきたり・慣習を改める」が53.0%と最も多く、次いで「男性の意識改革に努める」が37.8%、「家庭や学校において男女は平等であるという教育を徹底させる」が33.0%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「差別的な社会的しきたり・慣習を改める」、「男性の意識改革に努める」がやや増加しています。

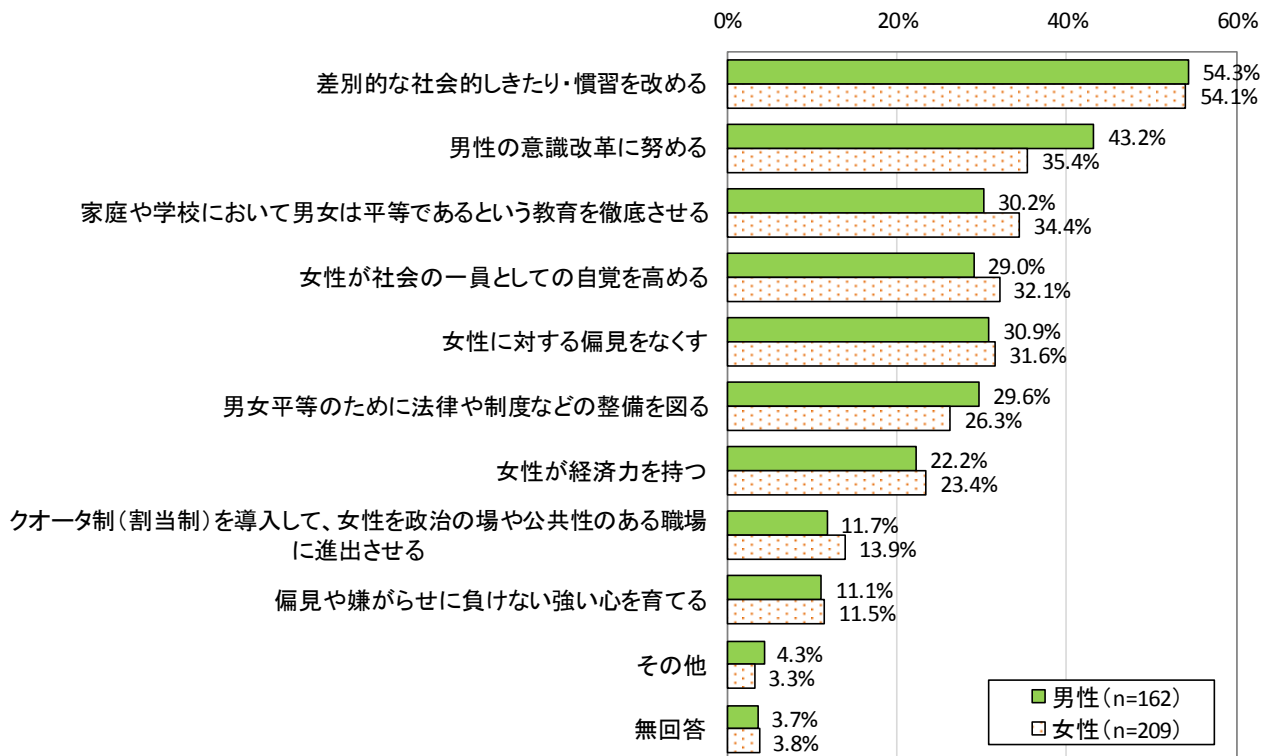
また、「家庭や学校において男女は平等であるという教育を徹底させる」、「女性が社会の一員としての自覚を高める」、「女性が経済力を持つ」、「偏見や嫌がらせに負けない強い心を育てる」が前回調査より減少しています。



【性別クロス】

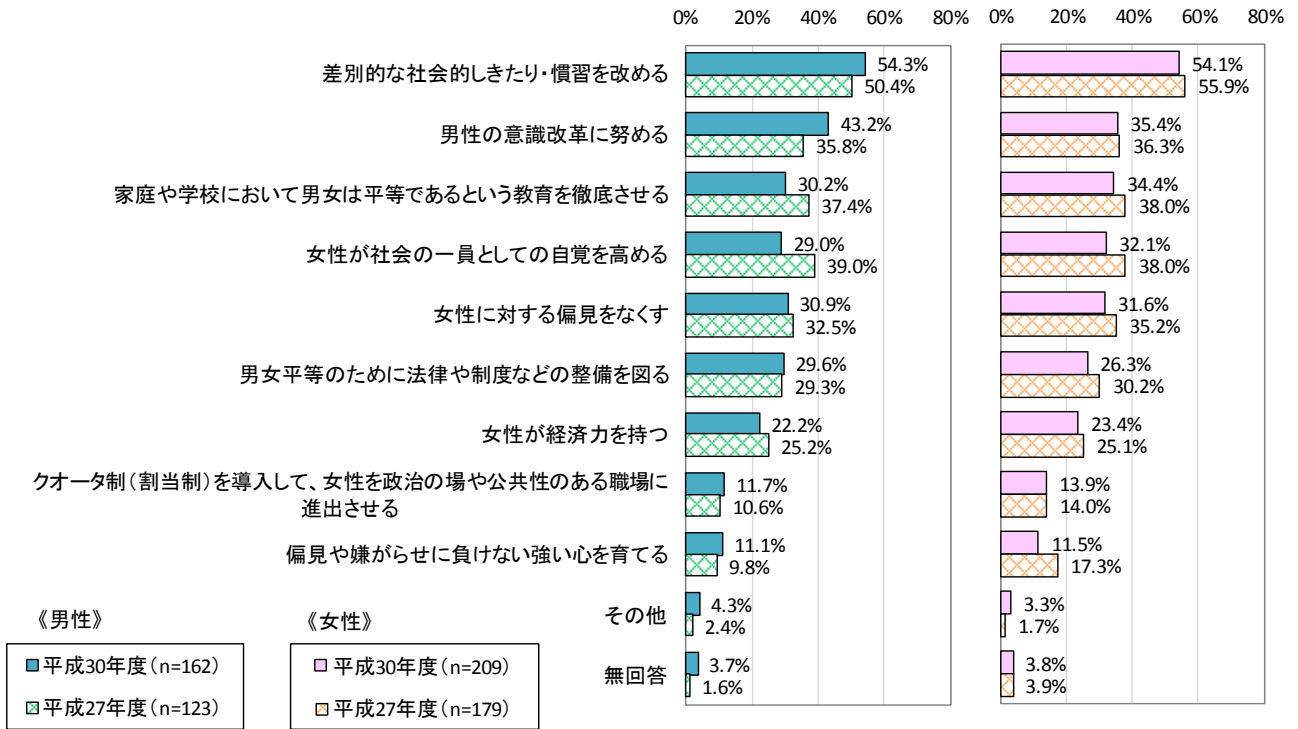
性別で比較すると、「男性の意識改革に努める」、「男女平等のために法律や制度などの整備を図る」が女性よりも男性が上回っています。

また、「家庭や学校において男女は平等であるという教育を徹底させる」、「女性が社会の一員としての自覚を高める」が男性よりも女性が上回っています。



【経年比較（性別）】

前回調査と性別で比較すると、男女ともに「家庭や学校において男女は平等であるという教育を徹底させる」、「女性が社会の一員としての自覚を高める」、「女性に対する偏見をなくす」、「女性が経済力を持つ」が減少しています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、『20～60歳代』では、「差別的な社会的しきたり・慣習を改める」が最も多くなっています。

また、「70歳以上」では、「女性が社会の一員としての自覚を高める」が最も多くなっています。

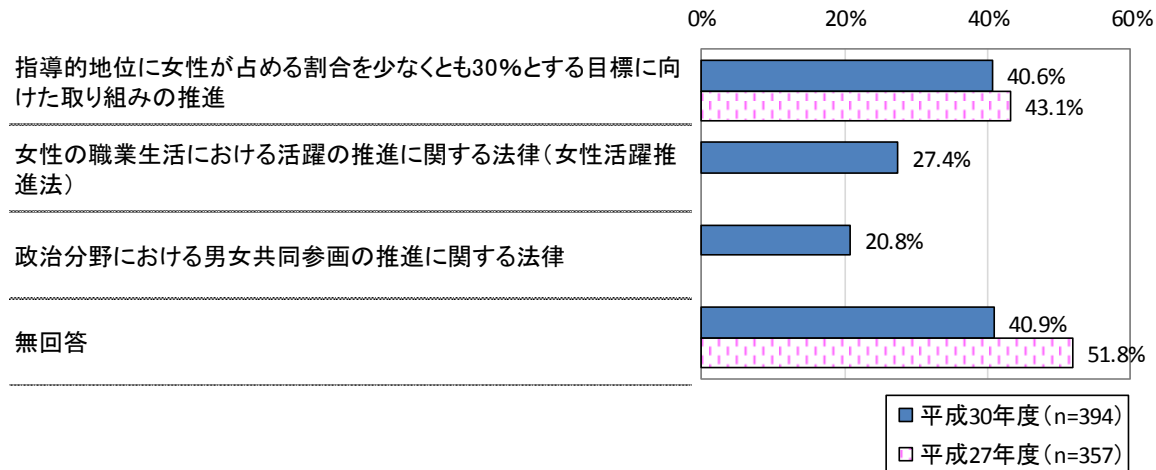
	を差別的な社会的しきたり・慣習を改める	男性の意識改革に努める	家庭や学校において男女は平等であるという教育を徹底させる	女性が社会の一員としての自覚を高める	女性に対する偏見をなくす	男女平等のために法律や制度などを整備する	女性が経済力を持つ	クオータ制(割当制)を導入して、女性を政治の場や公共性のある職場に進出させる	偏見や嫌がらせに負けない強い心を育てる	その他	無回答
全体(n=394)	53.0%	37.8%	33.0%	31.5%	31.2%	27.7%	22.8%	13.5%	12.2%	3.6%	4.3%
20歳代(n=38)	50.0%	42.1%	36.8%	31.6%	47.4%	23.7%	15.8%	7.9%	15.8%	2.6%	0.0%
30歳代(n=46)	60.9%	45.7%	30.4%	17.4%	32.6%	19.6%	26.1%	8.7%	4.3%	8.7%	2.2%
40歳代(n=63)	57.1%	42.9%	23.8%	25.4%	30.2%	30.2%	27.0%	17.5%	14.3%	4.8%	4.8%
50歳代(n=70)	57.1%	35.7%	30.0%	35.7%	20.0%	32.9%	24.3%	10.0%	10.0%	1.4%	1.4%
60歳代(n=93)	55.9%	39.8%	35.5%	26.9%	29.0%	32.3%	24.7%	16.1%	9.7%	2.2%	4.3%
70歳以上(n=78)	38.5%	25.6%	38.5%	46.2%	33.3%	20.5%	16.7%	14.1%	17.9%	3.8%	10.3%

問 20 政府は次のような男女共同参画についての方針を出していますが、聞いたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「指導的地位に女性が占める割合を少なくとも 30%とする目標に向けた取り組みの推進」が 40.6%と最も多く、次いで「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が 27.4%、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が 20.8%となっています。

【経年比較】

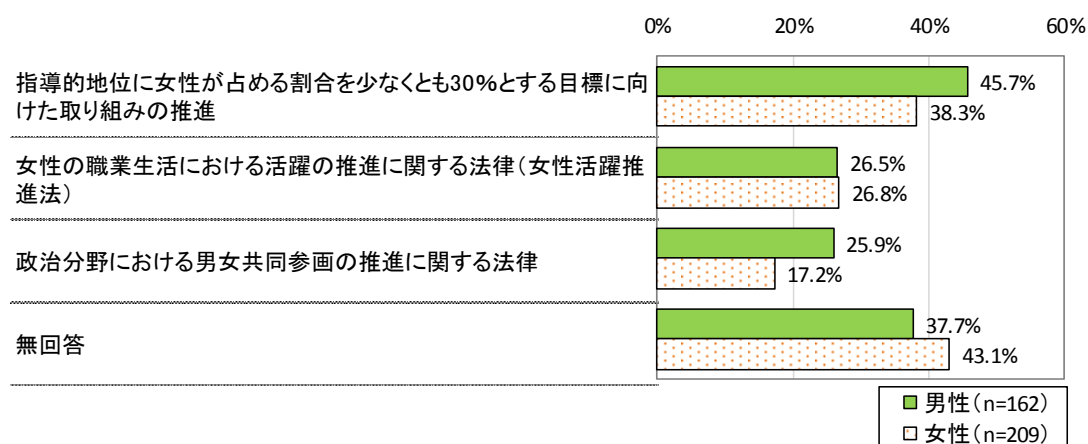
前回調査と比較すると、「指導的地位に女性が占める割合を少なくとも 30%とする目標に向けた取り組みの推進」で 2.5 ポイント減少しています。



※ 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」は、平成 27 年度調査はありませんでした。

【性別クロス】

性別で比較すると、「指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%とする目標に向けた取り組みの推進」が7.4ポイント、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が8.7ポイント女性よりも男性が上回っています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、すべての年代において「指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%とする目標に向けた取り組みの推進」が最も多くなっています。

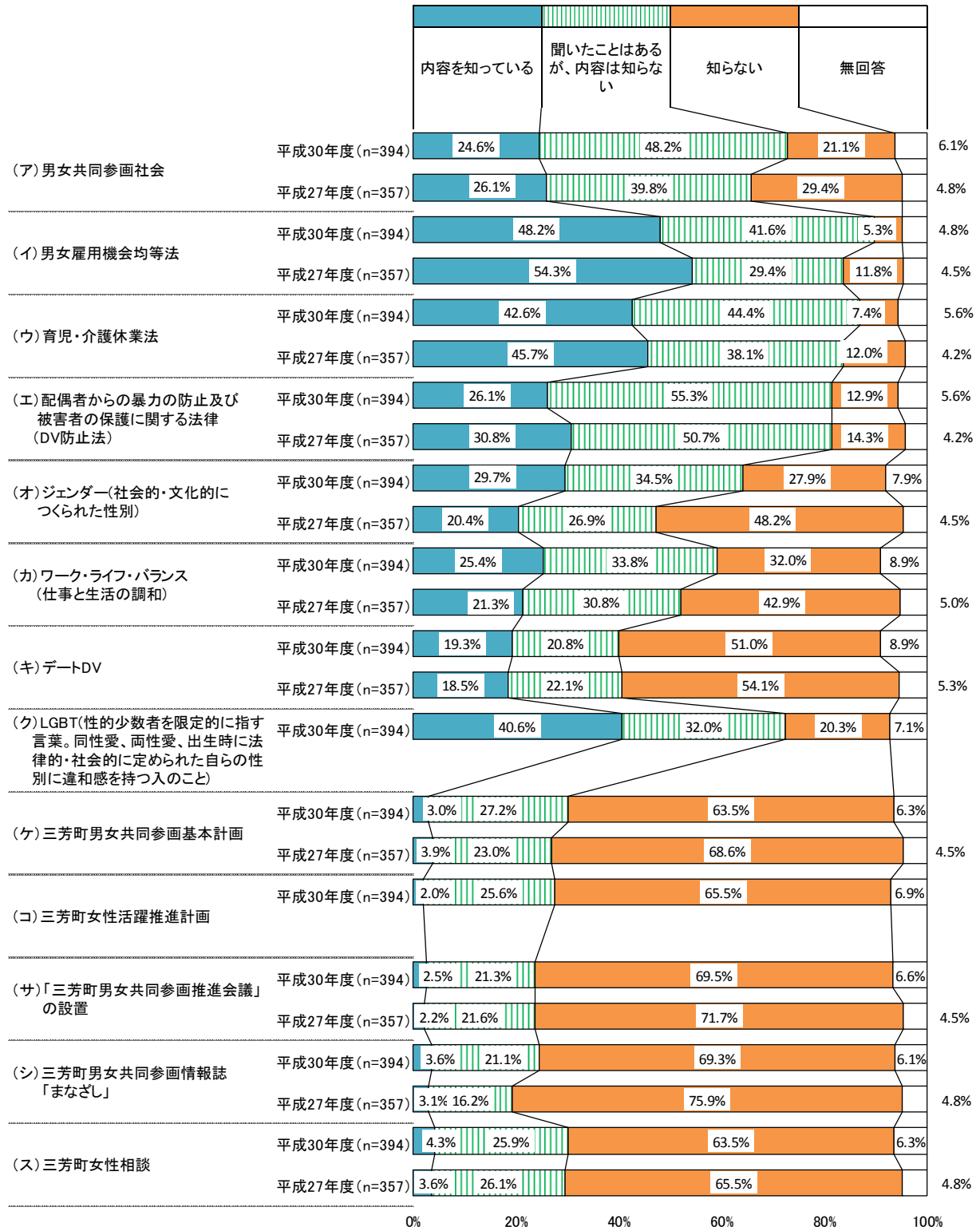
	指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%とする目標に向けた取り組みの推進	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	無回答
全体 (n=394)	40.6%	27.4%	20.8%	40.9%
20歳代 (n=38)	31.6%	28.9%	26.3%	42.1%
30歳代 (n=46)	39.1%	19.6%	13.0%	47.8%
40歳代 (n=63)	39.7%	20.6%	14.3%	52.4%
50歳代 (n=70)	34.3%	34.3%	27.1%	38.6%
60歳代 (n=93)	48.4%	31.2%	22.6%	31.2%
70歳以上 (n=78)	41.0%	25.6%	20.5%	41.0%

問 21 次にあげる（ア）～（ス）の言葉について、あなたの知っているものはどれですか。（〇はそれぞれ1つ）

「内容を知っている」の回答では、「男女雇用機会均等法」が48.2%と最も多く、次いで「育児・介護休業法」が42.6%、「LGBT(性的少数者を限定的に指す言葉。同性愛、両性愛、出生時に法律的・社会的に定められた自らの性別に違和感を持つ人のこと)」が40.6%となっています。

【経年比較】

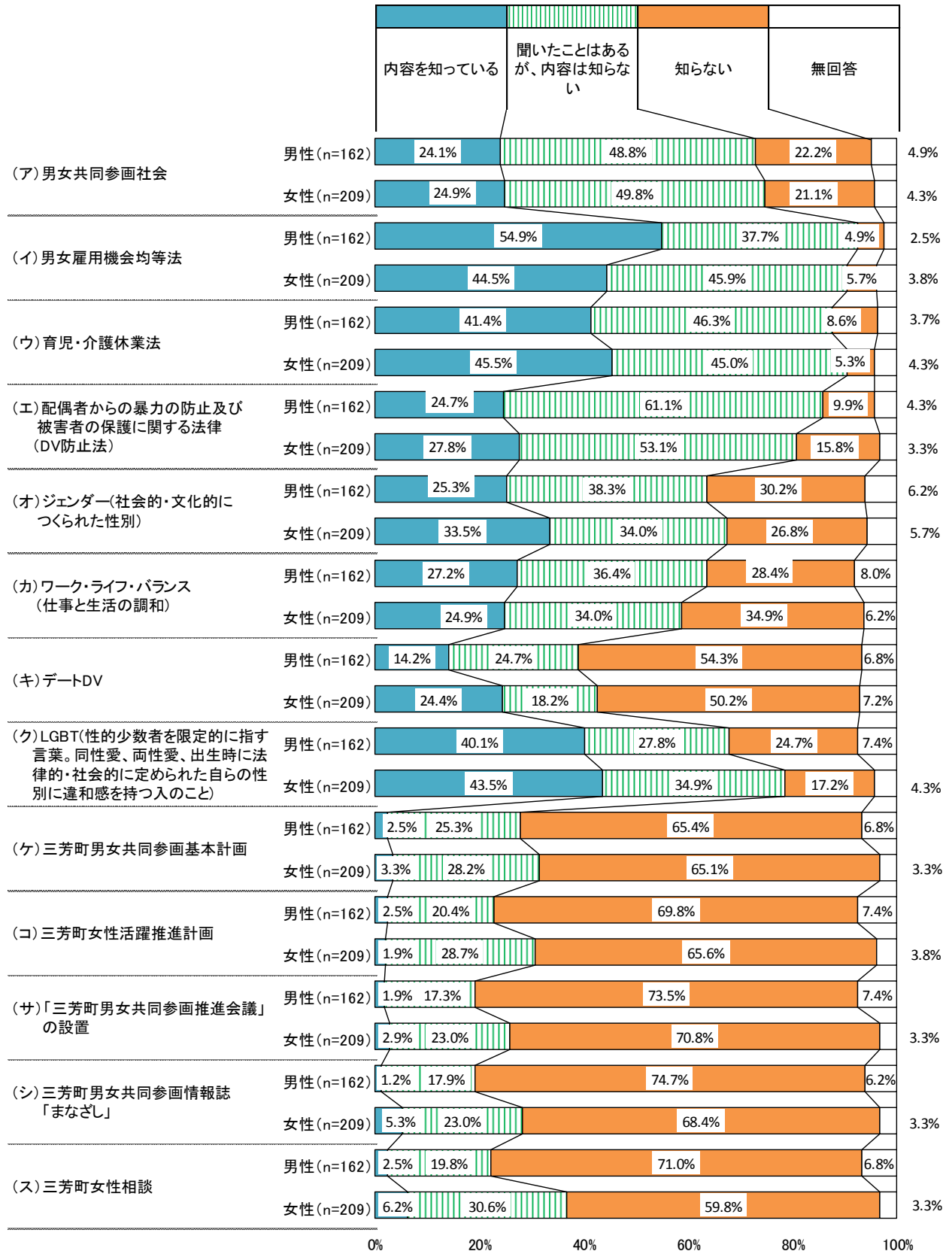
前回調査と比較すると、「ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)」、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」で「知っている」が増加しています。



【性別クロス】

性別で比較すると、「知っている」で、「男女雇用機会均等法」が10.4ポイント女性よりも男性が上回っています。

また、「育児・介護休業法」、「ジェンダー(社会的・文化的に作られた性別)」、「デートDV」で「知っている」が男性よりも女性が上回っています。



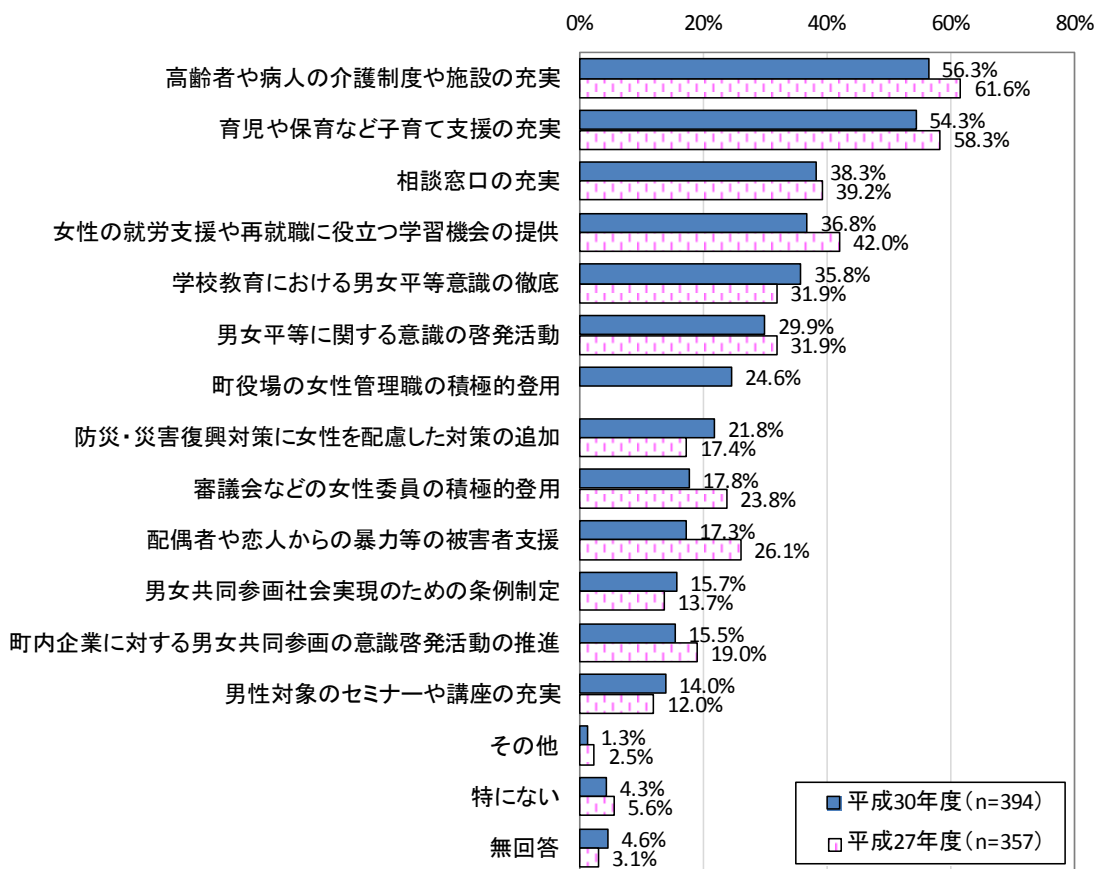
問 22 今後、三芳町が男女共同参画推進施策としてどのようなことに力をいれていったらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」が 56.3%と最も多く、次いで「育児や保育など子育て支援の充実」が 54.3%、「相談窓口の充実」が 38.3%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「学校教育における男女平等意識の徹底」、「防災・災害復興対策に女性を配慮した対策の追加」がやや増加しています。

また、「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」、「育児や保育など子育て支援の充実」、「女性の就労支援や再就職に役立つ学習機会の提供」、「審議会などの女性委員の積極的登用」、「配偶者や恋人からの暴力等の被害者支援」が前回調査より減少しています。



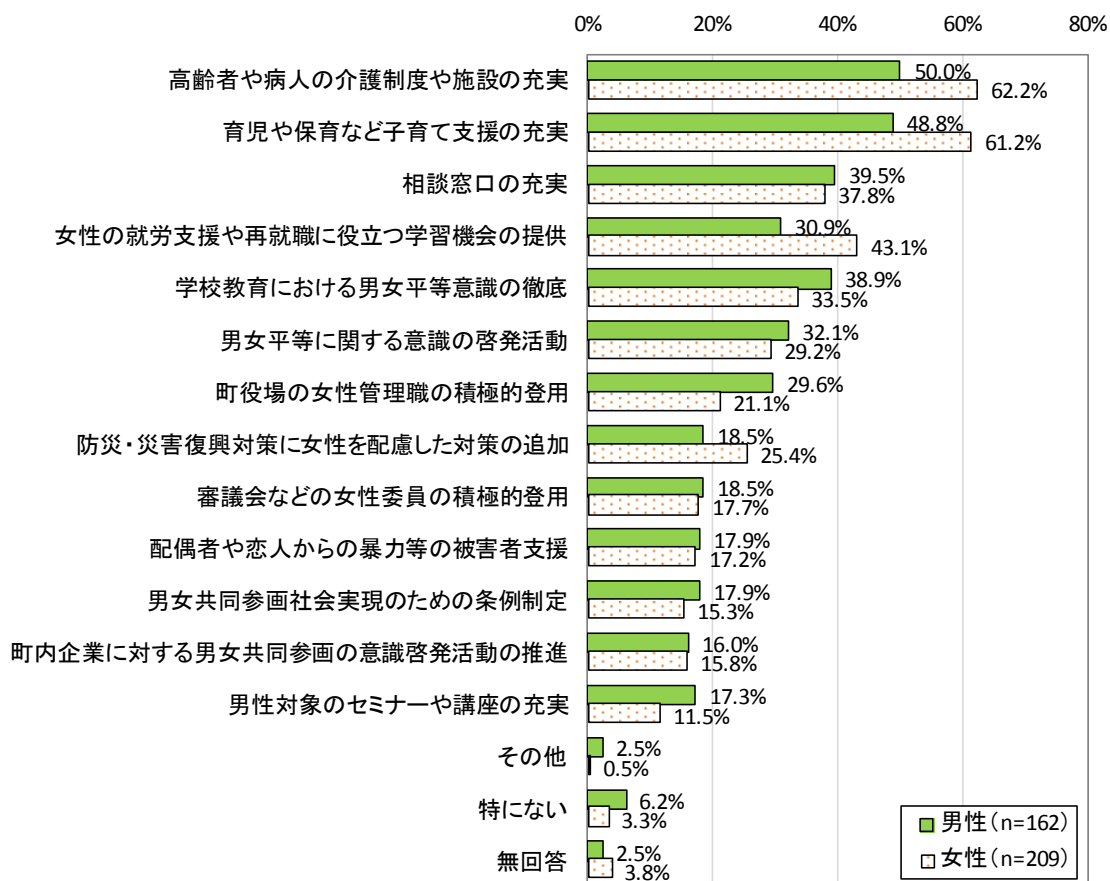
※「町役場の女性管理職の積極的登用」は、平成 27 年度調査はありませんでした。

※「配偶者や恋人からの暴力等の被害者支援」は、平成 27 年度調査では、「配偶者からの暴力等の被害支援」となっています。

【性別クロス】

性別で比較すると、「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」が 12.2 ポイント、「育児や保育など子育て支援の充実」が 12.4 ポイント、「女性の就労支援や再就職に役立つ学習機会の提供」が 12.2 ポイント男性よりも女性が上回っています。

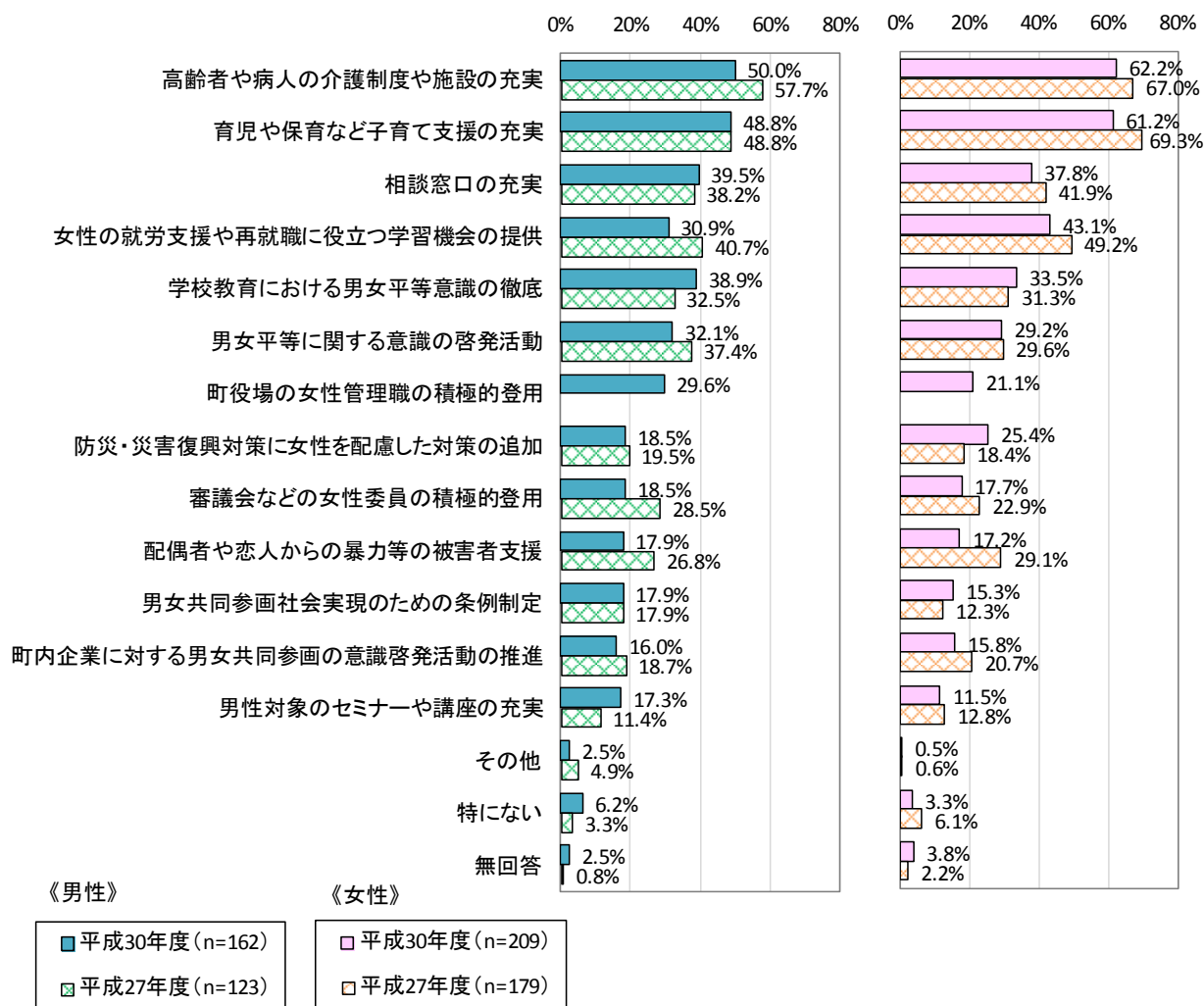
また、「学校教育における男女平等意識の徹底」が 5.4 ポイント、「町役場の女性管理職の積極的登用」が 8.5 ポイント、「男性対象のセミナーや講座の充実」が 5.8 ポイント女性よりも男性が上回っています。



【経年比較（性別）】

前回調査を性別で比較すると、「男性」で、「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」、「女性の就労支援や再就職に役立つ学習機会の提供」、「男女平等に関する意識の啓発活動」、「審議会などの女性委員の積極的登用」、「配偶者や恋人からの暴力等の被害者支援」、「町内企業に対する男女共同参画の意識啓発活動の推進」が減少しています。

また、「女性」では、「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」、「育児や保育など子育て支援の充実」、「相談窓口の充実」、「女性の就労支援や再就職に役立つ学習機会の提供」、「審議会などの女性委員の積極的登用」、「配偶者や恋人からの暴力等の被害者支援」、「町内企業に対する男女共同参画の意識啓発活動の推進」が減少しています。



【年代別クロス】

年代別で比較すると、『20～30歳代』では、「育児や保育など子育て支援の充実」が最も多くなっています。

『40歳以上』では、「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」が最も多くなっています。

	高齢者や病人の介護制度や施設の充実	育児や保育など子育て支援の充実	相談窓口の充実	女性の就労支援や再就職に役立つ学習機会の提供	学校教育における男女平等意識の徹底	男女平等に関する意識の啓発活動	町役場の女性管理職の積極的登用	防災・災害復興対策に女性を配慮した対策の追加	審議会などの女性委員の積極的登用	配偶者や恋人からの暴力等の被害者支援	男女共同参画社会実現のための条例制定	町内企業に対する男女共同参画の意識啓発活動の推進	男性対象のセミナーや講座の充実	その他	特になし	無回答
全体 (n=394)	56.3%	54.3%	38.3%	36.8%	35.8%	29.9%	24.6%	21.8%	17.8%	17.3%	15.7%	15.5%	14.0%	1.3%	4.3%	4.6%
20歳代 (n=38)	42.1%	71.1%	28.9%	39.5%	47.4%	21.1%	21.1%	13.2%	10.5%	18.4%	15.8%	7.9%	18.4%	2.6%	2.6%	0.0%
30歳代 (n=46)	47.8%	71.7%	30.4%	43.5%	37.0%	19.6%	23.9%	30.4%	21.7%	17.4%	13.0%	13.0%	13.0%	0.0%	6.5%	0.0%
40歳代 (n=63)	55.6%	50.8%	41.3%	41.3%	28.6%	31.7%	30.2%	22.2%	15.9%	22.2%	12.7%	20.6%	22.2%	3.2%	9.5%	3.2%
50歳代 (n=70)	62.9%	55.7%	40.0%	40.0%	28.6%	20.0%	11.4%	15.7%	11.4%	18.6%	18.6%	15.7%	15.7%	0.0%	2.9%	2.9%
60歳代 (n=93)	59.1%	53.8%	39.8%	36.6%	40.9%	40.9%	24.7%	24.7%	21.5%	17.2%	18.3%	17.2%	9.7%	1.1%	2.2%	3.2%
70歳以上 (n=78)	62.8%	38.5%	43.6%	25.6%	37.2%	34.6%	33.3%	24.4%	20.5%	9.0%	15.4%	14.1%	9.0%	1.3%	3.8%	11.5%

Ⅷ 自由記述

最後に、「男女平等」や「男女共同参画」に関するご意見・ご要望がありましたら自由にお書きください。

◇20 歳代◇ 13 件
■三芳町に限ったことではありませんが、女性がどんなに意識を高く持っても男性の意識が変化しなければ社会は何も変わりません。男女平等をうたうのであれば、まず、男性の意識を変えていくべきです。（藤久保地区、女性）
■いくら意識改革やセミナーを聞いたところで根本的な原因をはっきりさせない限りDVは無くならないと思う。(DV以外も)しかし改善策は1つだけではないでしょうしそう簡単にはいかない問題だと思えます。（藤久保地区、女性）
■平等にする事は難しいと思う。男女にはもともと違いがありそこを平等にするという事は私にとって平等でないと思っている。もしその違いを平等にしたいと思うならその違いが埋まるほどの努力をするしかないと思う。そしてその手伝いを町がすればよいと考えている。努力もなしに変わりたいと思う事は間違っている。（藤久保地区、男性）
■もっとLGBTの方にとって住みやすい街づくりや雰囲気強化すべき（北永井地区、女性）
■男女で全てが平等という訳にはいかないと思う。体力、体格差はどうしてもあるし、男は子供を産めない。それぞれの能力の差を認識し、その上で個々ができることをする世の中になればいいのになあと思えます。ドメスティックバイオレンスに関しては保護申請を出した場合の接近禁止令が半年というのは短すぎると思えます。たかだか半年で人は変わらないし、恐怖も消えないと思えます。（竹間沢地区、女性）
■平等で柔軟な社会になることを望んでいます。（藤久保地区、女性）
■私自身が男女の差別をとくに感じたことがないので、その経験をされた方のことを思うと、改善した方がいいと思うが、無理に女性リーダー(?)の比率を上げなくてはとは思わない。やりたい人がやれば良いと思う。女性が立候補した際に、女だからと思われるなら何か協力したいと思う。（藤久保地区、女性）
■我々若い者にとって「～だから」という偏見はほとんどない。友達には外国の人、ハーフ等の人もあるし、女性でもとても責任ある立場に立っている人もいる。もし男女平等を語るなら、今責任ある立場の人の世代への対策が必要なのでは?少なくとも自分ら周りには偏見はない。我々若い者が責任ある立場になったとき、このようなアンケートをする必要ない未来に期待する。（藤久保地区、男性）
■社会、職場、家庭での環境面整備強化と相互信頼が必要と考えます。まず必ず、選挙権行使が必須。能力あるものに男女の壁なし、ただし先見と洞察力のあるリーダーが必要。育った生活環境が違う人同士が生活するうちお互いにストレスがたまり、マグマが破裂したとき人間は攻撃や暴力をふるうことで自己防衛しようとするものです。縁あって一緒になったことを忘れない相互信頼と創意工夫の生活構築が必要。性の時代には考えられない事なのでいいコメントがみつかりませんが個人的な社会ルールの順守があれば寛容な気持ちで接すればノープロブレム（竹間沢地区、男性）
■男女共同参画として高齢者などの施設を増やしてほしい。子供には世話になりたくない迷惑をかけたくない、できれば安く入居できる施設を充実させてほしい。これからの時代年金も支払われるか不安。掃除や食事なども居住者が協力しながら行えたらいいのではないか（藤久保地区、女性）
■私自身としては男女平等も不平等も特に意識していない。仕事では能力で見るべきだし。ただし、社会の仕組み自体がまだまだ女性に不利なことが多いのかと思うので、個人の意識会社側の意識等個々を変えていくのが大切だと思う。行きすぎの優遇も気をつけてバランスよく推進することが良い（みよし台地区、男性）
■相談窓口で話しても長期にわたって関わってくれる体制がないことが残念。担当者が異動してしまったりこちらから話をしないと解決したと思われてしまったり、その後はどうですか?の電話やはがきだけでも救われると思う（北永井地区、女性）
■女性が選挙の為の立候補・投票に参加できるようになるまでに血のにじむような努力が必要であったように男女共同参画の実現にも長い時間が必要。たゆまぬ努力が必要。そのための意識の啓発活動、学校教育の場での平等意識の啓発が必要です。（みよし台地

区、男性)
◇30 歳代◇ 12 件
■待機児童の解消、幼稚園の時間短縮、費用抑制が解消されれば女性も社会に進出復帰しやすくなると思う。幼稚園に入っても年々帰園時間が繰り上げになり親が子供の面倒を見る時間が長くなり負担となっている。幼稚園の保育士の拡充、支援も合わせて必要。(藤久保地区、男性)
■女性だからという理由で昇進などの機会が与えられないのはもってのほかだと思いますが女性だからという理由で役職を与えるのも間違っていると思います。個人の能力を正に評価するという事が大切なのではと考えます。(藤久保地区、女性)
■どういことがDVになるのかがよく知られていない。当事者がこれはDVだと認識することが大切。DVから逃れるためにはまず経済力が必要(みよし台地区、女性)
■男女平等はとても大切な事だと思います。(藤久保地区、女性)
■LGBTが世の中の的にだんだん理解されている事はいいことだと思う。それがもっと普通になったらいいと思います。知り合った人がLGBTだからちょっとではなくまずその人の人間性を見て普通に付き合えるようになって欲しい。偏見の気持ちをもたずに小学生のころに知り合ったLGBTの友人とは今でもずっと友人です。相手の方もそう思ってくれてると思います。(藤久保地区、女性)
■実際に男女平等に働きたい(要職に就きたい)女性から意見を聴取すべきだと思う。また、上記女性に具体的な将来設計のアドバイスが出来るのであれば男女共同参画は出来ていると思われる。(みよし台地区、女性)
■出産を行うのは女性であり、性差による区別があるので「男女平等」という言い方に違和感は感じますが、性別に関係なく、自分の生活する為のお金は自分で稼ぎ、夫婦2人の子である子供たちの養育、教育は2人で協力して行うべきだと思います。またその為の社会の支援の充実を願います。女性(または男性)に対する暴力を無くす為、幼少期からの性教育の充実を推進してほしいです。家庭や学校における性教育が日本は著しく遅れていると思います。(藤久保地区、女性)
■いちいち名前をつけず「男」「女」と言ったらセクハラにする。周囲から白い目で見られる環境を作るよう、「当たり前」と言い続けることが大切だと思います。(藤久保地区、男性)
■アンケートの聞き方に男女の不平等を感じます。女性を支援しようとか法整備をしようとかそれ自体が問題。女性を特別視して男女の差を意識させていると思う。同じ人間として社会をよりよくする為にどうしたらよいかを話し合い進めていくべきだと思います。(みよし台地区、男性)
■夫婦とも正社員8時間働かねば子供を育てるに十分なお金を稼げないのが辛い。8時間+通勤時間+睡眠で1日が終わるので何のために生きているのかわからなくなる。男女共時短や在宅など色々な働き方が浸透してほしい。海外から日本に戻ると日本女性がものすごく可愛く見える。顔立ちが幼いのもあるが、自ら化粧や服で女性らしくしすぎだと思う。男性からそれを求められていることもあるが、女性自身も過度に女らしさをふりまくのはよくないと思う。(北永井地区、女性)
■上記のような問題に対する取り組みは、近年になってようやく行われるようになってきたがまだまだすぐに改善、解決することは難しいことだと思います。これまでの日本経済、社会を引っ張ってきた日本企業(特に大企業)にも、古い考え方、やり方が根強く残っている現状があり、これは自治体だけではなく、民間企業も本気で取り組んでいく必要があると感じました。ぜひ、三芳町の取り組みを全国の自治体、民間企業に発信していただき“町”だからこそできるスピード感、行動力を活かしていただきたいと思います。そのために必要なことであれば私自身も町民として協力させていただきたいです。(藤久保地区、男性)
■女性の収入が男性より少ないことが問題。主夫がもっと多くてもいいはず、主婦が多いのは女性が働いても収入が少なく一家の生計が成り立たないから(藤久保地区、男性)
◇40 歳代◇ 12 件
■一人ひとりの意識改革。管理職の本気度が試されると思う。研修を受けても実際の場になると従来からの固定概念が優先されているケースが多い。町職員を含め。(竹間沢地区、女性)
■環境などは人それぞれ違うので柔軟に対応できるケアが必要(北永井地区、女性)
■町内の図書館(学校の図書室含む)で、上記のキーワードに関する書籍を計画的に増や

<p>し読書会や読み聞かせなどの活動を展開してはどうでしょうか？識者による公開講座や講演会を開催して欲しいです。（藤久保地区、不明）</p>
<p>■男女平等→平等を目的とする物でクォーター制等はそもそも平等でない。評価を平等にすべき。職種によって評価が変わるべき。男性が家計を支えるという考えも変えるべき。DV→刑罰によって処分が必要。政策による介入の範囲を広げないとなくなる。LGBT→何も問題ない。何が差別されているのかが分からない。（藤久保地区、男性）</p>
<p>■何かを始めることよりも男性女性関係なく考え方を改め意識を変えていく事が必要（藤久保地区、女性）</p>
<p>■アメリカなどの先進国から学べる事が多いと思うので、もっと参考にすれば良いと思います。女性リーダーが当たり前の国が多い中で、日本は本当に遅れていると思います。先進国の中でそれはとても恥ずかしい事だと自覚しない限り、日本の男女平等が広まる事はないでしょう。（藤久保地区、女性）</p>
<p>■世間ではまだまだ差別がなくなりませんし、これからも恐らくなくなることはないと思われませんが、多様な考え方、とらえ方があるのだと、みんなが思える世の中になればいいと思います。（藤久保地区、女性）</p>
<p>■DVについて、DVを受けている本人にしか分からないことや不安があります。相談しても、行動に移すにはかなりの勇気がいります。DVをする人は、ほとんどが執着心が強い人だと思います。逃げた後、子供はどうするのか。両親の元へ脅しに行ったりしないか。など不安な事ばかりで結局イエスマンにならざるをえない人は、たくさんいると思います。町だけでなく、警察が主体となり防ぐ事が大事だと考えます。男性からの言葉の暴力、力での暴力はこれから先もなくなりません。（藤久保地区、女性）</p>
<p>■予算や人材など限られているので全ての問題を今すぐという訳にはいかないと思いますが、出来ないから目をつぶってしまうのではなく一つ一つ問題解決に向けて常に前進していける行政であってほしいと思います。（藤久保地区、男性）</p>
<p>■男女平等といっても、子供がいる場合、女性が働くのは厳しい。子供が熱を出した時、会社を休まなきゃならないのは結局父親ではなく母親。学費が高いためパートはしていますが、扶養が150万までと枠が広がったのに社会保険料106万以上稼いだら加入しなければならず、106万未満におさえて働く主婦が非常に多い。学費補助制度に関しては、年収900万以上あっても子供3人いたら学費は厳しい。一人しかいないのにたくさん補助を受けられている人もいるのに納得がいかない。（藤久保地区、女性）</p>
<p>■女性と男性は平等にはなりません。言葉ばかりが先走っているように思います。DVもDVする男性を感じられる本能的な勘のない女性が多いように思います。もう少し人と関係をもつという事に相手との距離の取り方、昔の人の言葉で言えば「間合いを図る」事が下手な頭の悪い女性が増えたからDVも増えたと思います。社会も学校も平等という言葉ではなく、男性と女性の違いを認め、お互いが助け合うのが真の平等を教える事が大切だと思います。そうすれば「LGBT」の人に対しても自分との違いを認められ差別意識は薄まると思います。そういう人を「気味が悪い」「頭がおかしい」と思うのは当たり前でありその感情を無理に抑える方が逆に違和感を強めると思います。（藤久保地区、女性）</p>
<p>■70代の義父母は自分の考えのみを押し付け、少しでも意見を言うと怒鳴り散らし、馬鹿嫁となじり孫にも同じ。20年以上一緒に暮らしているが全く変わらず、今でいうパワハラ、モラハラがひどすぎる。でもこんなことを相談なんてできるわけもなく、自分が我慢することで、家族、子供を守れるなら友人に愚痴る程度です。聞く耳を持たないので話し合いにもなりません、女は黙れという考え。こういう考えの親世代が多いので困ります（上富地区、女性）</p>
<p>◇50歳代◇ 14件</p>
<p>■身近にDVやLGBTの人がいないのでよく分かりませんが、町に気軽に相談できる体制がしっかり整備され、広く町民に知られていけば悩みを持つ人々には、助けになると思います。情宣活動も大事だと思います。（私の様に仕事漬けで、ほとんど家にいないので、情報を得ようとしないのも問題ですが。）（北永井地区、男性）</p>
<p>■一口に男女平等と何をどこまでにして平等といえるのか。本当の意味での平等が分からない。（北永井地区、男性）</p>
<p>■男女平等、男女共同参画社会が真に実現して欲しいと願っていますが実際に子育てしながら働き方に社会活動も行っていくのは相当のストレスや負担が掛かります。子育てがほぼ一段落した今正直に感じるのは2度とあんな大変な思いはしたくないし、できない</p>

<p>ということです。生身の人間を育て上げるのは工場の生産ラインで物を作るのとは違います。安心して子育てに専念して、しっかり復帰の場やチャンスを用意するシステムが確立される事を願っています。（みよし台地区、女性）</p>
<p>■お互いに意識しすぎないような環境を作る（竹間沢地区、男性）</p>
<p>■今の若い人たちはそれぞれ自分に合った事、できることをうまく見つけている様に思いますが、年齢が上の方達は未だに男はこれ、女はこれのような考えかたが多いような気がします。人の考え方はなかなか変えるのは難しいのでしょうか？特にこのようなアンケートを出している町や国の仕事にたずさわっている方にも多いかと思えます。今は昔はこうだった、何に対しても通用しないようになってきているのかなと思えます。でも、昔ながらの良い所、今風の良い所いろいろあってよい町になれたらいいなと思えます。（竹間沢地区、女性）</p>
<p>■ドメスティックバイオレンスについてですが相談窓口の充実化や町の支援機関を作ってもいいと思う（藤久保地区、女性）</p>
<p>■学校で男子校、女子校とあるが他の性別の人と関わりをあまりもちたくない人もいるのだから全て共学にすることは無いと思う。LGBTとかその人の個性でもあるので全て共同、同じとはいかないのではないかな。古い習慣の中には意味があるものもある。何でも同じとはいかない。そうなるには時間が掛かると思う。（竹間沢地区、女性）</p>
<p>■私の会社では年に一度これらをテーマにした研修があります。三芳町でもそういったことを行ったらいいと思えます。町民全員を集めての研修は無理ですが、自動車免許の更新時のようにDVD視聴をする等して意識を高める事が必要ではないでしょうか。男女の差という事以前に人間についても考えるべきだと思えます。（北永井地区、男性）</p>
<p>■男と女は同じではないが、その違いをお互いで認め合い尊重しあい差が無いところでは平等としていきたい。わたし達の子供のころは男らしく女らしくと言葉はよく聞き、男女の差があった。それが当たり前として育ってきたので今までも頭では平等がよいと思っても気持的にゆらぐ事がある。子供のころからの教育（男女平等）が必要だと思う。（上富地区、女性）</p>
<p>■全てにおいて同じにすることが平等ではない。得手、不得手を理解しあう事だと思う。（藤久保地区、男性）</p>
<p>■「LGBT」について自分はほとんど知らなかった事ですが、娘が突然「女性が好き」と告白され、LGBTの話を知りました。娘の考えはまだ社会的に浸透されてなく、肩身の狭い思いをしているので、堂々と宣言でき、認めてもらえる世の中になってほしいということでした。私も娘を信じ、好きなように生きてほしいと願っています。少しでも理解してもらえるように支援や意識啓発活動など積極的に行っていただきたいと思えます。（藤久保地区、女性）</p>
<p>■男女平等とはいっても、女性は出産できても男性には出来ない等区別しなければならないことをどうするかは難しい問題だと思います。（産休の間は短期間であっても仕事を休むことになる等）差別はしてはいけないが男女問わずその人にあった対応をする、区別（？個別対応）をどう実現するか。（藤久保地区、女性）</p>
<p>■それぞれの立場状況、環境など多様性が進んでいること、増えていることを理解し、受け入れていく社会を作っていく必要がある。自分の会社ではダイバーシティなど企業としては進んでいると思うが、まだまだ世の中の認知度は低いと感じる。（藤久保地区、男性）</p>
<p>■最近では男女平等の意識が高くなってきているのではないかと感じていました。職場で結婚後も働いている女性が増えてきていると思えます。働く女性に優しい子育て支援など引き続きお願いします（北永井地区、女性）</p>
<p>◇60歳代◇ 16件</p>
<p>■時代と共に変化しつつありますが、この問題ばかりではなく女性が声をあげる事が大切だと思います。未来の子供達のためにも。（藤久保地区、女性）</p>
<p>■一般社会生活の中で役場中心にもっと女性（若い世代）の役割分担範囲を積極的に拡張し活動の場を増やし参画行動していただき、新鮮な意見を聞き住みやすく働きやすい環境町作りに改善、反映していただく事が大切である。その為にも男女格差をなくし女性（若い世代の）地位向上に努める事が将来的に三芳町発展に寄与、貢献できると確信いたします。（藤久保地区、男性）</p>
<p>■社会体制が女性進出を阻害するような構造になっているのに加えて女性らがそれを許容する（仕方ないと）風潮が男女平等を妨げている。最大の課題は出産と育児の負担を</p>

<p>どの様に男女に均等に分担するか。特定の意欲ある女性だけではなく一般の女性が自然に働ける社会体制が必要。（竹間沢地区、男性）</p>
<p>■男女平等、男女共同参画もよいが社会問題にもなっている虐待について議論等必要に思われる。三芳町から絶対に起きないようにお願いしたい（藤久保地区、男性）</p>
<p>■相談窓口の充実（北永井地区、男性）</p>
<p>■男女それぞれが本来的に持っている特質（強さ、弱さ）をまずは相互に理解する事が基本であり、本アンケートは男女区別ありきの画一的な問いが多すぎると考えます。男女共同参画社会の実現を目指す上での根本は人間性の素ともなる人としての誠実性や他の人への思いやりの意識を高めていく事が大切だと思っています。その為の教育の充実を強く要請します。（みよし台地区、男性）</p>
<p>■男女平等は何を持って考えられているのか？男と女は体に大きな違いがあります。働く事にならないようにして欲しい。ヨーロッパや北欧のように30万～40万で豊かな生活ができるように変えた政策を目指したら男女とも楽しい生活があるのではないかと思います。（藤久保地区、男性）</p>
<p>■個人個性を重んじる。変な平等が通らないようにして。その為の男女共同参画でありたい。（北永井地区、女性）</p>
<p>■男女平等の社会を実現して欲しい（藤久保地区、女性）</p>
<p>■男女とも将来の家庭の円満や老後の一人暮らしなどを考えると、学校等で家事及び生活に密着した実用的な知識及び技術をもっと教えるべきだと思います。（上富地区、女性）</p>
<p>■同性愛者が婚姻を認めよと騒いでいるが、戸籍上の養子縁組という扱いではダメなのか？同性愛者の心理がわからない。彼らは子孫繁栄や未来につなげていない。世の中には実に様々な人々がいて趣味も思考も千差万別です。男女平等とかは考えなくてよい自分の特技や特長を活かして社会に貢献していけば良い。（上富地区、男性）</p>
<p>■もうすでに実施しているかもしれませんが何かの取り組みにおいて会議等で打ち合わせ決議をする際男性、女性の割合を50%にするのはいかがでしょうか（藤久保地区、男性）</p>
<p>■LGBTに関して、私は渋谷区役所に勤務しており同性パートナーシップ制度を導入していますがLGBTで悩んでいる方々に権利を認めることが少しでも社会の中で過ごしやすくなることにつながるのであれば実行したことは意味があるのだと思っています。法的拘束力はありませんが大切な人と寄り添って生きていける社会を作っていくことは大事なことだと思うので、今後も様々な自治体に広がっていくことも願います（藤久保地区、女性）</p>
<p>■人それぞれ向き不向きや好きなこと、苦痛な頃が様々で男女共同といっても家庭を持って仕事をして家事子育てを男女ともに分担というのは荷が重すぎて長続きをしないような、男女平等、男女共同参画は一人で考えてのどうにもって感じです。色々な考え方を持っている人がいると思うのでアンケートもよいと思いますが意見交換できる場があれば改善策といういろいろなやりかたが広がるのではないのでしょうか（藤久保地区、女性）</p>
<p>■男女よりも人として平等でありたいと思いますができる人出来ない人がある。人を思いやるのが難しいです（竹間沢地区、女性）</p>
<p>■行政の男女平等を労働力アップに為に使ってはいけない、あくまでも人としての平等であるということだと思う。現在のような人々の関係の薄い時代ではせめて10歳くらいまでは子供らしく、育てる教育を。子が親を、親がかわいい盛りの子供を殺す異常な時代民族の終末？人としての成功にはいろいろあることを幼少のころから教育すべきでは。先人の苦勞によって今現在がある、自分にも周りの人達にも感謝との教育を。そうすれば男女平等の本当の意味が理解されていくのでは（北永井地区、男性）</p>
<p>◇70歳以上◇ 15件</p>
<p>■古い考え方もかもしれませんが男性女性それぞれ体型も違うのでお互いに理解しあって女性の役割男性の役割が大事で何もかにも同じでなければならないという考え方には抵抗を感じる。男性らしさ女性らしさの良い点を無くすのはいかがだと思います。どちらの良い点も認め合って尊重する事が大切だと思います。（みよし台地区、女性）</p>
<p>■昔と今では違います。今は時代がよくなりました。わたし達は何も無い時代でしたが今は恵まれています。贅沢すぎます。（竹間沢地区、男性）</p>
<p>■女性の側にまだまだ変化をおそれ一歩引いて後で言葉で愚痴の連鎖がある。女性の自立、主張の表現力を講演等で教える必要があると思う。（ケースバイケースの柔軟性不</p>

<p>足) 男性に不満を言う前に適材適所の見出ししかた男性だから〇〇女性だから〇〇ではなく家庭の中での対話の重要性が解決の一步、又は講演をもつ。(藤久保地区、女性)</p>
<p>■男女平等のための法律や制度などの整備を充実して欲しい(藤久保地区、男性)</p>
<p>■配偶者に対する暴力は子どもたちにも影響し、子供が大人になり同じことをしないか不安です。女性は結婚して家庭に入り、再就職したいが40代でもフルタイムの仕事はあまりなく、パートの仕事しかない。子供を見てくれる祖母でもいれればいいが難しい。(藤久保地区、女性)</p>
<p>■国や企業の政策や問題提起としては、新聞やテレビで目にすることがあっても、足元の町政への意識が薄い事を感じました。(みよし台地区、女性)</p>
<p>■男女平等は非常に難しい。国や地方自治体で「シンケン」に考えてほしい。(藤久保地区、男性)</p>
<p>■政治家及び地方役所職員の意識改革必要。(藤久保地区、男性)</p>
<p>■男女平等。男女とも同じ扱いを受ける。男女同権、男女とも同じ権利を有する等々ありますが、男女同質ではないことを認識し質の違いがあることを認識して生活をする必要があると考える(藤久保地区、男性)</p>
<p>■男女平等という女性社会進出等が問題と見られがちですが職業の業種によっては女性の方が多い職場、例えば保育士、教員、看護師等、は反対に男性の就職や偏見等もまだまだあると思います。少数ではありますが、きっと男性でも保育士や看護師になりたい方々もいると思います。そういった方々への偏見等がなくなればいいなと思います。男女平等はしっかりと考えるべきだと思います(藤久保地区、女性)</p>
<p>■男らしさや女らしさよりもその人らしさを。男女平等や男女共同参画やLGBTの共通する問題は、男らしさ女らしさを求めてその人らしさを求めないことにあるのではないのでしょうか。その人らしさを広く求めることで、これら3つはある程度解決することができるのではないのでしょうか。そのようなことが実現すれば、もしある男性が家事が好きで得意であれば女性に仕事をさせ自分が主夫になることに周りも何も言わなくなると思います。そのほうがとてもその人らしいからと認められるからです。ドメスティックバイオレンスをする人は人を物のように扱う、あるいは考えているのではないのでしょうか。人は所有したり売り買いしたりすることはできません。しかし物は所有することも売り買いすることもできます。レスリング界で起きた問題も根底に同じがあるように感じました。つまり選手はなぜ自分の物だと考えたコーチがなぜいたのかを考えるべきです。ドメスティックバイオレンスは自分の所有物だと考えているから思うままにしよう、あるいはしたいと過激な行動に及んでしまうと感ずます。こう考えると、ストーカーもドメスティックも根は同じなのかもしれません、行う行為が違うだけで。(藤久保地区、男性)</p>
<p>■今時代の流れがそちらに向いているから、自分たちもついて行こうなどと十分に考えないのはよくないと思います。そういう人がいたら戒めてほしい。ドメスティックバイオレンス、LGBTに対しても加害者の苦しみを充分理解しそちらも一緒に考えて解決していかないと根本的解決にならない。LGBTは当事者以外の人、なぜそのような感情になるのか一般の人は興味ないし十分に気持ちがわからない人が多いのでは、男女平等も今までの役割分担は適材適所という側面もあったのではないか行きすぎは、どちらに行きすぎてもまた不満が出るのではないか、皆が、納得できる新たな日本、三芳町になってほしい三芳町から国に理想像を発信できるようなことになればうれしく誇らしい(藤久保地区、不明)</p>
<p>■男女平等って何でしょうか、私にはよくわかりません。個々の考え方や時代によって変わっていくものだと思います。長い間日本は男尊女卑の時代があり、この垢が染みついてきているのだと思います。日本女性の社会進出は世界的にみるとまだまだのようですがだんだんとよくなっていくと思います。要は、男が女を、女が男を思いやることが男女平等につながるのかなと思っています(藤久保地区、男性)</p>
<p>■制度、法律が現在の社会に追いついていない。また本音と建前が見え隠れしている。いざ自分事となれば、男女を意識して平等は関係なくなってしまう。幼いころから男女平等を理解、意識させないと本音と建前は続くだろう(藤久保地区、男性)</p>
<p>■LGBTは、個人的にはまだ受け入れられるのに時間を要します。(竹間沢地区、男性)</p>

4. 調査票

三芳町男女共同参画に関する住民意識調査

ご協力をお願い

日頃より町政にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

三芳町では、男女が対等な立場で責任を担いながら、あらゆる分野でそれぞれの個性や能力をのびのびと発揮できる、男女共同参画社会の実現をめざして「第3次三芳町男女共同参画基本計画」を策定し、さまざまな施策に取り組んでまいりました。来年度が中間見直しの年にあたり、平成28年度以降の住民の皆様の男女平等意識や男女共同参画の実態を把握し、参考とすることにより、計画の見直しに反映させるため、「三芳町男女共同参画に関する住民意識調査」を実施させていただきます。

この調査の実施にあたり、町内にお住まいの20歳以上の方1,000人を住民基本台帳から無作為に抽出した結果、あなた様にご回答をお願いすることになりました。ご回答はすべて無記名で行い、統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、率直にご回答ください。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、より多くの皆さまのご意見を反映いたしたく、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年7月

三芳町長 林 伊佐雄

《ご記入にあたってのお願い》

■ 調査の対象者

- ◇ 三芳町に居住する20歳以上の住民1,000人を無作為に抽出し、実施するものです。
- ◇ 封筒の宛名の方が対象者ですので、ご本人が回答してください。（ご本人の記入が困難な場合は、身の回りの世話をしている方が聞き取りするなどして、できるだけ回答にご協力ください。）

■ 記入方法

- ◇ 選択肢の設問については、該当する番号に○をつけてください。
- ◇ 自由回答（記入式）の設問については、あなたのお考えを簡単にまとめて回答欄に記入してください。

■ 返送方法と締め切り

- ◇ 回答をご記入後、同封の返信用封筒にアンケート用紙を入れ、お近くの郵便ポストに投函してください。 **8月20日（月）までにご返送をお願いします。**

■ お問い合わせ先

- ◇ このアンケートについてのお問い合わせは、下記へお願いします。

三芳町役場 総務課 人権・庶務担当

電話 258-0019（内線404・405）

I あなた自身について

【問1】 回答者ご自身のことについてお聞きします。次の（ア）～（キ）の各項目について、お答えください。

（ア）居住地区	1 上富地区 4 竹間沢地区	2 北永井地区 5 みよし台地区	3 藤久保地区
（イ）性別	ご記入ください。 ()		
（ウ）年齢	1 20～29歳 4 50～59歳	2 30～39歳 5 60～69歳	3 40～49歳 6 70歳以上
（エ）就労形態	1 農業（家族従事者を含む） 3 常勤の勤め（会社員・公務員・教員など） 4 派遣・契約社員 6 在宅の仕事（内職など） 8 家事専業 10 学生		
（オ）三芳町での居住年数	1 2年未満 4 10～19年	2 2～4年 5 20～29年	3 5～9年 6 30年以上
（カ）未婚・既婚	1 結婚している（事実婚を含む） 3 結婚したが離別・死別した		
（キ）家族構成	2 自営業（商・工・サービス業） 5 パート・アルバイト 7 自由業 9 無職（定年退職を含む） 11 その他（)		
	1 ひとり暮らし 4 親と子ども夫婦 6 その他（)	2 夫婦のみ 5 親と子どもと孫	3 親と未婚の子ども

II 男女平等意識について

【問2】 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。番号を選んで○をつけてください。（○は1つだけ）

- 1 そう思う } 【問2-①】～
- 2 どちらかといえばそう思う } 【問2-②】～
- 3 そう思わない } 【問3】～
- 4 どちらかといえばそう思わない } 【問3】～
- 5 どちらともいえない } 【問3】～

【問2-①】 前問（問2）で「1 そう思う」「2 どちらかといえばそう思う」とお答えの方にお聞きします。あなたが、そう思う理由は何ですか。

（○は2つまで）

- 1 男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから
- 2 自分の両親などがそのようにしてきたから
- 3 夫婦の役割をはっきりさせるほうが、仕事も家庭もうまくいくから
- 4 女性は、仕事を持って不利な条件におかれているから
- 5 社会全体にそうした風潮があるから
- 6 その他（)

【問2-②】 前問（問2）で「3 そう思わない」「4 どちらかといえばそう思わない」とお答えの方にお聞きします。あなたが、そう思う理由は何ですか。

（○は2つまで）

- 1 男女ともに仕事を持つのは当然だから
- 2 家事・育児は、男女で協力してやるべきだから
- 3 仕事と家庭は、男女のどちらかが分担してもよいから
- 4 性別で役割を固定化することは、個人の可能性を狭めるから
- 5 その他（ ）

Ⅲ 家庭生活（家事・子育て・介護）について

【問3】 あなたは、（ア）～（ケ）にあげることを日常どの程度おこなっていますか。

（○はそれぞれ1つ）

	いつも している	ときどき する	ほとんど しない	まったく しない	する必要が ない
（ア） 食事のしたく	1	2	3	4	5
（イ） 食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5
（ウ） 洗濯	1	2	3	4	5
（エ） 掃除	1	2	3	4	5
（オ） ごみ出し	1	2	3	4	5
（カ） 介護	1	2	3	4	5
（キ） 育児・子育て	1	2	3	4	5
（ク） 学校行事等の参加（保育所・幼稚園含む）	1	2	3	4	5
（ケ） 子どもの送迎	1	2	3	4	5

【問4】 平日にあなたが家事・子育て・介護にかかわる時間は、平均すると1日何時間くらいになりますか。（○は1つだけ）

- 1 30分未満
- 2 30分以上1時間未満
- 3 1時間以上2時間未満
- 4 2時間以上3時間未満
- 5 3時間以上4時間未満
- 6 4時間以上5時間未満
- 7 5時間以上6時間未満
- 8 6時間以上7時間未満
- 9 7時間以上8時間未満
- 10 8時間以上
- 11 特にしていない

【問5】 家庭での子育てや、学校での教育に関する（ア）～（カ）の考え方について、あなたは
 どう思いますか。 **（○はそれぞれ1つ）**

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
（ア）男の子は男らしく、女の子は女らしく、育てるべきである	1	2	3	4
（イ）家事は男の子・女の子にかかわらず、平等に手伝わせるべきである	1	2	3	4
（ウ）男女の身体の違いや、それに伴う性教育は、子どものときから教えたほうがよい	1	2	3	4
（エ）児童・生徒の名簿は、五十音順にするなど混合名簿にし、男女で分けないほうがよい	1	2	3	4
（オ）技術・家庭科などを通じて、男女ともに、実際的、実技的な教育を行うことが必要である	1	2	3	4
（カ）男の子には「くん」、女の子には「さん」という、性別によった呼称にすべきではない	1	2	3	4

【問6】 一人の女性が生涯に産む子どもの数の平均は、1.44人（2016年）となっています。少子化の要因は何だと思えますか。 **（○は3つまで）**

- 1 社会の将来を考えると、子どもにとって明るい未来とはいえないから
- 2 出産・子育てが女性の自立の妨げになっているから
- 3 子育てよりも自分たちの生活を楽しみたいと考えているから
- 4 女性の結婚年齢が上がったから
- 5 子育ては経済的負担が大きいから
- 6 子育ては精神的・肉体的負担が大きいから
- 7 子どもは少なく産んで、十分に手をかけて育てたいという人が増えたから
- 8 子どもを育てるということに魅力を感じない人が増えたから
- 9 住宅事情がよくないから
- 10 保育施設、育児休業制度などが十分整っていないから
- 11 育児に対する配偶者(パートナー)の理解や協力が足りないから
- 12 その他 ()

【問7】 あなたの家族の中で介護の必要な方がいる場合に、どのように対応しますか。現在介護をしている方は、今後の希望としてお答えください。 **(〇は1つだけ)**

- 1 自分で介護する
- 2 同居の家族で介護する
- 3 同居していない親族に頼む
- 4 介護サービスを利用しながら自宅で介護する
- 5 介護施設を利用する
- 6 まだわからない
- 7 その他 ()

【問8】 あなたご自身が、介護が必要になった場合、誰に介護を頼みたいと思いますか。 **(〇は1つだけ)**

- 1 配偶者（パートナー）
- 2 娘
- 3 娘の配偶者
- 4 息子
- 5 息子の配偶者
- 6 その他の親族（兄弟姉妹など）
- 7 介護保険サービスの利用（デイサービスや施設入所など）
- 8 その他 ()

【問9】 今後、性別にかかわらず家事・子育て・介護を積極的に行っていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。 **(〇は3つまで)**

- 1 学校で男女平等意識を育てる教育をする
- 2 男女の役割分担をなくすための啓発活動をさらに進める
- 3 育児・介護休業制度の一層の普及を図る
- 4 男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することの抵抗感をなくす
- 5 女性が男性の家事参加への抵抗感をなくす
- 6 企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える
- 7 労働時間を短縮する
- 8 フレックスタイム制（※注）や在宅勤務などを普及させる
- 9 その他（具体的に)

（※注）フレックスタイム制・・・労働者が一定の定められた時間帯の中で、労働の始期と終期を自由に決定できる労働時間制

IV 就業について

【問10】 あなたは、働いたことがありますか。(パート、自営業、臨時、内職等も含みます)

(○は1つだけ)

- 1 現在働いている
- 2 以前は働いていたが、今は働いていない
- 3 今まで働いたことがない

【問10-③】へ(次ページ)

--> 【10-①】 前問(問10)で、「1 現在働いている」と答えた方にお聞きします。
あなたが働いて収入を得ている理由は、どのようなことですか。

(○は3つまで)

- 1 生計を維持するため
- 2 生活費補助のため
- 3 将来に備えて貯蓄するため
- 4 自分で自由になる収入がほしいため
- 5 自分の能力、技能、資格を活かすため
- 6 働くことが好きだから
- 7 社会や人とのつながりをもつため
- 8 社会的な信用を得るため
- 9 経済的に自立をするのは当たり前だと思うから
- 10 家業だから
- 11 その他()

--> 【問10-②】 前問(問10)で、「1 現在働いている」と答えた方にお聞きします。
あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。**(あてはまるものすべてに○)**

- 1 賃金に男女差がある
- 2 昇進、昇格に男女差がある
- 3 能力を正當に評価しない
- 4 配置部署が限られている
- 5 女性を管理職に登用しない
- 6 補助的な仕事しか担当させない
- 7 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある
- 8 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある
- 9 教育や研修を受ける機会が少ない
- 10 特に男女差はない
- 11 その他()

【問10-③】 前問（問10）で、「2以前は働いていたが、今は働いていない」「3今まで働いたことがない」と答えた方にお聞きします。あなたが、現在働いていない理由は次のどれにあたりますか。（○は3つまで）

- 1 経済的に困らないから
- 2 家事・育児に専念したいから
- 3 家事・育児と両立できないから
- 4 子どもの預け先が見つからないから
- 5 とりたてて働きたいと思わないから
- 6 介護をしているから
- 7 病気療養しているから
- 8 職業能力に自信がもてないから
- 9 希望や条件に合う仕事が見つからないから
- 10 趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから
- 11 家族の反対があるから
- 12 高齢だから
- 13 その他（ ）

【問11】 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。

（○は1つだけ）

- 1 結婚や出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける
- 2 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで働く
- 3 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで働く
- 4 子どもができるまでは仕事をもち、その後はもたない
- 5 結婚するまでは仕事をもち、結婚後はもたない
- 6 その他（ ）

【問12】 女性が長く働き続けるのを困難にしたり、障害になっているのはどんなことだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 家事・育児との両立
- 2 家族の介護
- 3 長時間労働などによる男性の家事・育児への参加が困難な社会システム
- 4 子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念すべきだとの意識
- 5 家族の無理解
- 6 職場の結婚・出産退職の慣行
- 7 長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分なこと
- 8 昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取扱い
- 9 女性自身の職業に対する自覚の不足
- 10 わからない
- 11 その他（ ）

(ス) 仕事を無理やり辞めさせられる	1	2	3
(セ) 生活費を渡さないなど経済的な制裁	1	2	3

※問14の(ア)～(セ)までの設問で「何度もあった、1・2度あった」に1つでも○があれば【問14-①、②】へ
○がなければ【問15】へ

▶ 【問14-①】 前問(問14)で1つでも「何度もあった」「1・2度あった」と答えた方にお聞きします。あなたは、その受けた行為に対して、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。 **(○は1つだけ)**

- 1 相談した } **【問15】へ**
- 2 相談できなかった
- 3 相談しようとは思わなかった } **【問14-②】へ**

【問14-②】 前問(問14-①)で「2 相談できなかった」「3 相談しようとは思わなかった」と答えた方にお聞きします。相談しなかった理由は何ですか。 **(あてはまるものすべてに○)**

- 1 どこに相談してよいのかわからなかったから
- 2 相談しても無駄だと思ったから
- 3 世間体が悪いから
- 4 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 5 相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから
- 6 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていけると思ったから
- 7 自分にも落ち度があると思ったから
- 8 他人を巻き込みたくなかったから
- 9 相談するほどのことではないと思ったから
- 10 思い出したくないから
- 11 その他()

【問15】 あなたは、配偶者等から暴力を受けた人への取組として、どのようなことが必要だと思いますか。 **(あてはまるものすべてに○)**

- 1 暴力防止のための啓発を進める
 - 2 被害を受けて悩んでいる人たちへ支援等の情報を提供する
 - 3 被害を受けた人たちのための相談体制・窓口を充実させる
 - 4 シェルター(※注)など被害者を保護する体制を充実させる
 - 5 被害者が自立して生活できるように支援する
 - 6 暴力をふるう加害者への対策を進める
 - 7 その他()
- (※注) シェルター・・・暴力を受けた被害者が緊急一時的に避難できる施設のこと

VI 地域での社会参画について

【問16】 あなたは現在、次のような地域の活動に参加していますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 町会や自治会などの活動
- 2 PTA、子ども会や青少年に関する団体の活動
- 3 趣味、教養、スポーツなどの活動
- 4 公園や集会所などの地域の施設整備活動
- 5 高齢者、障がい者、児童などの福祉活動
- 6 自然保護やごみ問題など環境保全に関する活動
- 7 政治や行政に関する活動
- 8 女性団体・グループなどの活動
- 9 国際交流・協力に関する活動
- 10 その他()
- 11 特に何もしていない

↓
【問16-①】 前問(問16)で「11 特に何もしていない」と答えた方にお聞きします。それはどのような理由からですか。**(あてはまるものすべてに○)**

- 1 仕事が忙しい
- 2 家事・育児が忙しい
- 3 病人や要介護者がいる
- 4 家族の協力が得られない
- 5 健康に自信がない
- 6 情報がない
- 7 一緒に活動する仲間がない
- 8 興味がない
- 9 その他()

【問17】 地域活動の担い手は、女性が多い傾向にあります。会長やリーダーに女性が少ない原因は何だと思えますか。**(○は2つまで)**

- 1 女性自身がリーダーになりたがらないから
- 2 女性は、組織活動の経験が少ないから
- 3 女性では、相手に軽く見られるから
- 4 指導力のある女性が少ないから
- 5 男性がリーダーとなるのが社会慣習だから
- 6 女性がリーダーだと男性がついてこないから
- 7 女性は、家事・育児などで地域活動に専念できないから
- 8 その他()

最後に、「男女平等」や「男女共同参画」「ドメスティック・バイオレンス」「LGBT」に関するご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

これで調査は終了です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。
8月20日（月）までに 同封の返信用封筒に入れ、ご返送ください（切手不要）。

三芳町男女共同参画に関する住民意識調査報告書

平成 30 年 9 月

三芳町役場 総務課

〒354-8555 埼玉県入間郡三芳町大字藤久保 1100 番地 1

Tel 049-258-0019 Fax 049-274-1055

HP <http://www.town.saitama-miyoshi.lg.jp/>